

和歌山県こころの健康に関する意識調査

結果報告書

平成25年4月

和歌山県

はじめに

社会環境の変化に伴うストレスの増加やうつ病など、こころの健康に関する問題に関心が寄せられています。また、自殺による死亡者数は平成 10 年以降、全国で年間 3 万人前後を推移しており、和歌山県では約 250 人前後の方が自ら命を絶つという深刻な状況です。

精神保健福祉センターでは、平成 21 年 9 月に自殺対策情報センターを設置し、自殺対策に関する相談や自殺対策に携わる方の人材育成を進めてきました。今回、自殺対策基本法に基づき、こころの健康や自殺に関する意識を明らかにするとともに、自殺を防ぐことができる要因を把握するために、県民の皆様へ、こころの健康や日常生活についておたずねさせていただきました。

この調査は、住民基本台帳法に基づき個人情報の取り扱いに注意して調査対象者を選定し、平成 24 年 7 月～8 月に実施したアンケート調査の結果を報告書としてまとめたものです。

今後は、この調査の分析結果に基づき、効果的な自殺対策を推進していきたいと思っております。

結びに、調査の実施に際してご協力いただきました県民の皆様へ厚くお礼申し上げます。

また分析においてご指導くださいました和歌山県立医科大学保健看護学部長山田和子教授はじめ、自殺対策専門部会の委員の皆様へ深謝いたしますとともに、今後とも自殺対策の推進により一層のご理解とご協力をいただけますよう、お願い申し上げます。

平成 25 年 4 月

和歌山県精神保健福祉センター所長 小野善郎

目次

I. 調査の概要	1
1.調査に至った経緯	
2.調査目的	
3.調査対象	
4.調査期間	
5.調査方法	
6.調査項目	
7.解析方法	
II. 調査結果（男女別・年齢別）	5
1.有効回答者（解析対象者）	
2.対象者の属性	
3.健康状態や生活習慣について	
4.地域生活について	
5.悩みやストレスについて	
6.和歌山県内にある相談窓口の認知度について	
III. 「1年以内に死にたいと考えたことがある」に関連する要因	57
1.対象者の属性について	
2.健康状態や生活習慣について	
3.地域生活について	
4.悩みやストレスについて	
5.和歌山県内にある相談窓口の認知度について	
IV. まとめ	63
V. 集計表	64
VI. 調査票	126

I. 調査の概要

1.調査に至った経緯

自殺対策基本法（平成 18 年 6 月 21 日法律第八十五号）第 11 条には、「国及び地方公共団体は、自殺の防止等に関し、調査研究を推進し、並びに情報の収集、整理、分析及び提供を行うものとする。」とある。

平成 23 年 12 月奈良県から、紀伊半島の隣接する奈良県、三重県、和歌山県で自殺の現状や意識を調査比較して対策に反映したいとの依頼があった。同じ紀伊半島ではあるが、奈良県は自殺率が近畿圏内で最も低く、和歌山県は最も高い（平成 23 年 12 月現在）。その差が何に由来しているのか要因を知ることは、今後の対策を考える上で重要と考えた。

三重県においてはすでに平成 22 年度に同様の調査を実施していたので、今回は比較可能な場合はデータを活用することにした。奈良県と和歌山県の 2 県については平成 24 年度に実施するため、合同で調査内容を検討し素案を作成し実施に至った。

2.調査目的

和歌山県における県民のこころの健康や日常生活の実態を明らかにし、こころの健康・自殺に関連する実態を把握し、今後の対策の参考とする。

3.調査対象

和歌山県内に居住する 20 歳以上の方から、年齢構成比率に基づいて人口の約 0.5%にあたる 3,189 名を無作為抽出した。なお、対象者の抽出については、住民基本台帳法に基づき、市町村へ協力依頼を行い実施した。

4.調査期間

平成 24 年 7 月 17 日～8 月 10 日

5.調査方法

調査方法は、無記名自記式質問紙調査とした。県民の方への事前の周知については、報道機関に情報提供を行うとともに、県民の友への掲載を行った。調査票の配布は精神保健福祉センターから、対象者あてに郵送した。回収は返信用封筒による密封回収とし、個人情報の保護につとめた。また、調査の回収率をあげるため、回収期限の 1 週間前に提出依頼はがきを郵送した。

6.調査項目

調査項目は、健康状態や生活習慣について、地域生活について、悩みやストレスについて、

和歌山県内にある相談窓口について、対象者の属性の5項目から構成されており、各項目の設問内容（選択肢数）は以下のとおりである。ただし、選択肢数については、3つ以上の場合のみ記載している。

1) 健康状態や生活習慣について

現在の健康状態（4）、医療機関を受診する機会（3）、最近1ヶ月の睡眠状況（4）、最近1ヶ月の睡眠時間（6）、よく眠れない日が2週間以上続いた場合の対応（8）、ストレスで病院を受診した経験（3）、飲酒の有無、飲酒頻度、飲酒時のお酒を飲む人数、飲酒場所（3）、飲酒量（4）、飲酒状況4問¹⁾である。

2) 地域生活について

地域の居心地（4）、地域の住人があなたを知っていると思う程度（4）、地域の人にどう思われているか気になる程度（4）、住人の問題解決力（4）、地域との関係（4）である。

3) 悩みやストレスについて

最近1ヶ月間で感じた家庭問題の悩みと具体的内容（7）、家庭問題以外の悩み、悩みやストレスについて相談できる人の有無、悩みやストレスについてよく相談する相手（7）、悩みやストレスを解消するためによく行うこと（14）、悩みやストレスなどを相談したり、助けを求めることを恥ずかしいと思うか、過去1ヶ月間の精神状態6問（各5）²⁾、最近1年以内に「死にたい」と思ったことがあるか、「死にたい」と思った主な原因（7）、「死にたい」気持ちがとどまった要因（10）である。

4) 和歌山県内にある相談窓口の認知度について

市町村役場内の福祉課・保健センター（3）、県子ども・女性・障害者相談センター（3）、自殺対策情報センター「はあとライン」（3）、いのちの電話、保健所（3）である。

5) 属性について

5歳階級別の年齢（12）、居住地の市町村名、仕事の形態（8）、家族構成（6）、婚姻状況（5）、最終学歴（4）、現在の暮らしの状況（4）、自分の幸せ度合（4）、要介護者の有無、介護保険や自立支援サービスの利用状況、小学校入学前の子どもの有無、保育所や幼稚園を利用している子どもの有無、世帯の税込合計年収（5）である。

7. 解析方法

各設問で未記入があった場合は、その設問の集計から除外している。

各設問で回答を分類した場合は、下記にどのように分類したかを項目ごとに記載した。分類した項目の出現割合の比較には χ^2 検定を行った。

1) 健康状態や生活習慣について

現在の健康状態について、「健康」「まあまあ健康」を「健康」に、「あまり健康でない」「健康でない」を「健康でない」にした。

医療機関を受診する機会については、「よっぽど不調でないと受診しない」を「不調でないと受診しない」に、「体調について心配なことがあればすぐ受診する」「定期的に受診している」を「受診している」にした。

最近1ヶ月の睡眠状況については、「よく眠れている」「眠れている」を「眠れている」に、「あまり眠れていない」「眠れていない」を「眠れていない」にした。

最近1ヶ月の睡眠時間については、「2時間未満」「2時間以上4時間未満」を「4時間未満」に「4時間以上6時間未満」「6時間以上8時間未満」「8時間以上10時間未満」「10時間以上」を「4時間以上」にした。

ストレスで病院を受診した経験については、「受診している」「過去に受診したことがある」を「有」に、「受診したことがない」を「無」にした。

飲酒の状況については、4問のうち2つ以上「はい」に該当したものを「あり」とし1つ以下を「なし」とした。2つ以上該当する場合は、「アルコール依存症の疑い」がある¹⁾とされている。

2) 地域生活について

地域の居心地、地域の住人があなたを知っていると思う程度、地域の人にどう思われているか気になる程度、住人の問題解決力、地域との関係については、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を「思わない」に、「どちらかといえばそう思う」「そう思う」を「思う」の2群に分類した。

また、平均点を算出するにあたっては、「そう思わない」1点、「どちらかといえばそう思わない」2点、「どちらかといえばそう思う」3点、「そう思う」4点とした。ただし、地域の人にどう思われているか気になる程度は逆転項目である。

3) 悩みやストレスについて

過去1ヶ月間の精神状態については、「まったくない」0点、「少しだけ」1点、「ときどき」2点、「たいてい」3点、「いつも」4点に得点化し、合計点を算出した。得点が9点以上である場合は、精神状態が不調である疑いがある²⁾とされている。

4) 和歌山県内にある相談窓口の認知度について

市町村役場内の福祉課、保健センター、県子ども・女性・障害者相談センター、自殺対策情報センター「はあとライン」、いのちの電話、保健所については、「知っているが利用したことがない」「知っていて利用したことがある」を「知っている」に、「知らない」を「知らない」の2群に分類した。

5) 属性について

年齢については、5歳階級別に求めた回答を「20歳代」「30歳代」「40歳代」「50歳代」「60歳代」「70歳以上」の6群に分類した。仕事の形態については、8選択肢を「正規雇用、自営業・自由業」「派遣・契約・嘱託、パート・アルバイト」「専業主婦・主夫、無職」「学生・その他」の4群に分類した。家族構成については、6選択肢を「単身」「複数家族」の2群に、婚姻状況については、5選択肢を「配偶者あり（同居）」、「未婚・死別・離婚など」の2群に、最終学歴については、4選択肢を「小・中学校」「高校以上」の2群に分類した。現在の暮らしの状況については、「大変苦しい」「やや苦しい」を「苦しい」に、「普通」「ゆとりがある」を「普通」の2群に、自分の幸せ具合については、「とても幸せ」「まあまあ幸せ」を「幸せ」に、「あまり幸せでない」「全く幸せでない」を「幸せでない」の2群に分類した。世帯の合計年収（税込）については、5段階で求めたが「700万円～1000万円未満」「1000万以上」を併せて「700万円以上」の4群に分類した。

参考文献

- 1) 北村俊則:精神症状測定の理論と実際－評価尺度, 質問票, 面接基準の方法論的考察－. 海鳴社, 東京, 1988.
- 2) 古川壽亮、大野裕、宇田英典、他:平成14年度厚生労働科学研究費補助金 心の健康問題と対策基盤の実態に関する研究 研究協力報告書 一般人口中の精神疾患の簡便なスクリーニングに関する研究.

II. 調査結果（男女別・年齢別）

1.有効回答者（解析対象者）

調査票の有効回答数（回答率）は、1,133名（35.5%）であった。圏域別回収率で、最も高かったのは海草40.4%、次いで東牟婁、西牟婁、和歌山市の順であった。（表1-1）

表1-1 圏域別有効回答数(率) (人)

圏域名	対象者数	有効回答数	男	女	性別無記入	有効回答率	備考
和歌山市	604	211	94	114	3	34.9%	和歌山市
海草	275	111	47	63	1	40.4%	海南市、海草郡
那賀	463	151	75	75	1	32.6%	紀の川市、岩出市
伊都	381	131	54	76	1	34.4%	橋本市、伊都郡
有田	323	95	45	48	2	29.4%	有田市、有田郡
日高	269	93	41	52	0	34.6%	御坊市、日高郡(みなべ町除く)
西牟婁	555	194	80	112	2	35.0%	田辺市、西牟婁郡、みなべ町
東牟婁	319	114	50	64	0	35.7%	新宮市、東牟婁郡
無回答		33			33		
計	3189	1133	486	604	43	35.5%	

年齢別回答率で最も高かったのは60歳代44.9%、最も低かったのは20歳代19.6%であった。性別には男性496名（33.7%）女性619名（36.1%）であった。（表1-2）

表1-2 年齢別有効回答数(率) (人)

年齢	総数			男性			女性			性別無回答 有効回答数
	対象者数	有効回答数	有効回答率	対象者数	有効回答数	有効回答率	対象者数	有効回答数	有効回答率	
20歳代	337	66	19.6%	165	28	17.0%	172	38	22.1%	
30歳代	457	128	28.0%	226	46	20.4%	231	82	35.5%	
40歳代	476	153	32.1%	226	72	31.9%	250	81	32.4%	
50歳代	521	199	38.2%	255	84	32.9%	266	115	43.2%	
60歳代	599	269	44.9%	285	121	42.5%	314	147	46.8%	1
70歳以上	799	308	38.5%	315	144	45.7%	484	156	32.2%	8
無回答		10			1			0		9
計	3189	1133	35.5%	1472	496	33.7%	1717	619	36.1%	18

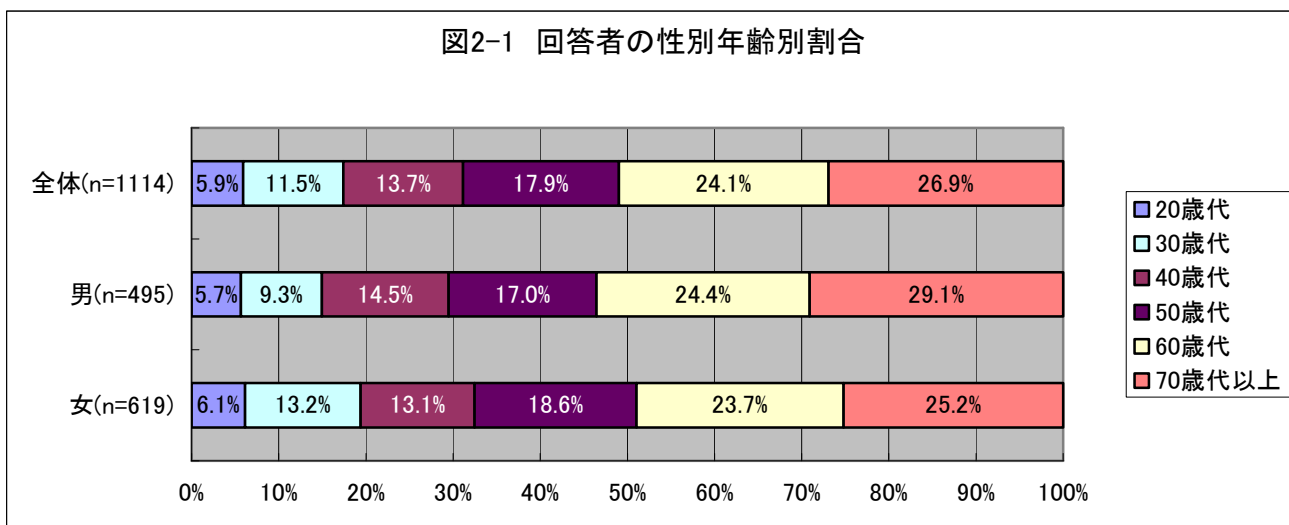
2.対象者の属性

1)年齢別

年齢別について、全体では「70歳以上」が26.9%と最も高く、次いで「60歳代」「50歳代」「40歳代」「30歳代」「20歳代」の順であった。性別にみても同様の順であった。

(図2-1)

図2-1 回答者の性別年齢別割合

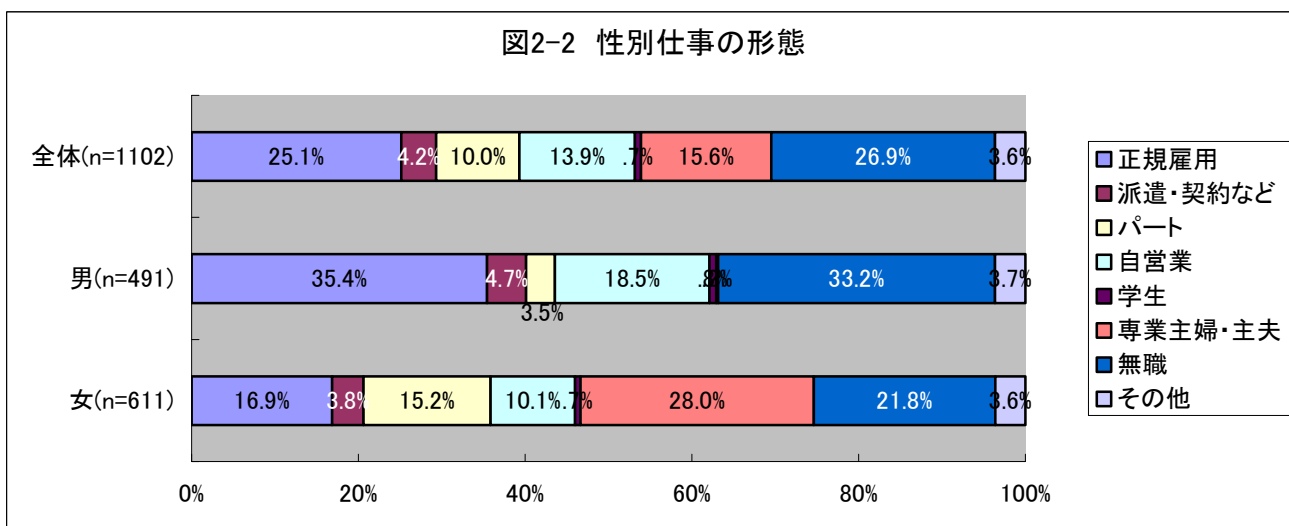


2) 仕事の形態別

仕事の形態別について、全体では「無職」が26.9%と最も高く、次いで「正規雇用」25.1%、「専業主婦・主夫」15.6%、「自営業」13.9%の順であった。

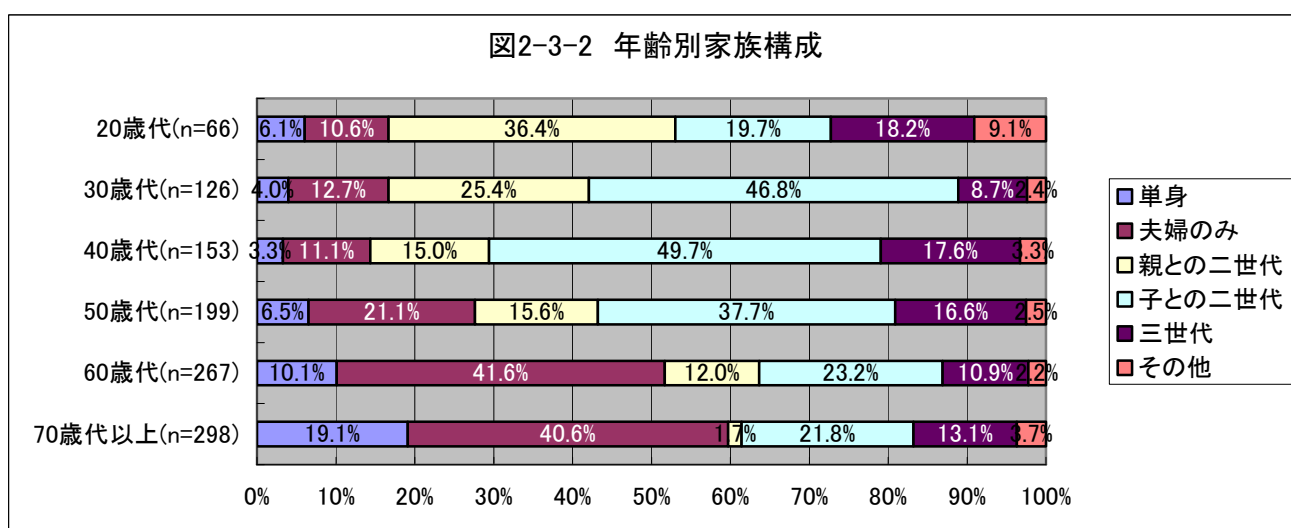
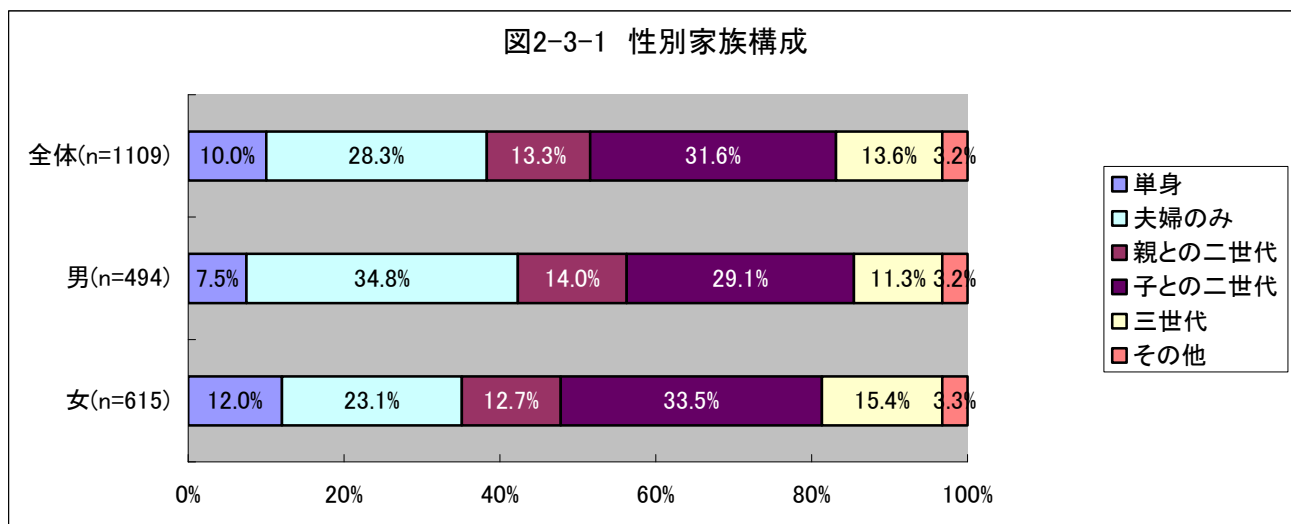
性別にみると、男性は「正規雇用」が35.4%と最も高く、次いで「無職」33.2%、「自営業」18.5%、女性は「専業主婦・主夫」が28.0%と最も高く、次いで「無職」21.8%、「正規雇用」16.9%の順であった。（図2-2）

図2-2 性別仕事の形態



3) 家族構成別

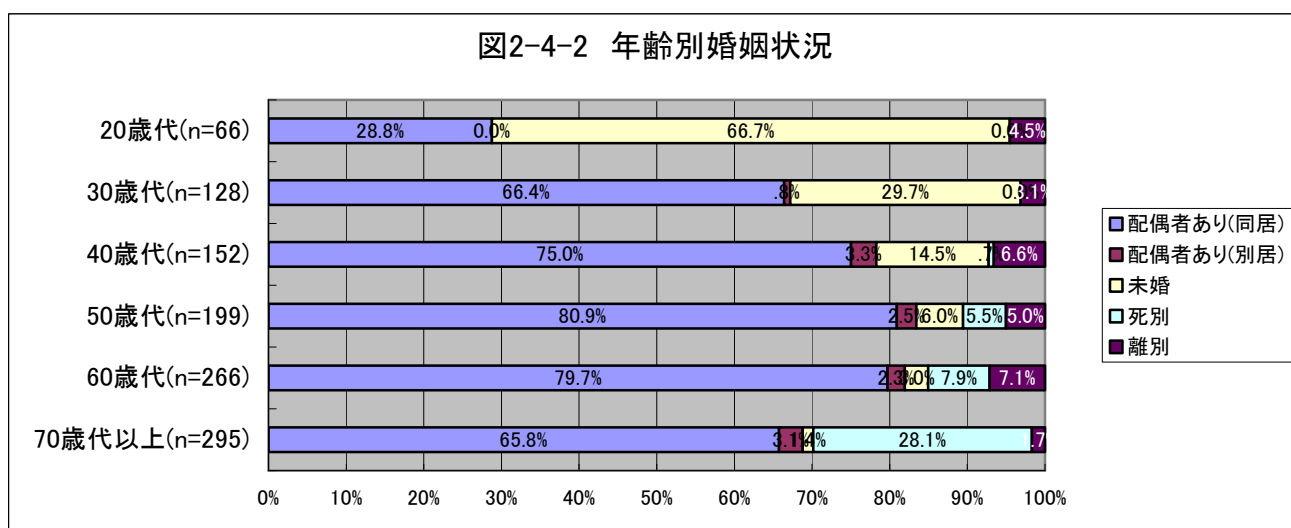
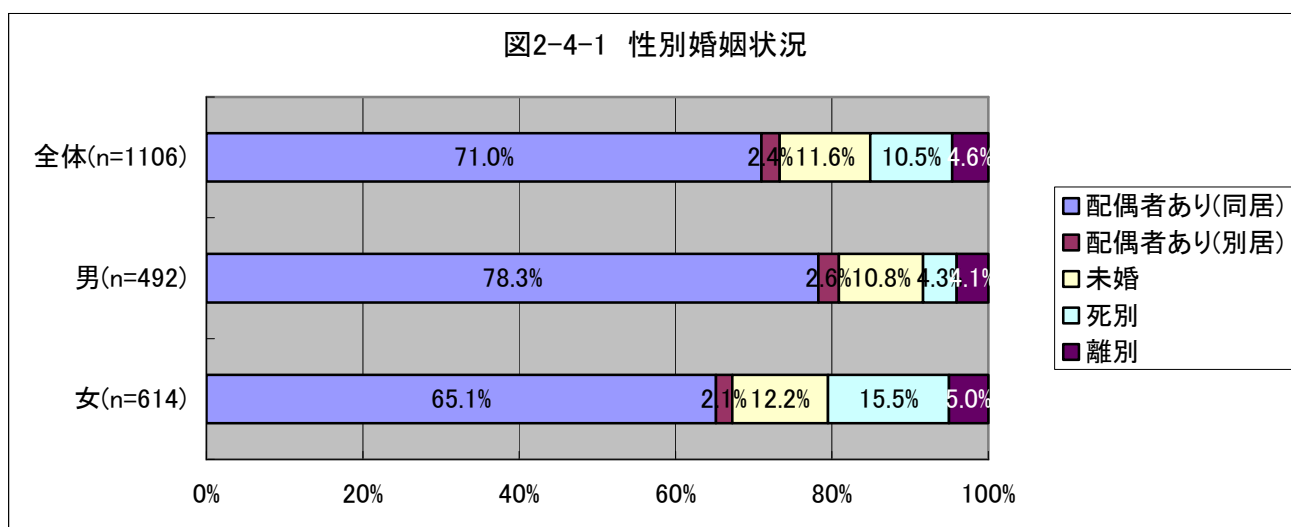
家族構成について、全体では「あなた（あなた夫婦）と子（二世代）」が 31.6%と最も高く、次いで「夫婦だけ（一世代）」28.3%、「あなたを含めて三世代」13.6%の順であった。性別にみると、男性は「夫婦だけ（一世代）」が 34.8%と最も高く、「あなた（あなた夫婦）と子（二世代）」29.1%、「あなた（あなた夫婦）と親（二世代）」14.0%、女性は「あなた（あなた夫婦）と子（二世代）」が 33.5%と最も高く、次いで「夫婦だけ（一世代）」23.1%、「あなたを含めて三世代」15.4%の順であった。「単身」は全体で 10.0%あり、性別では男性が 7.5%、女性が 12.0%であった。年齢別では 70 歳以上が 19.1%と最も高く、次いで 60 歳代が 10.1%であった。（図 2-3-1）（図 2-3-2）



4) 婚姻状況別

婚姻状況について、全体では「配偶者あり（同居）」が 71.0%と最も高く、次いで「未婚」11.6%、「死別」10.5%の順であった。性別にみると、男性は「配偶者あり（同居）」が 78.3%と最も高く、次いで「未婚」10.8%、「死別」4.3%の順であった。女性は「配偶者あり（同居）」が 65.1%と最も高く、次いで「死別」15.5%、「未婚」12.2%の順であった。「配偶者あり（同居）」の割合は、年齢別にみると 50 歳代が 80.9%と最も高かった。

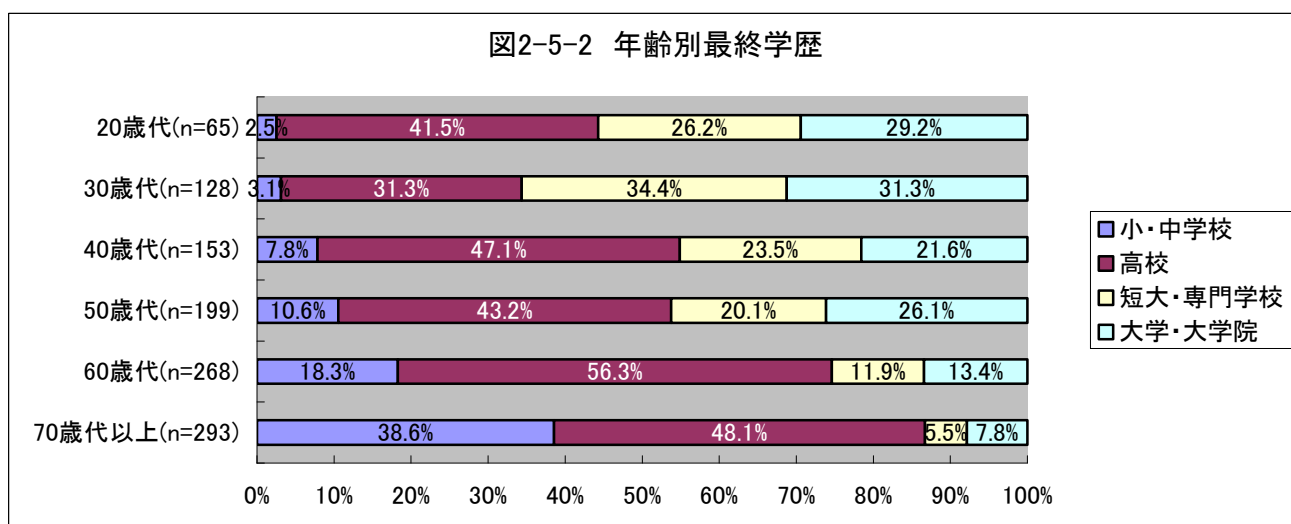
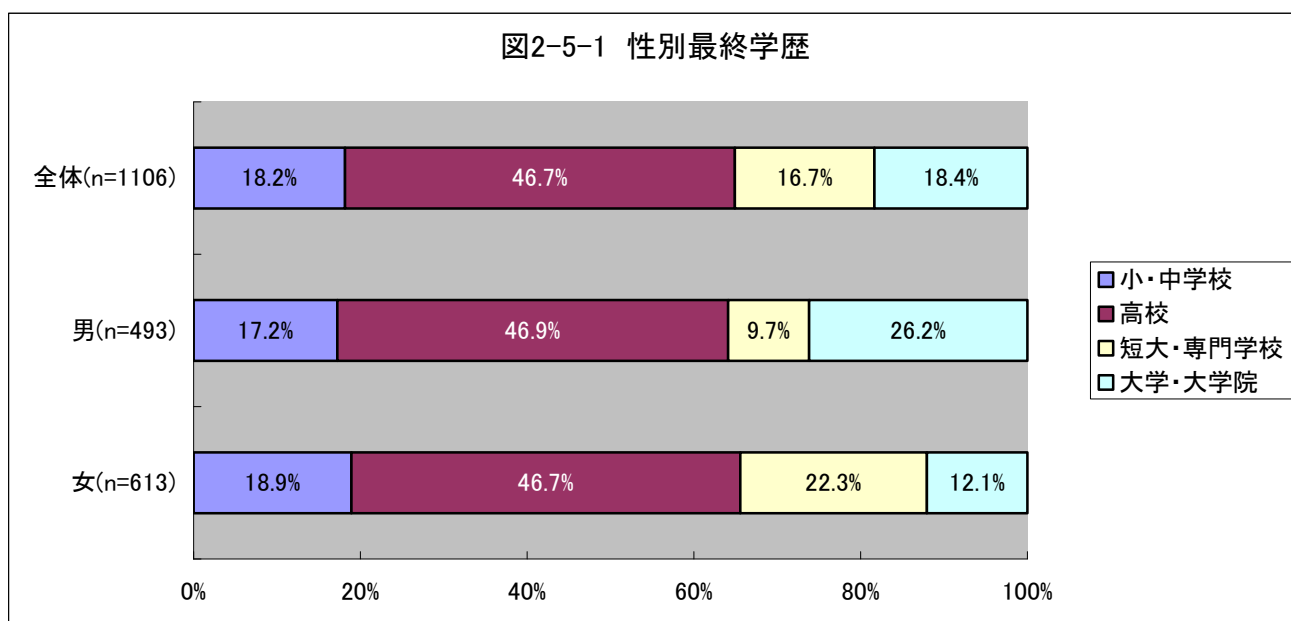
(図 2-4-1) (図 2-4-2)



5) 最終学歴別

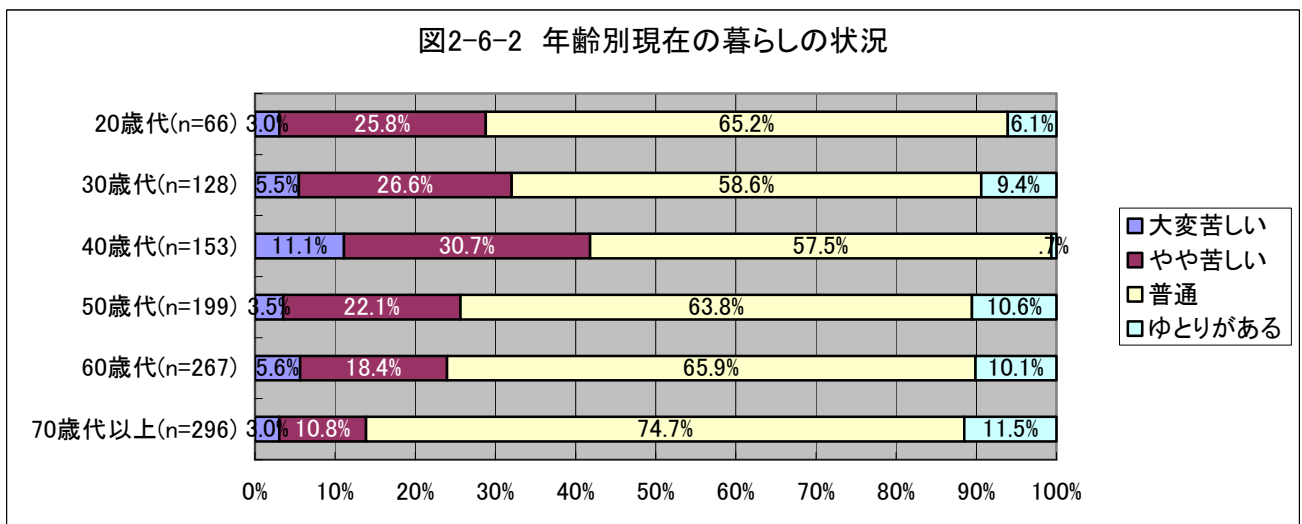
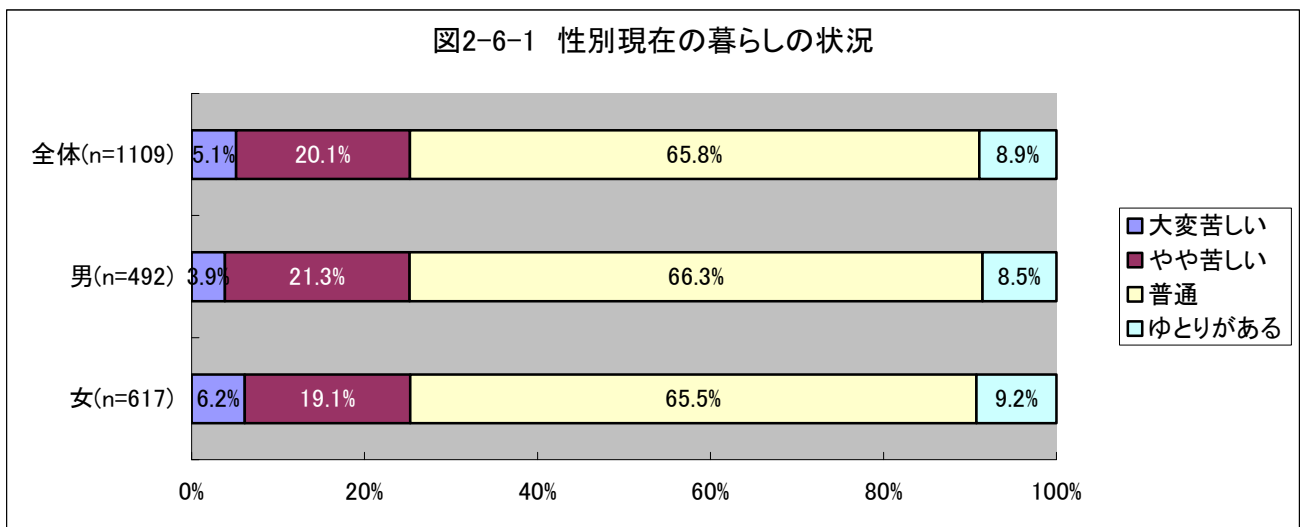
最終学歴について、全体では「高校」が46.7%と最も高く、次いで「大学・大学院など」18.4%、「小・中学校」18.2%の順であった。性別にみると、男性は「高校」が46.9%と最も高く、次いで「大学・大学院など」26.2%、「小・中学校」17.2%の順であった。女性は「高校」が46.7%と最も高く、次いで「短大・専門学校」22.3%、「小・中学校」18.9%の順であった。年齢別にみると、高齢になるほど「小・中学校」の割合が高かった。(図2-5-1)

(図2-5-2)



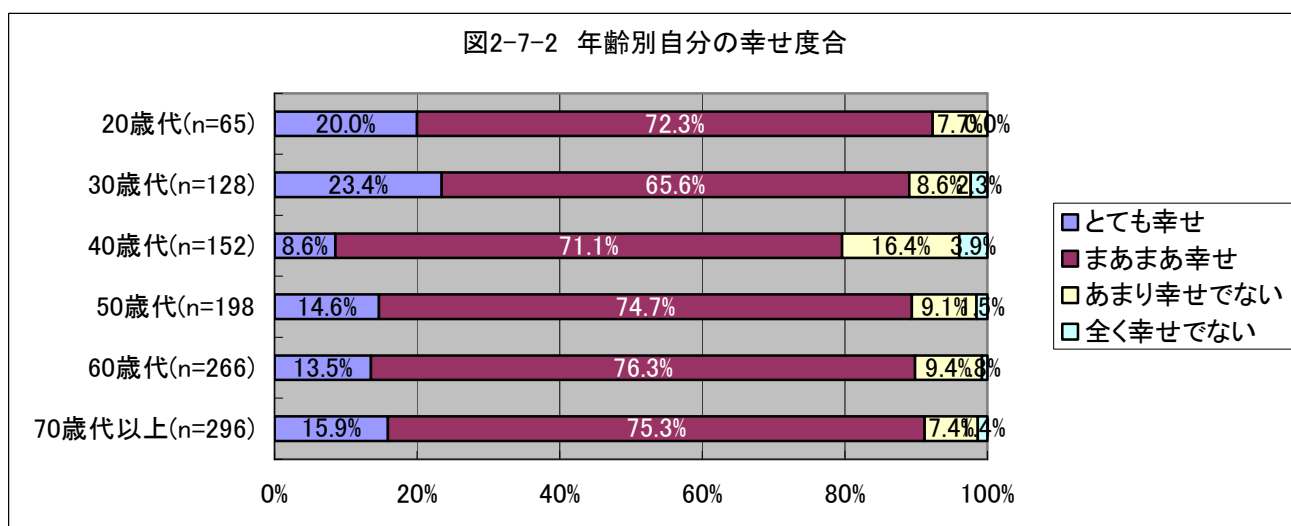
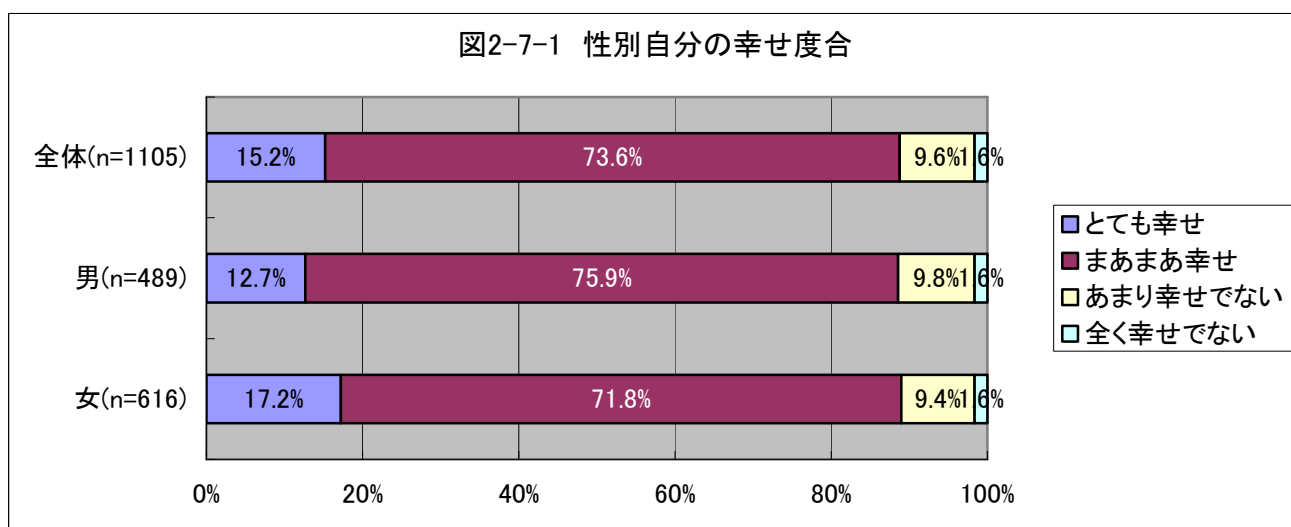
6) 現在の暮らしの状況別

現在の暮らしの状況について、全体では「普通」が 65.8%と最も高く、次いで「やや苦しい」20.1%、「ゆとりがある」8.9%の順であった。性別にみると、男女ともに「普通」が最も高く、次いで「やや苦しい」「ゆとりがある」の順であった。年齢別では、「普通」「やや苦しい」「ゆとりがある」の順であったが、40歳代は「普通」「やや苦しい」「大変苦しい」の順であった。（図 2-6-1）（図 2-6-2）



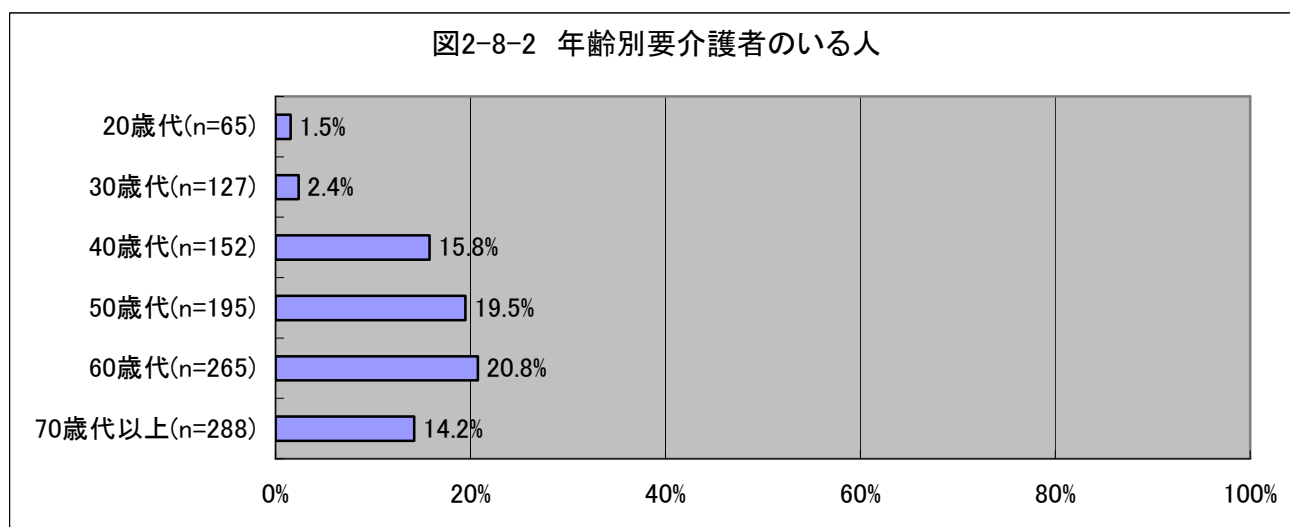
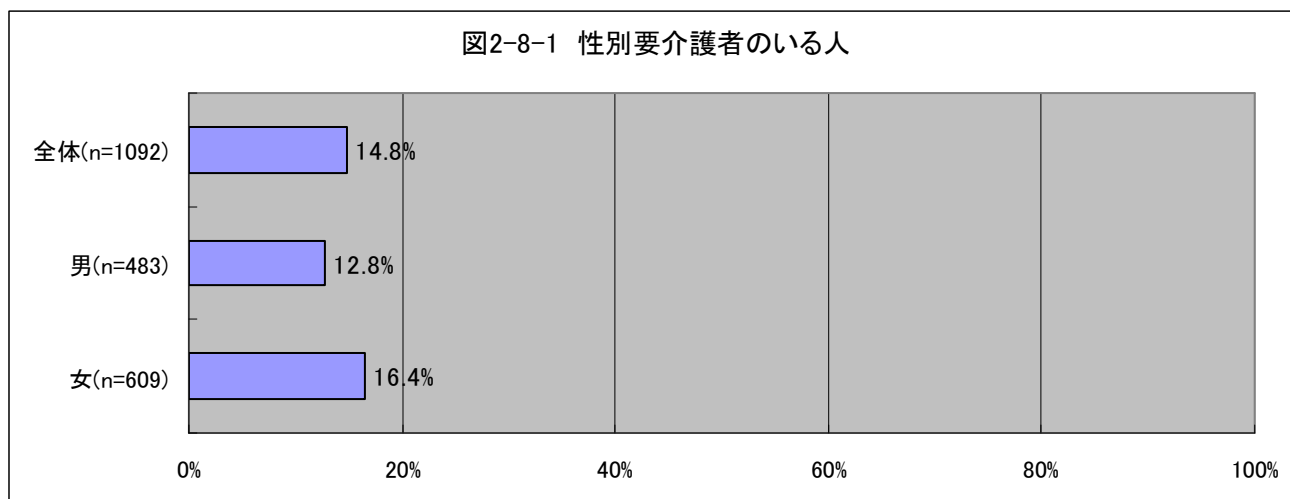
7) 自分の幸せ度合別

自分の幸せ度合について、全体では「まあまあ幸せ」が 73.6%と最も高く、次いで「とても幸せ」15.2%、「あまり幸せでない」9.6%の順であった。性別にみると、男女ともに「まあまあ幸せ」が最も高く、次いで「とても幸せ」「あまり幸せでない」の順であった。年齢別にみると、「まあまあ幸せ」が最も高く、次いで「とても幸せ」「あまり幸せでない」の順であったが、40歳代は「まあまあ幸せ」「あまり幸せでない」「とても幸せ」の順であった。(図 2-7-1) (図 2-7-2)



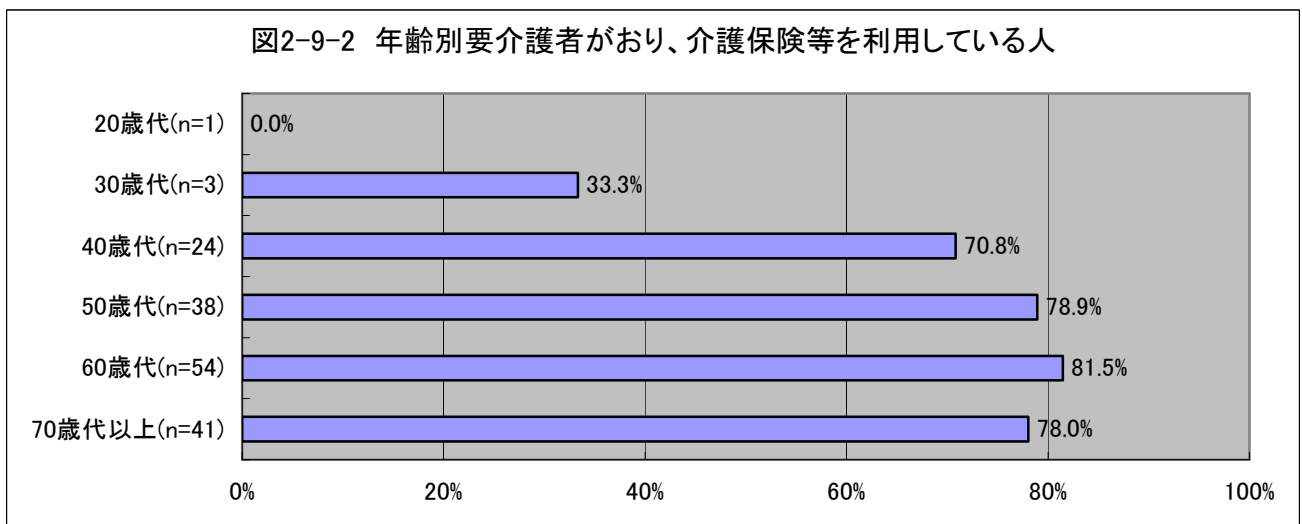
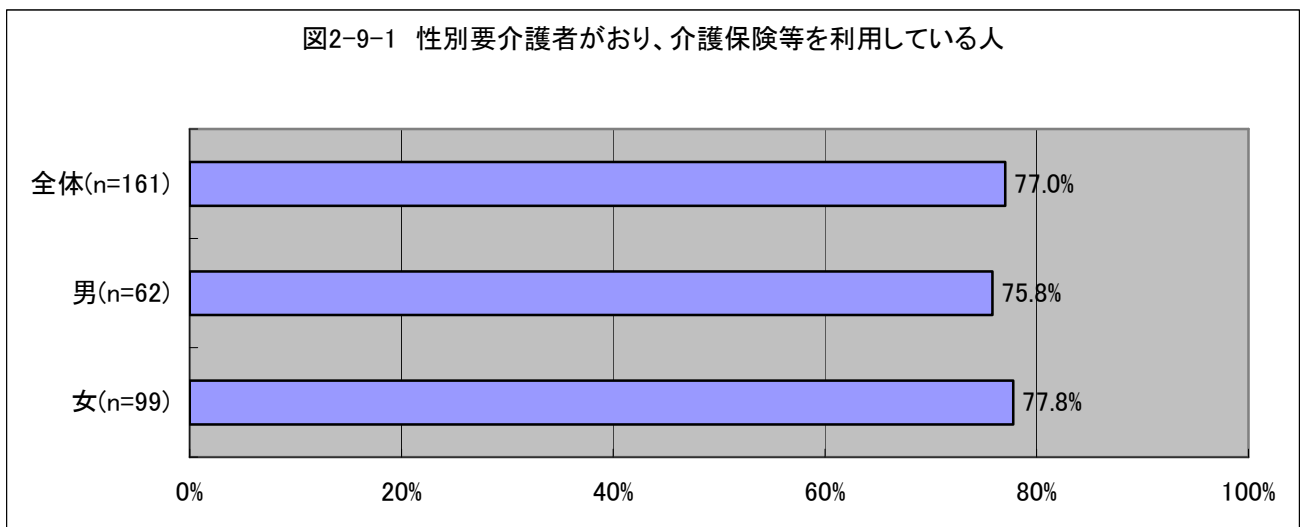
8) 要介護者の有無別

要介護者の有無別について、全体では「あり」が 14.8%であった。性別にみると、男性は 12.8%、女性は 16.4%であった。年齢別にみると、60 歳代が 20.8%と最も高く、次いで 50 歳代 19.5%、40 歳代 15.8%の順であった。（図 2-8-1）（図 2-8-2）



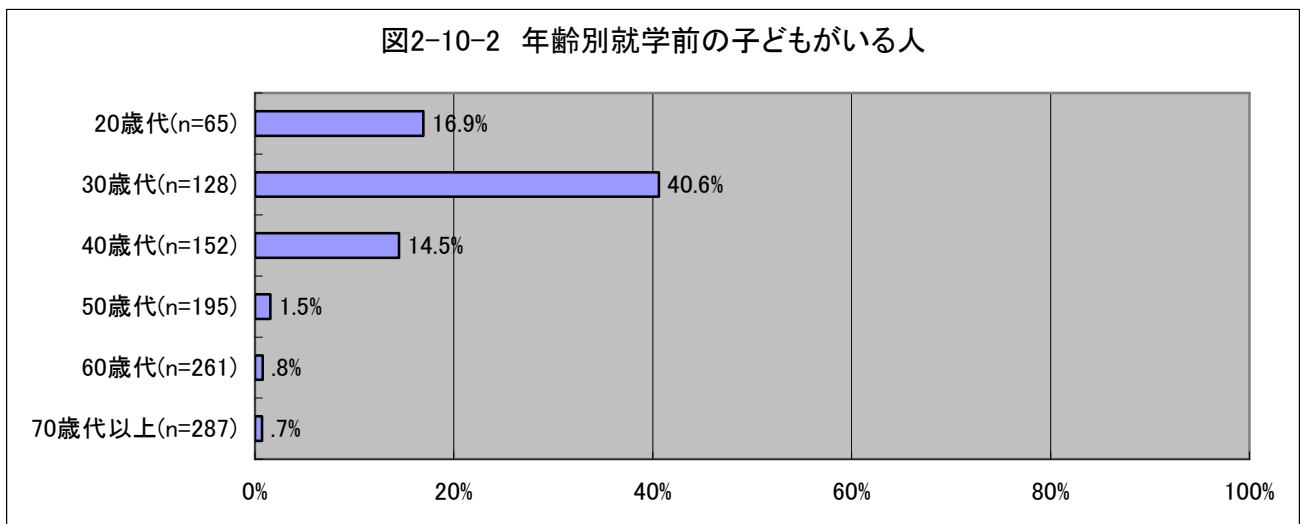
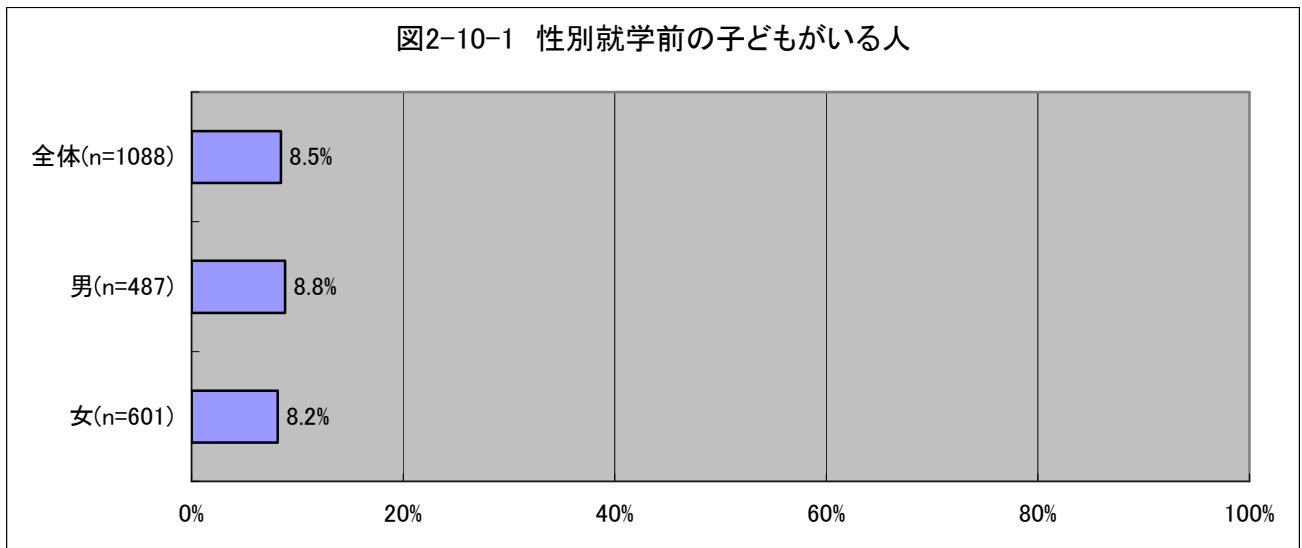
9) 介護保険や自立支援サービスの利用状況

介護を要する者の介護保険や自立支援サービスの利用状況について、全体では「利用している」が77.0%であった。性別にみると、男性は75.8%、女性は77.8%であった。年齢別では、60歳代が81.5%と最も高く、次いで50歳代、70歳代以上の順であった。(図2-9-1)(図2-9-2)



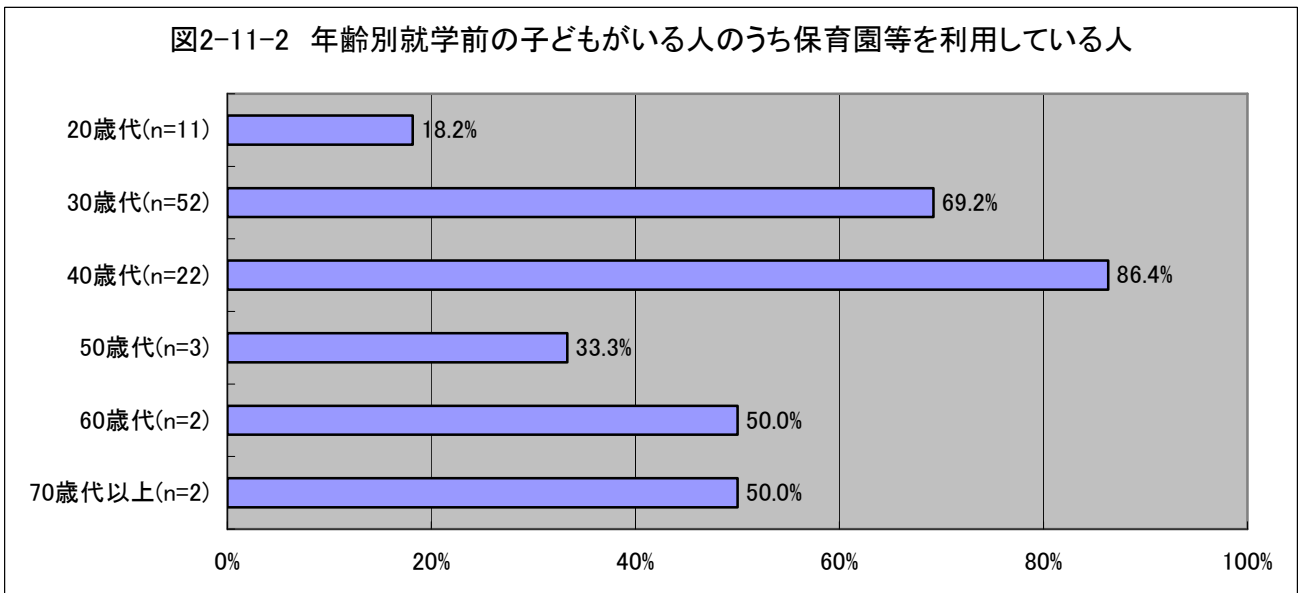
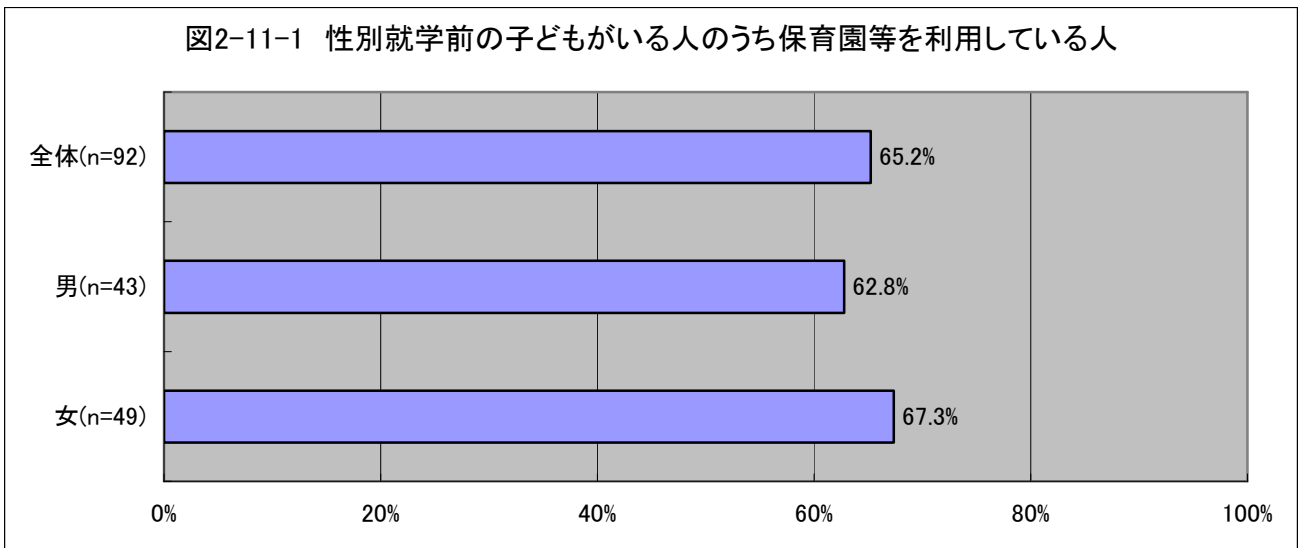
10) 小学校入学前の子どもの有無

就学前の子どもの有無について、全体では「いる」が8.5%であった。性別にみても同様の割合であった。年齢別にみると、30歳代が40.6%と最も高く、次いで20歳代、40歳代の順であった。(図2-10-1) (図2-10-2)



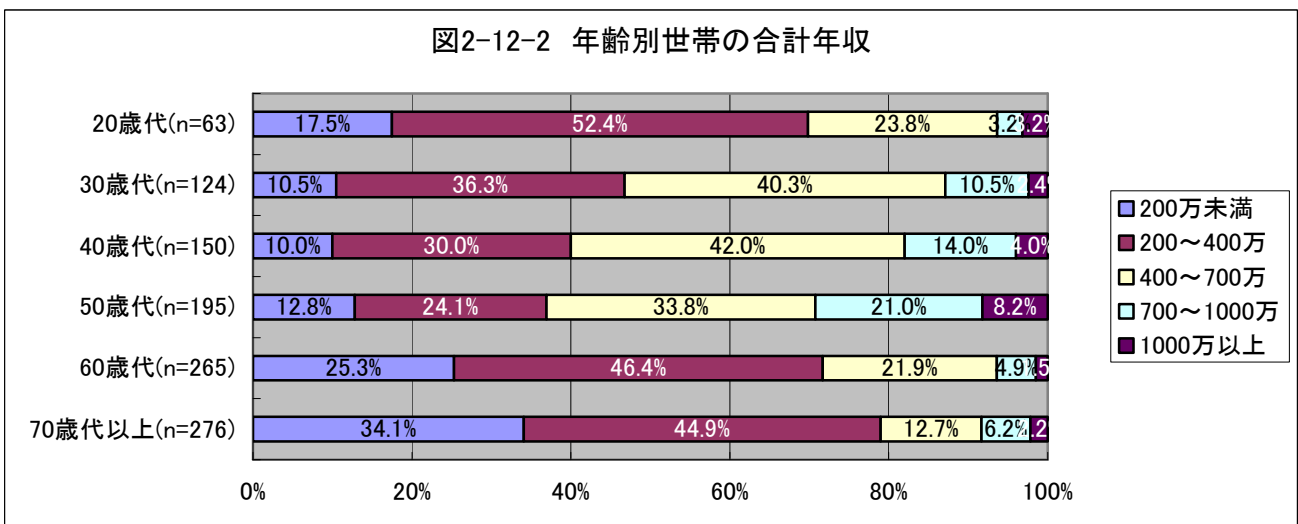
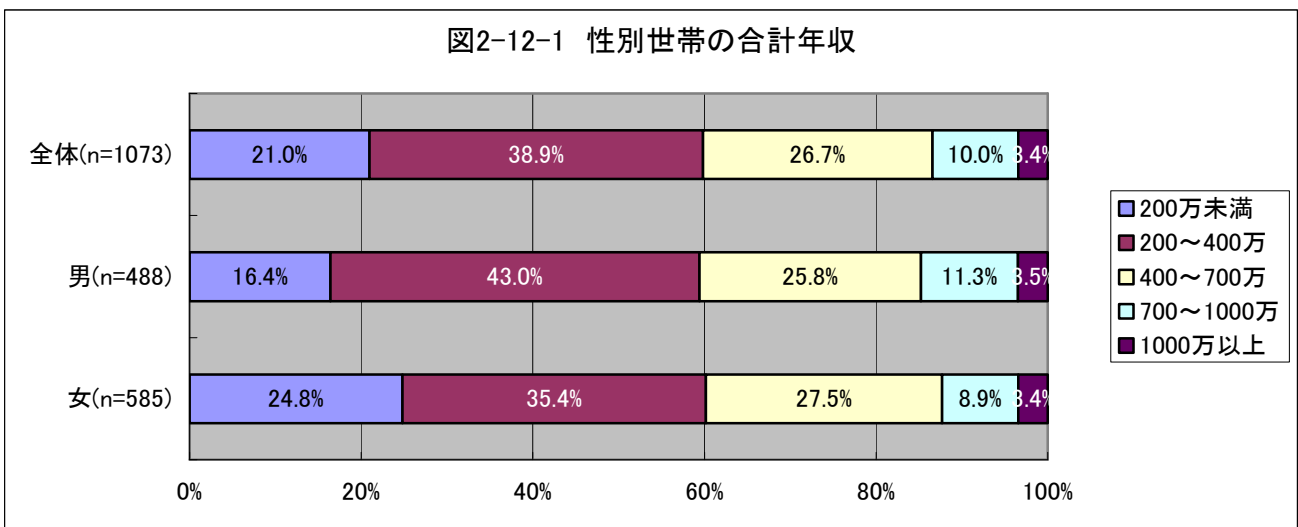
11) 保育所や幼稚園を利用している子どもの有無

就学前の子どもがいる人のうち保育所や幼稚園を利用している人の状況について、全体では「利用している」が 65.2%であった。性別にみると、男性は 62.8%、女性は 67.3%であった。年齢別にみると、40歳代が 86.4%と最も高く、次いで 30歳代であった。(図 2-11-1) (図 2-11-2)



12) 世帯の合計年収（税込）別

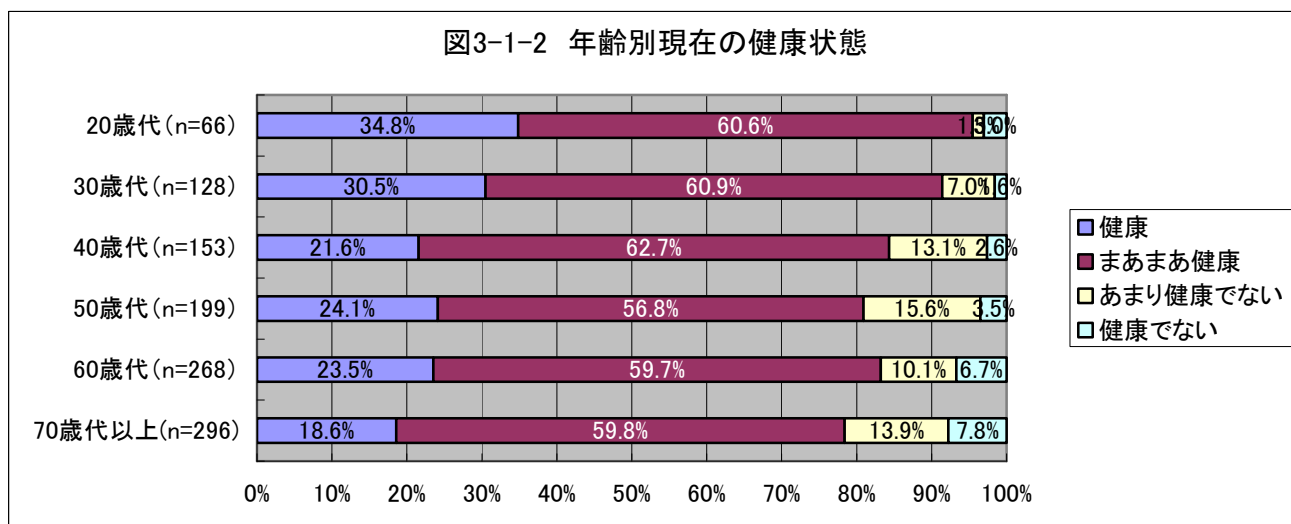
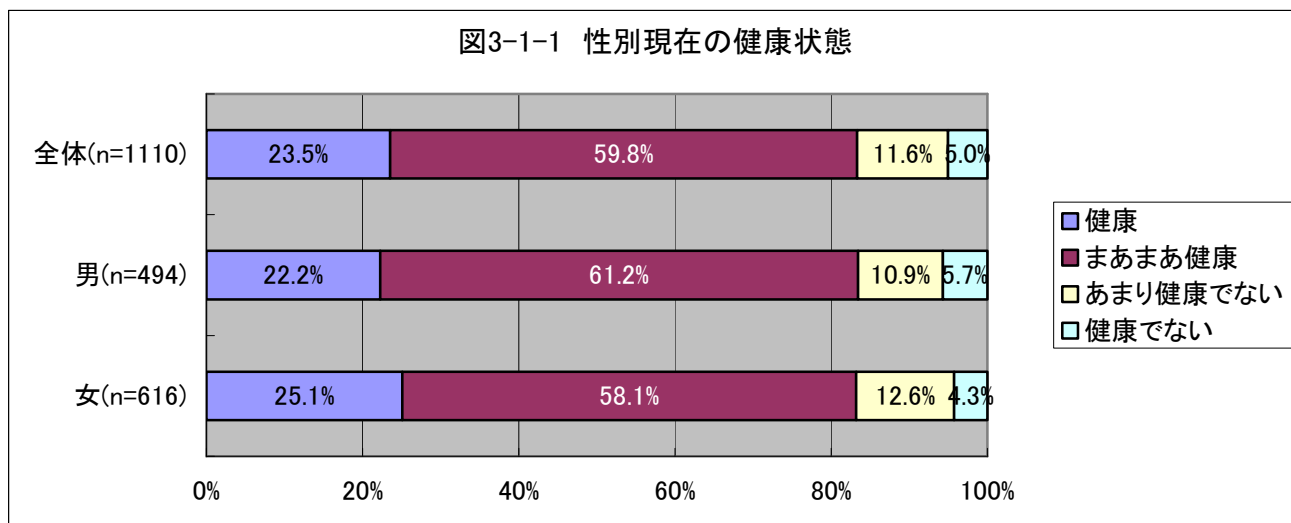
世帯の合計年収別について、全体では「200万円～400万円未満」が38.9%と最も高く、次いで「400万円～700万円未満」26.7%、「200万円未満」21.0%の順であった。性別にみても同様の順であった。年齢別にみると、40歳代、50歳代で「400万円～700万円未満」「200万円～400万円未満」「700万円～1000万円未満」の順であった。（図2-12-1）（図2-12-2）



3.健康状態や生活習慣について

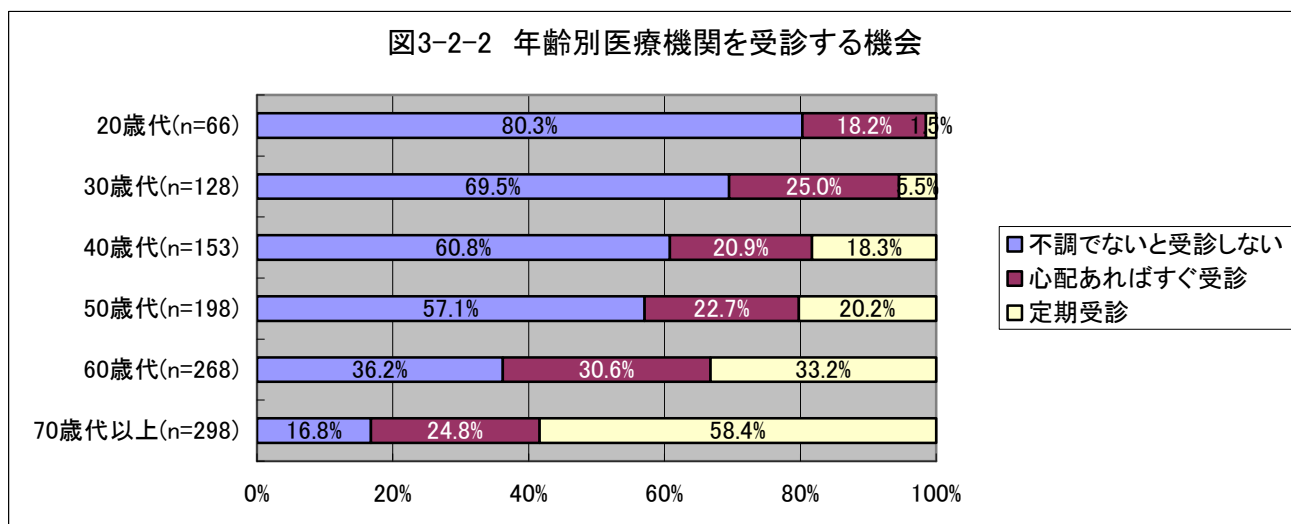
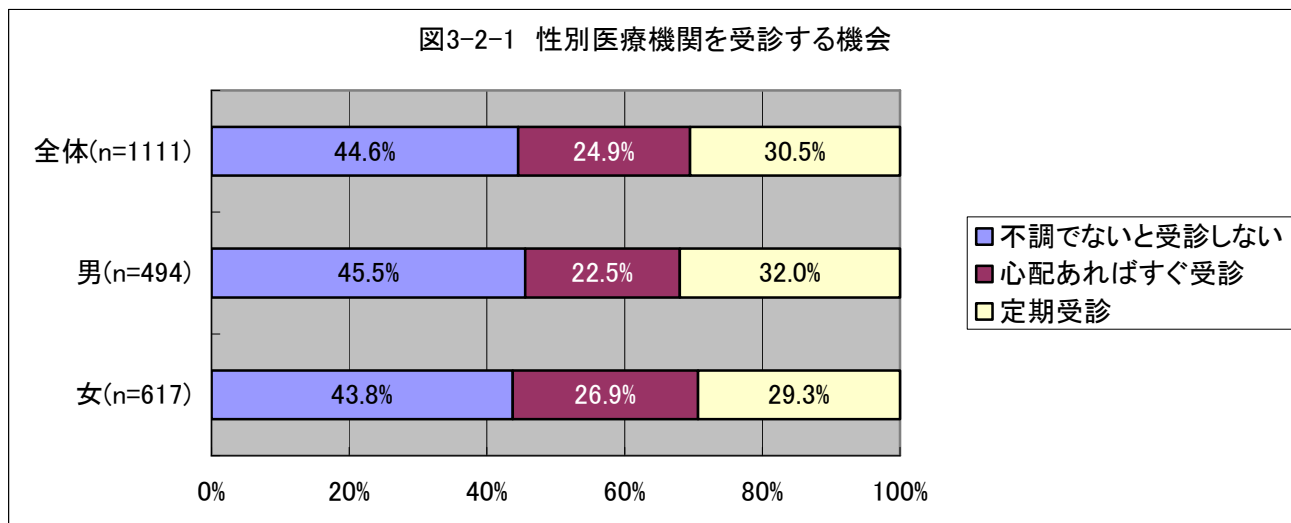
1) 現在の健康状態

現在の健康状態について、全体では「まあまあ健康」が 59.8%と最も高く、次いで「健康」23.5%、「あまり健康でない」11.6%の順であった。性別、年齢別にみても、同様の順であった。(図 3-1-1) (図 3-1-2)



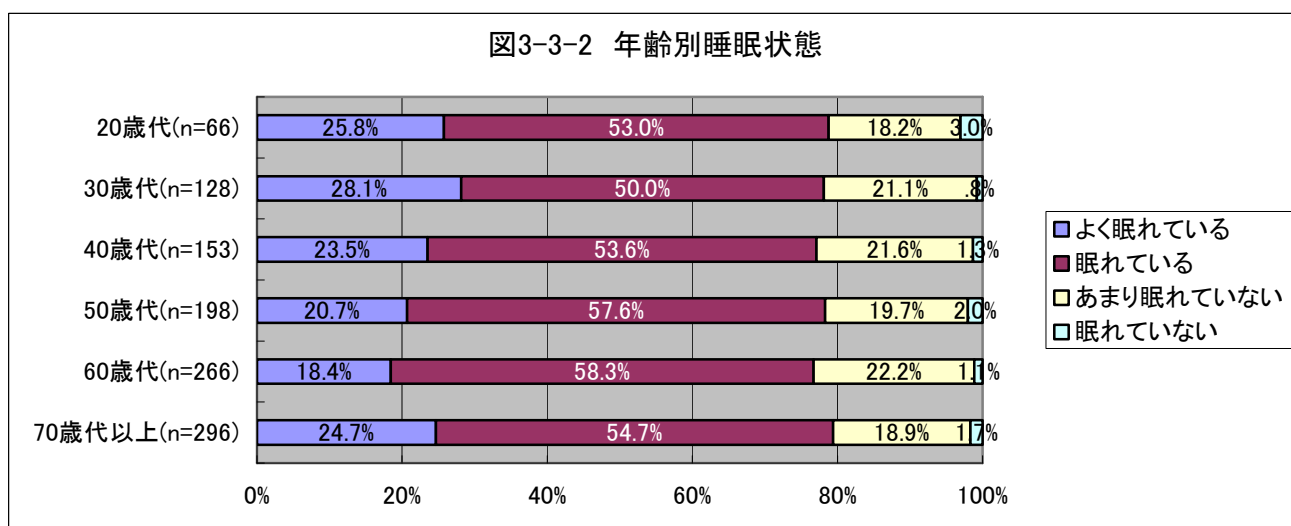
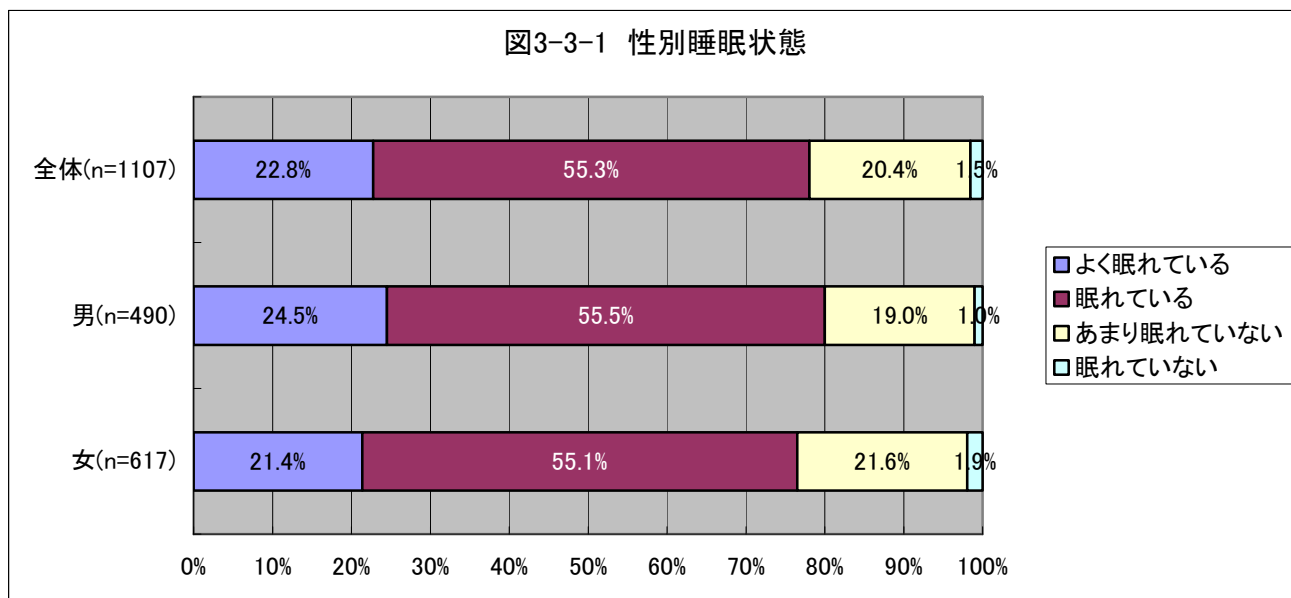
2) 医療機関を受診する機会

医療機関を受診する時について、全体では「不調でないと受診しない」44.6%、「定期受診」30.5%、「心配であればすぐ受診」24.9%の順であった。性別にみても、同様の順であった。年齢別にみると、年齢が高くなるほど、「定期受診」の割合が高かった。(図 3-2-1) (図 3-2-2)

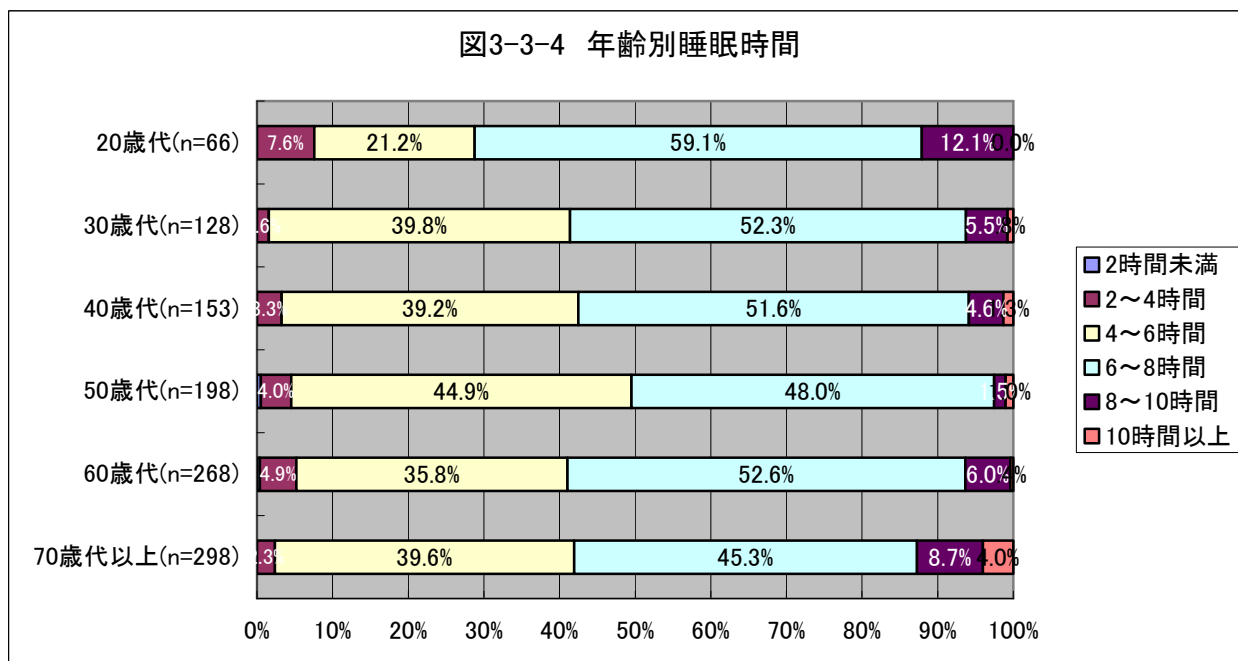
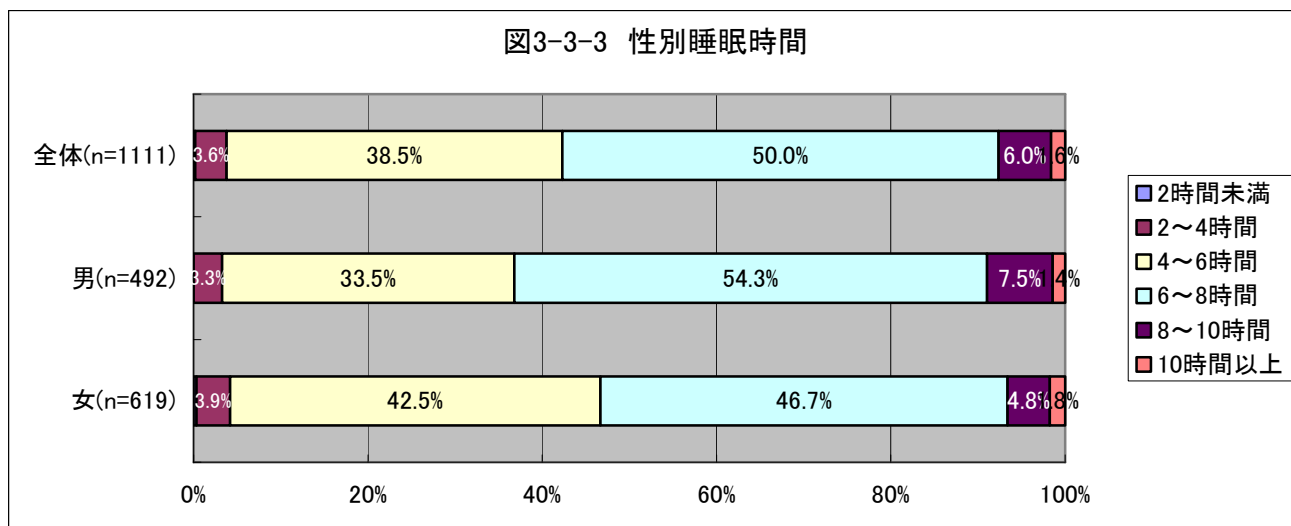


3) 最近1ヶ月間の睡眠状況及び睡眠時間

最近1ヶ月間の睡眠状況について、全体では「眠れている」55.3%、「よく眠れている」22.8%、「あまり眠れていない」20.4%の順であった。性別にみると、男性は「眠れている」「よく眠れている」「あまり眠れていない」の順で、女子は「眠れている」「あまり眠れていない」「よく眠れている」であった。年齢別にみると、60歳代で「眠れている」「あまり眠れていない」「よく眠れている」の順であった。(図3-3-1) (図3-3-2)

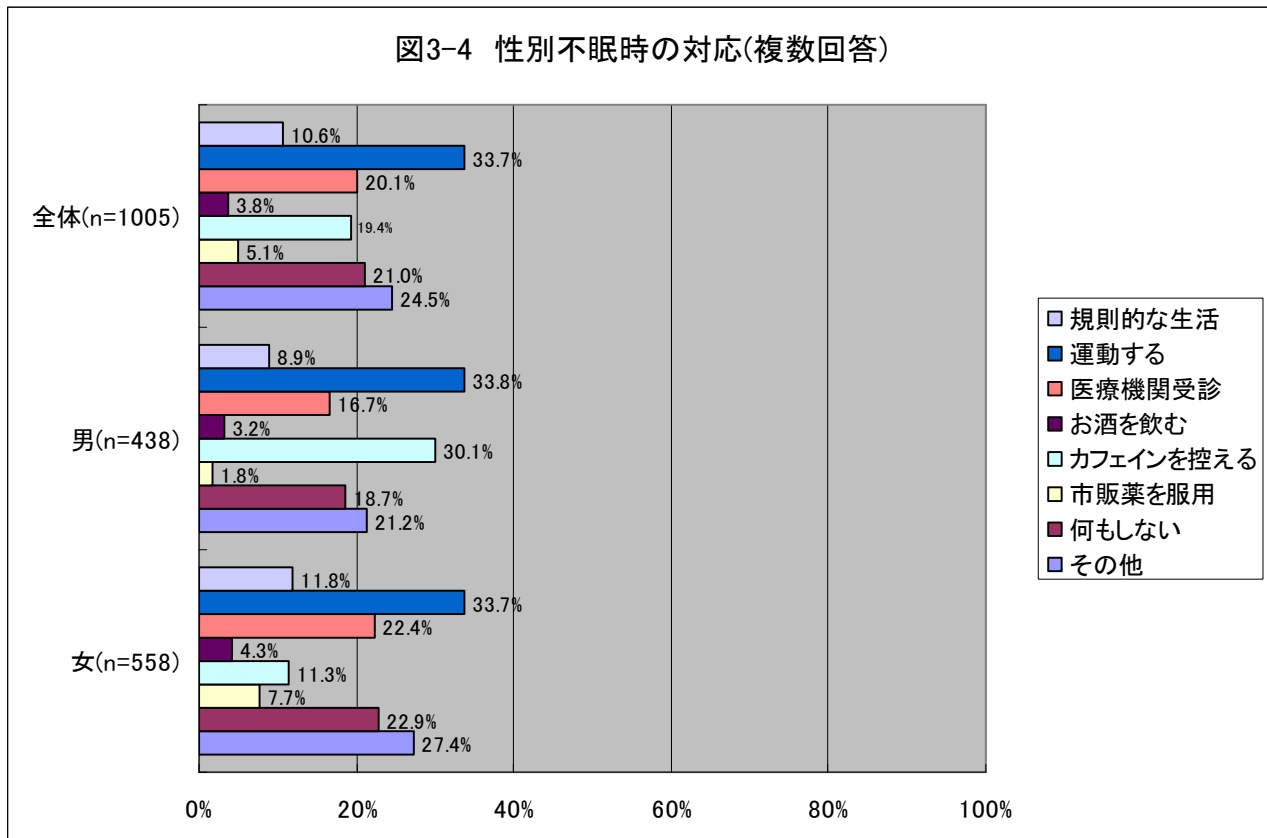


最近1ヶ月間の睡眠時間について、全体では「6時間以上8時間未満」が50.0%、「4時間以上6時間未満」が38.5%、「8時間以上10時間未満」が6.0%であった。性別にみても、同様の順であった。年齢別にみると、50歳代で「6時間以上8時間未満」「4時間以上6時間未満」「2時間以上3時間未満」の順であった。(図3-3-3) (図3-3-4)



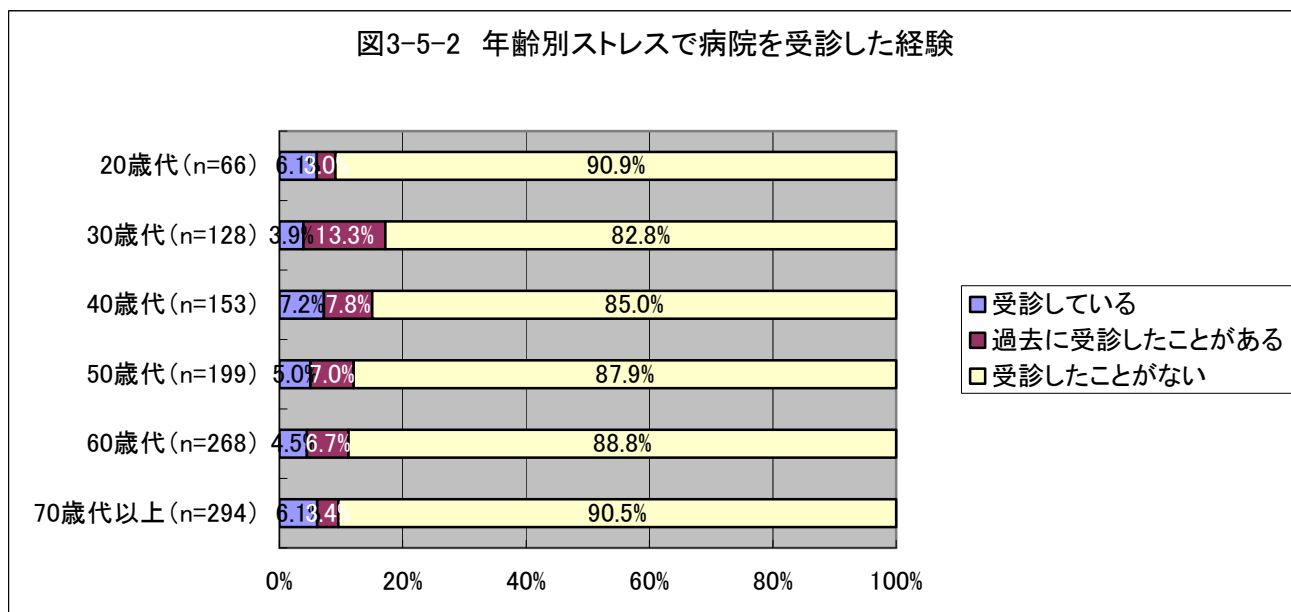
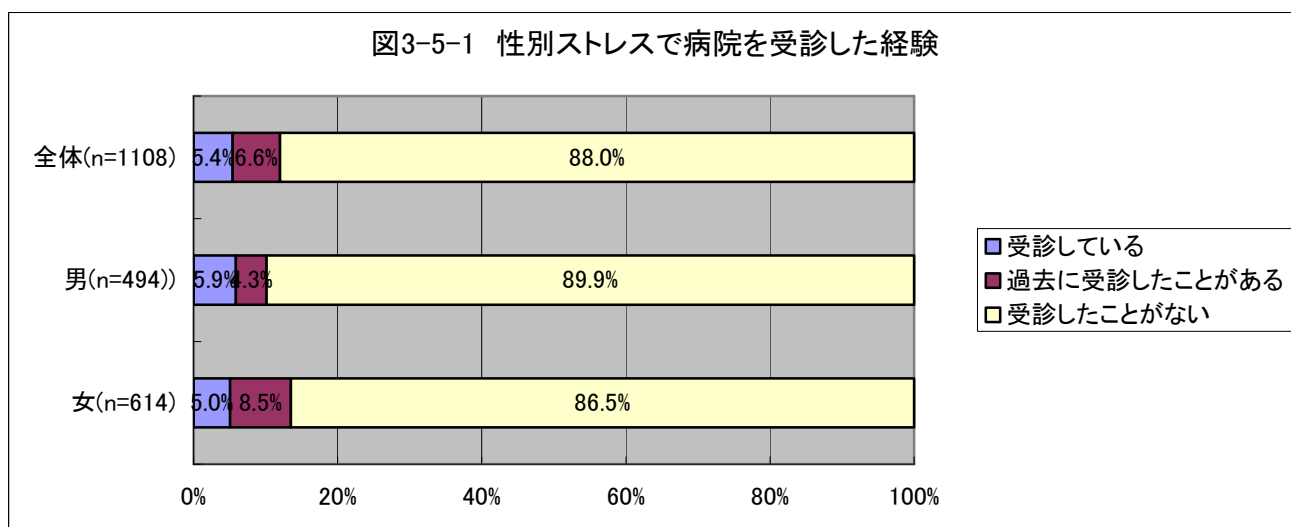
4) よく眠れない日が2週間以上続いた場合の対応（複数回答）

よく眠れない日が2週間以上続いた場合の対応について、全体では「運動する」「何もしない」「医療機関受診」「カフェインを控える」の順であった。性別にみると、男性は「運動する」「カフェインを控える」「何もしない」の順であった。女性は「運動する」「何もしない」「医療機関受診」の順であった。（図3-4）



5) こころの病気や悩み、ストレスで病院を受診した経験

こころの病気や悩み、ストレスで病院を受診した経験について、全体では「受診したことがない」88.0%、「過去に受診したことがある」6.6%、「受診している」5.4%であった。性別にみると、男性は「受診したことがない」「受診している」「過去に受診したことがある」の順で、女性は「受診したことがない」「過去に受診したことがある」「受診している」の順であった。年齢別では、20歳代及び70歳代で「受診したことがない」「受診している」「過去に受診したことがある」の順であった。(図3-5-1) (図3-5-2)



6) 普段の飲酒の有無

普段の飲酒の有無について、全体では「飲む」が 50.1%、「飲まない」が 49.9%であった。性別にみると、男性は「飲む」70.0%、女性は「飲む」34.1%であった。年齢別にみると、40歳代が58.6%と最も高く、次いで30歳代52.0%、50歳代51.5%の順であった。(図3-6-1) (図3-6-2) (図3-6-3) (図3-6-4)

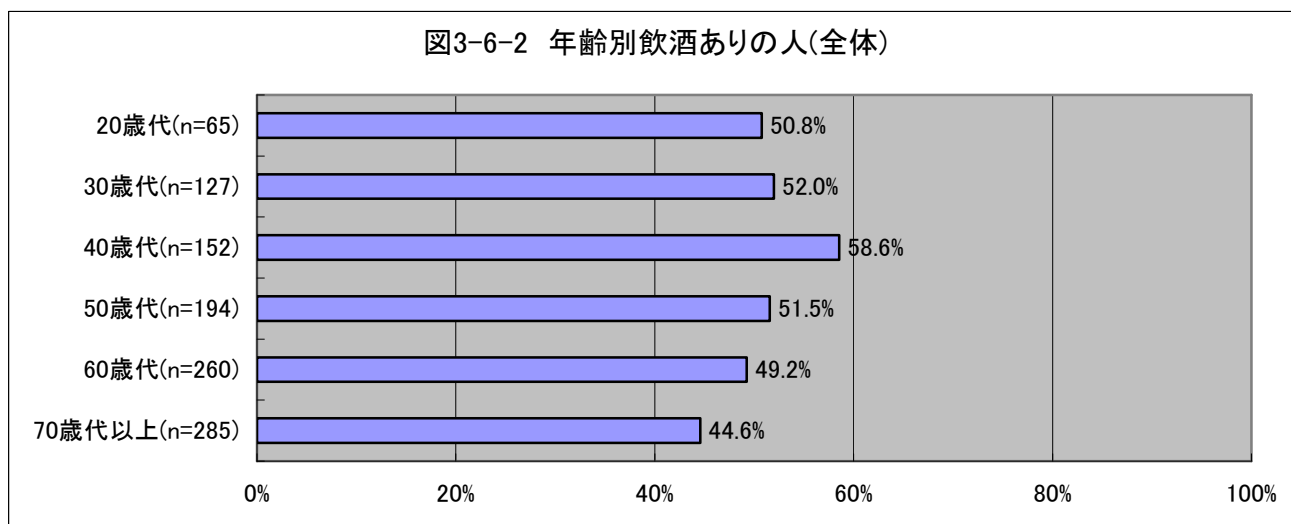
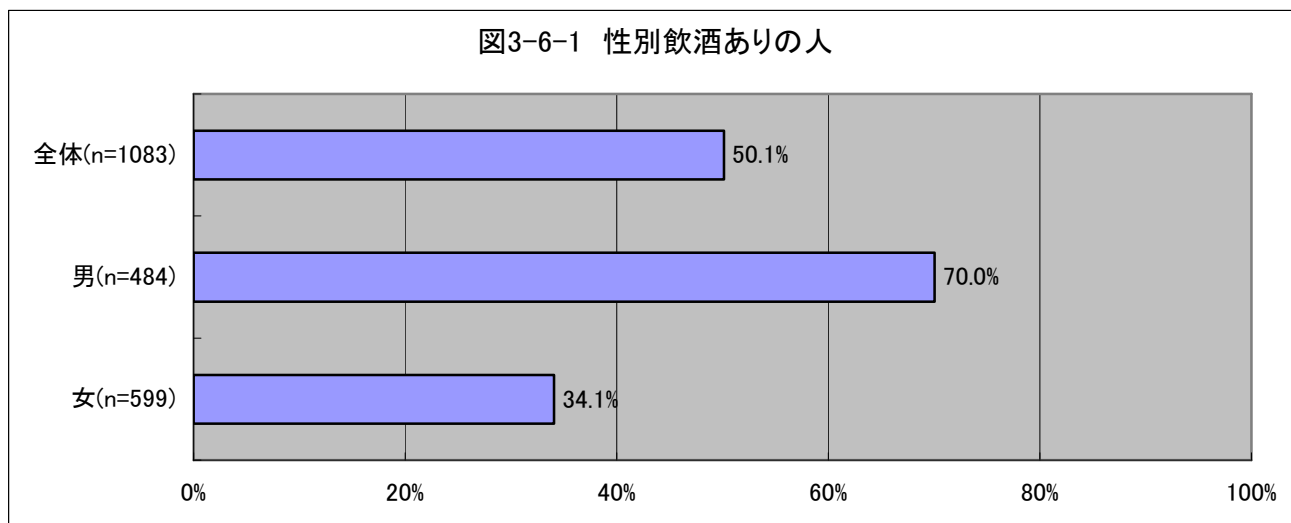


図3-6-3 年齢別飲酒ありの人(男)

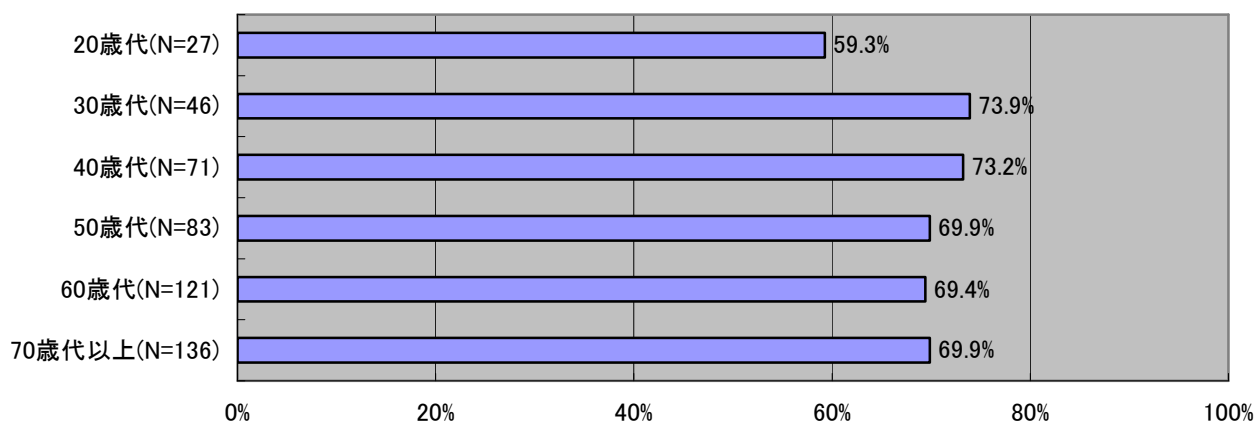
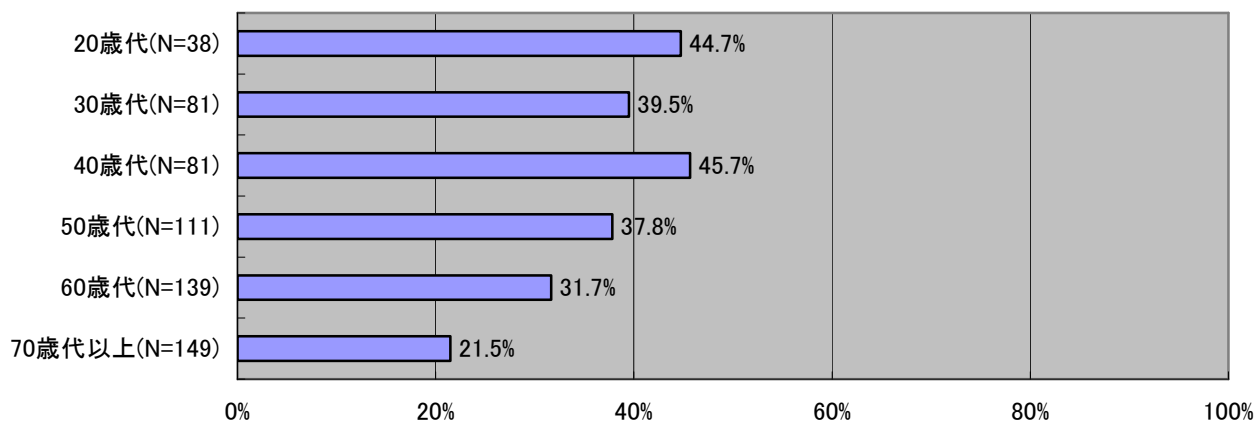


図3-6-4 年齢別飲酒ありの人(女)



7) 普段の飲酒頻度

飲酒ありの人のうち、普段の飲酒頻度について、全体では「ほとんど毎日」が 58.0%、「時々」が 42.0%であった。性別にみると、男性は「ほとんど毎日」68.8%、女性は「ほとんど毎日」39.7%であった。年齢別では、70歳代以上が最も高く、次いで60歳代、40歳代の順であった。(図 3-7-1) (図 3-7-2) (図 3-7-3) (図 3-7-4)

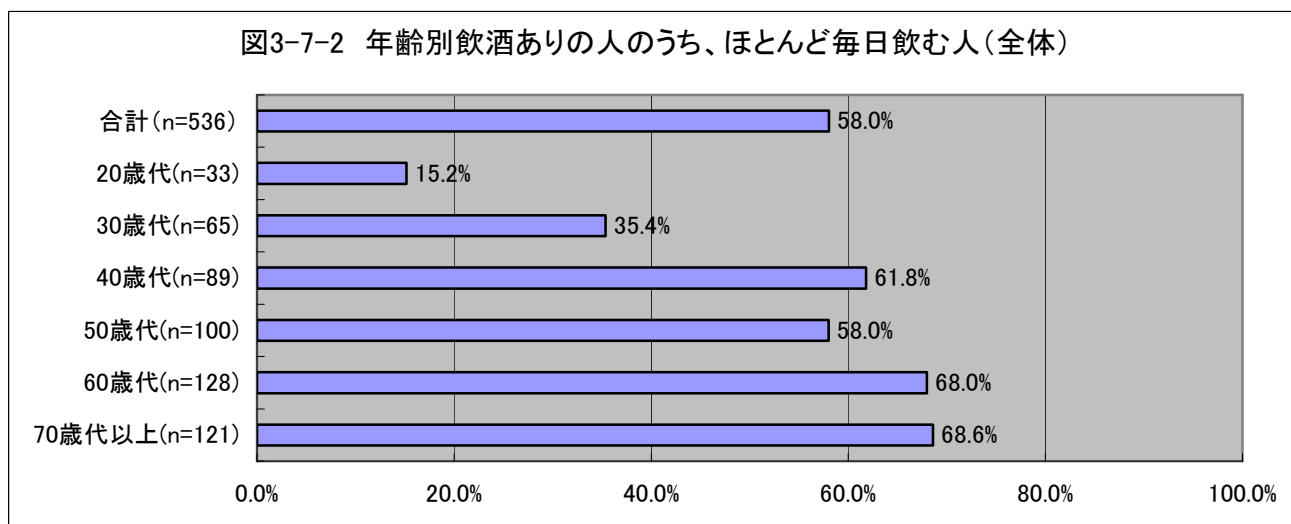
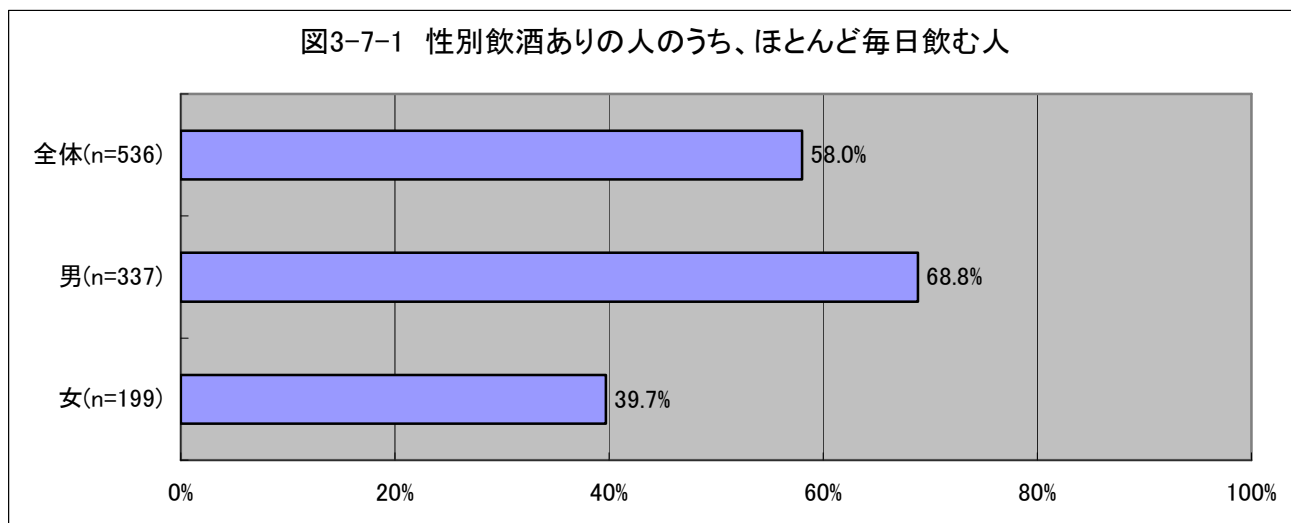


図3-7-3 年齢別飲酒ありの人のうち、ほとんど毎日飲む人(男)

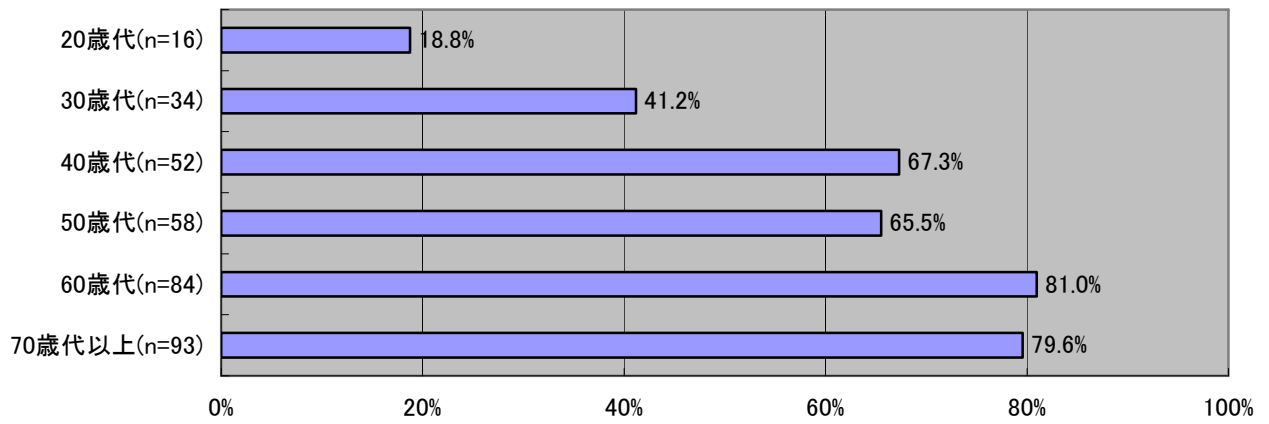
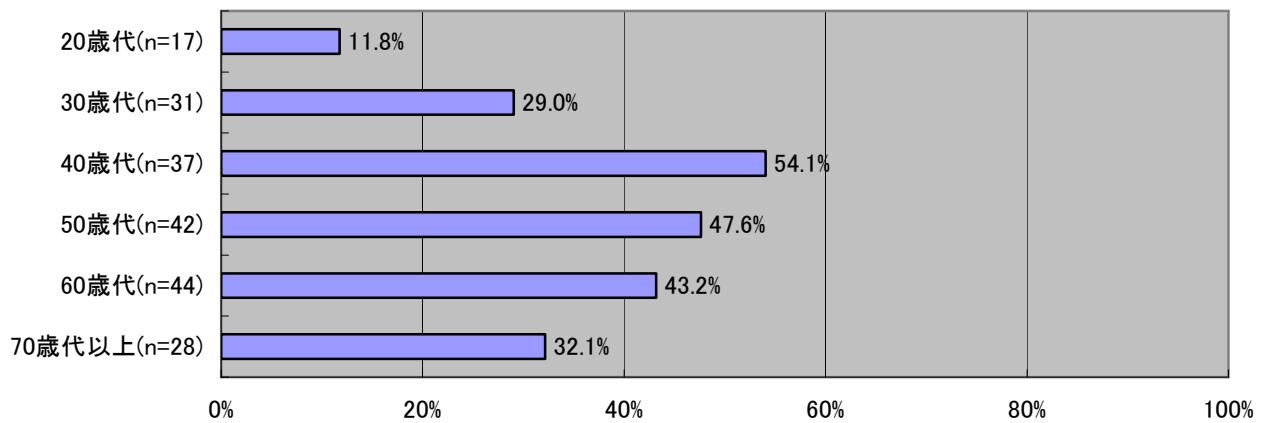


図3-7-4 年齢別飲酒ありの人のうち、ほとんど毎日飲む人(女)



8) 普段お酒を飲む人数

飲酒ありの人のうち、普段お酒を飲む人数について、全体では「1人で飲む」が59.7%、「複数で飲む」が40.3%であった。性別にみると、男性が「1人で飲む」72.8%、女性が「1人で飲む」37.7%であった。年齢別にみると、年齢が70歳代以上が最も高く、次いで50歳代、60歳代の順であった。(図3-8-1) (図3-8-2) (図3-8-3) (図3-8-4)

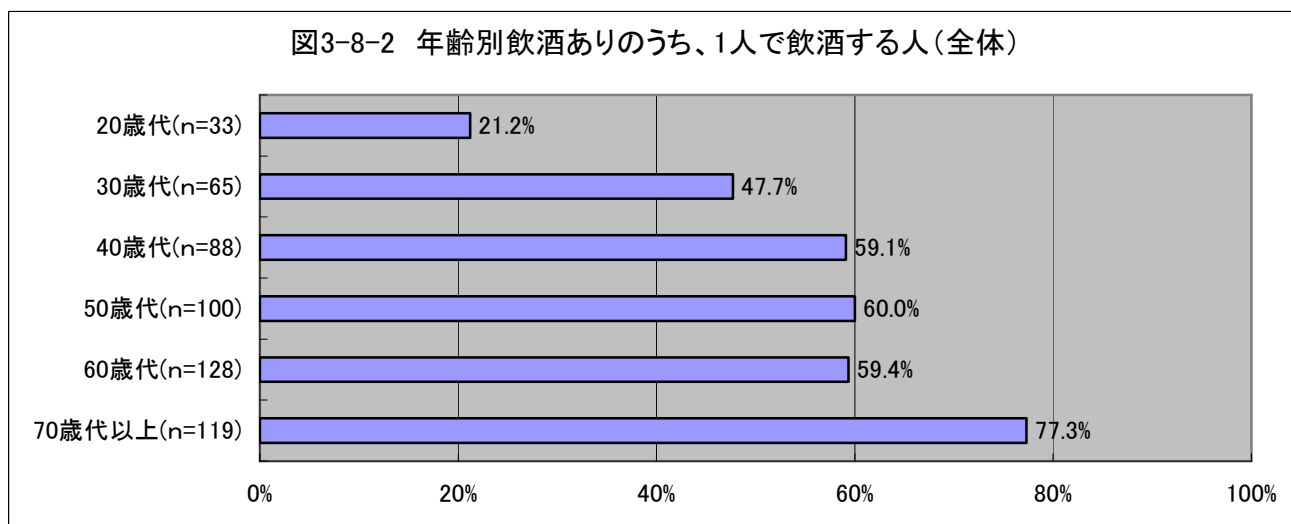
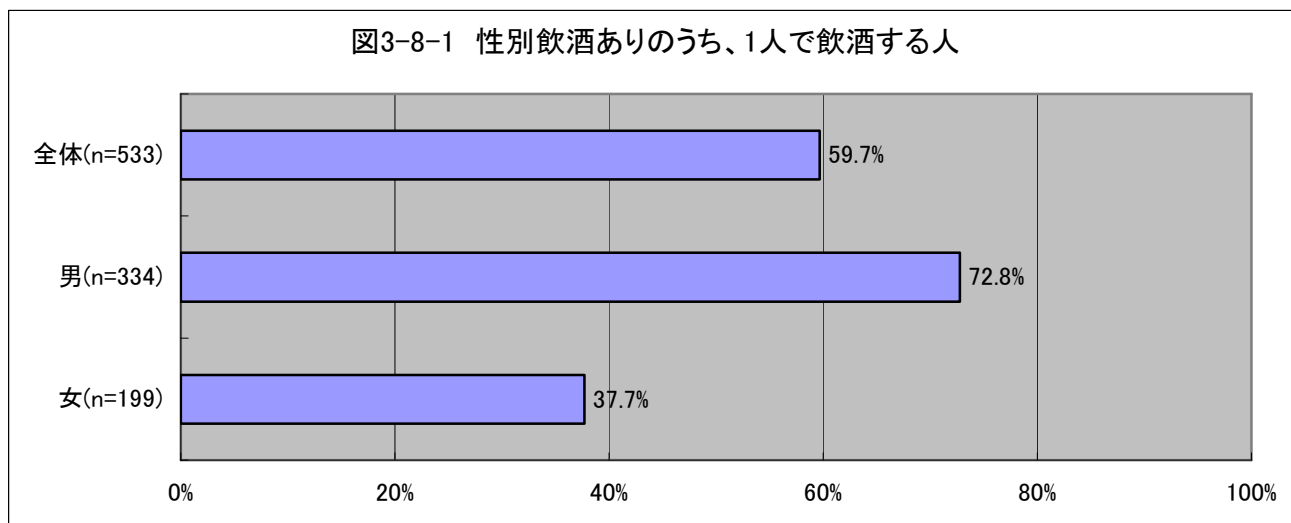


図3-8-3 年齢別飲酒ありのうち、1人で飲酒する人(男)

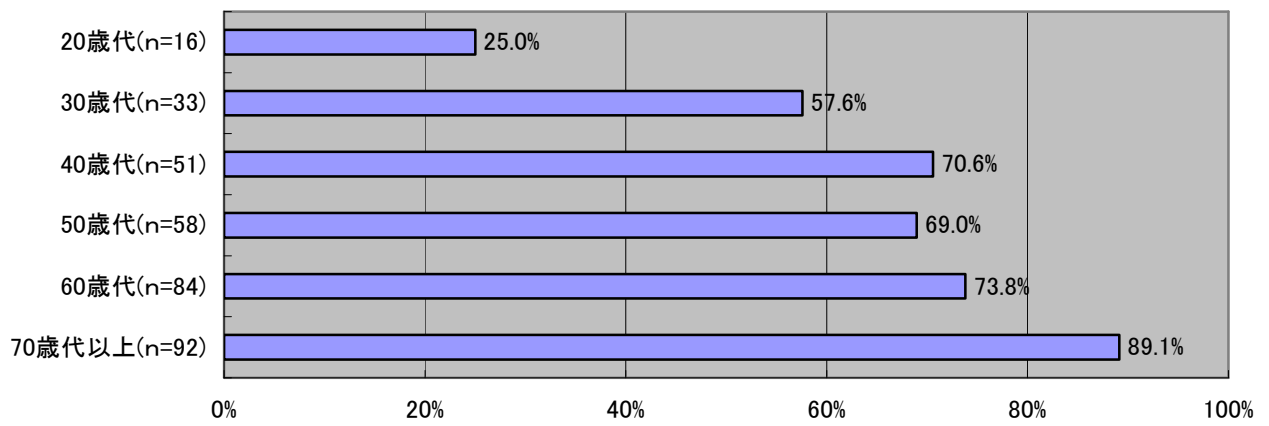
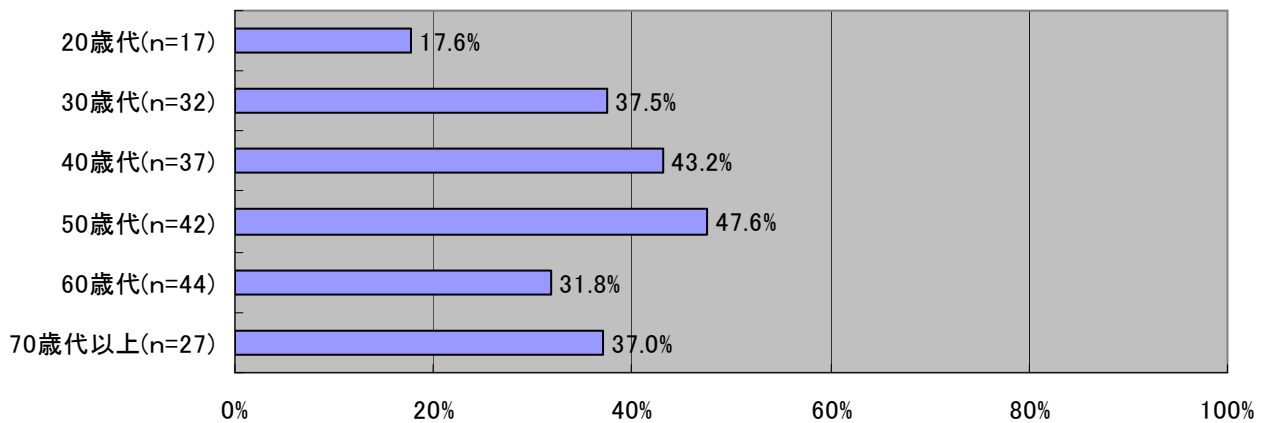
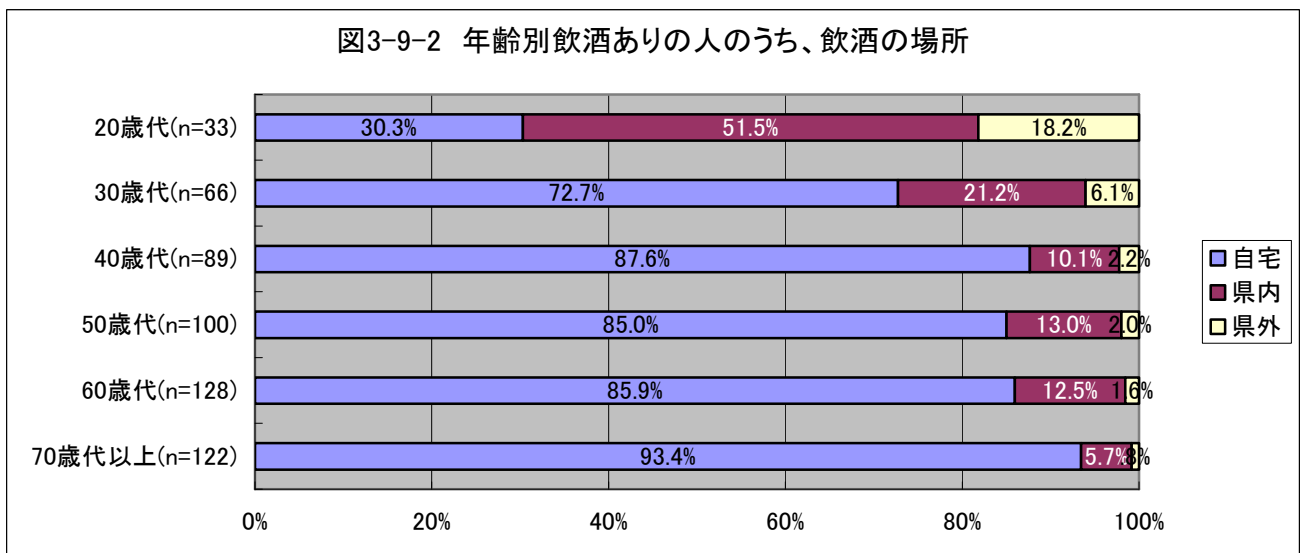
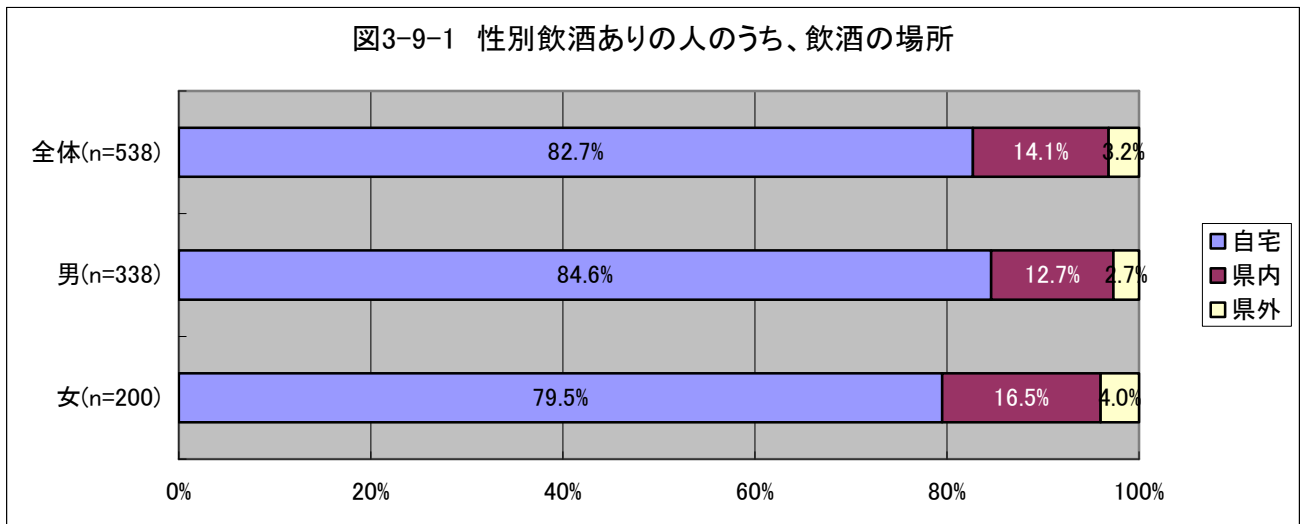


図3-8-4 年齢別飲酒ありのうち、1人で飲酒する人(女)



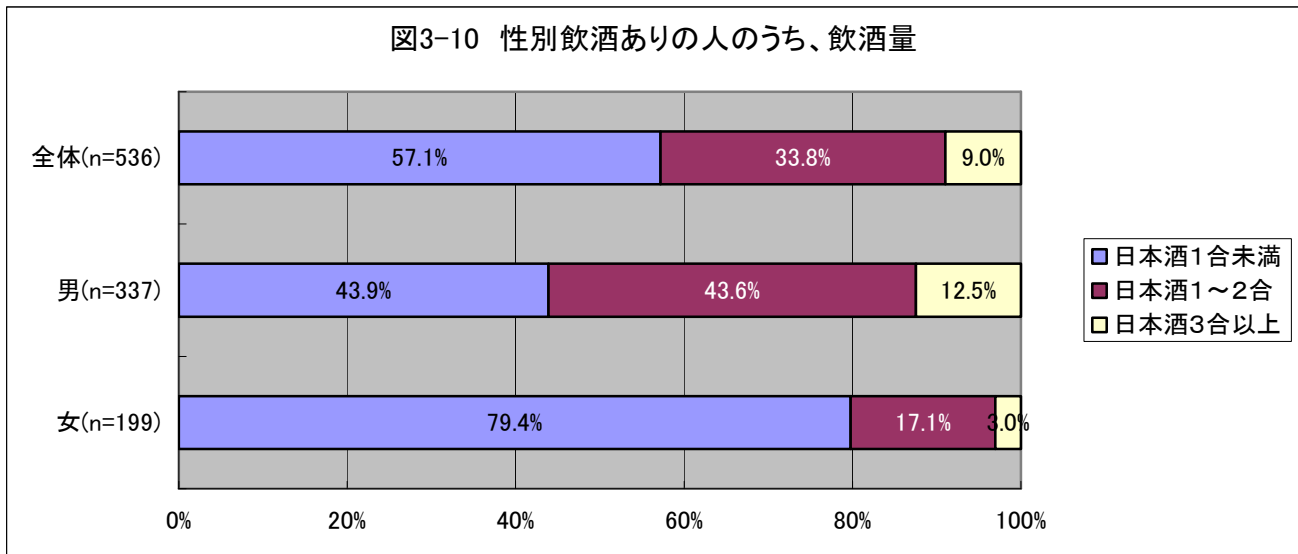
9) 普段の飲酒場所

飲酒ありの人のうち、普段お酒を飲む場所について、全体では「自宅」が 82.7%、「県内」が 14.1%であった。性別にみると、男性は「自宅」が 84.6%、「県内」が 12.7%で、女性は「自宅」79.5%、「県内」が 16.5%であった。年齢別にみると、40歳代以上で「自宅」の割合が約9割であった。(図 3-9-1) (図 3-9-2)



10) 普段の飲酒量

飲酒ありの人のうち、普段の飲酒量について、日本酒に換算すると、全体では「日本酒 1 合未満」が 57.1%、「日本酒 1～2 合」が 33.8%、「日本酒 3 合以上」が 9.0%であった。性別にみると、男性が「日本酒 1 合未満」43.9%、「日本酒 1～2 合」43.6%、「日本酒 3 合以上」12.5%で、女性は「日本酒 1 合未満」79.4%、「日本酒 1～2 合」17.1%、「日本酒 3 合以上」3.0%であった。(図 3-10)



11) 飲酒の状況

飲酒ありの人のうち、飲酒の状況について、「飲酒を減らさなければいけないと思ったことがある」は、全体が 34.1%、男性が 40.5%、女性が 23.4%であった。「飲酒を批判されて腹が立ったり、いらだったりしたことがある」は、全体が 10.1%、男性が 12.6%、女性が 6.1%であった。「飲酒に後ろめたい気持ちや罪悪感をもったことがある」は、全体が 9.1%、男性が 10.1%、女性が 7.6%であった。「朝酒や迎え酒を飲んだことがある」は、全体が 15.6%、男性が 21.7%、女性が 5.6%であった。

飲酒の状況で 2 項目以上にあてはまるものの割合は、全体が 17.6%、男性が 22.9%、女性が 8.6%であった。年齢別にみると、40 歳代が 23.9%と最も多く、次いで 50 歳代が 23.2%であった。(図 3-11-1) (図 3-11-2) (図 3-11-3) (図 3-11-4) (図 3-11-5) (図 3-11-6) (図 3-11-7) (図 3-11-8)

図3-11-1 飲酒ありの人のうち、飲酒を減らそうと思った人

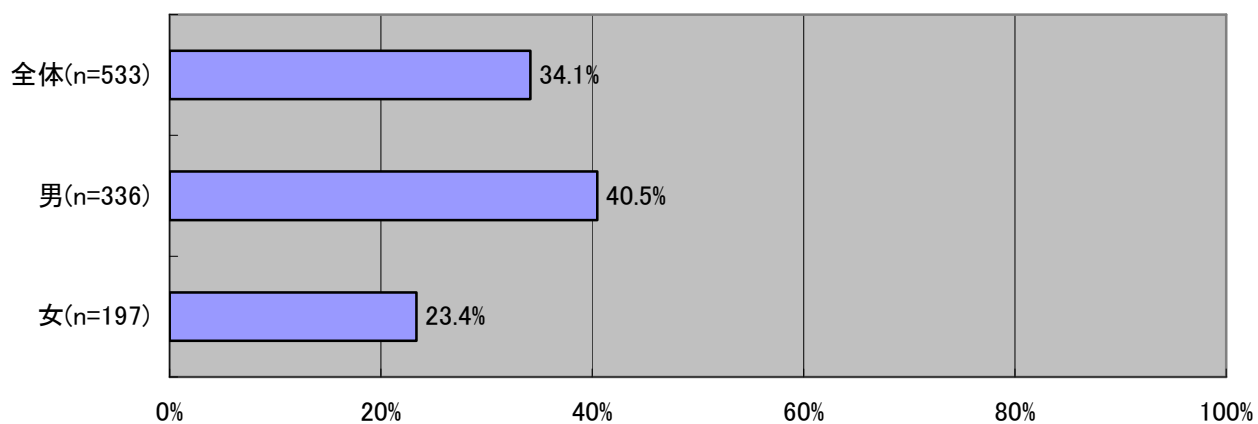


図3-11-2 飲酒ありの人のうち、飲酒を批判されて腹が立ったことがある人

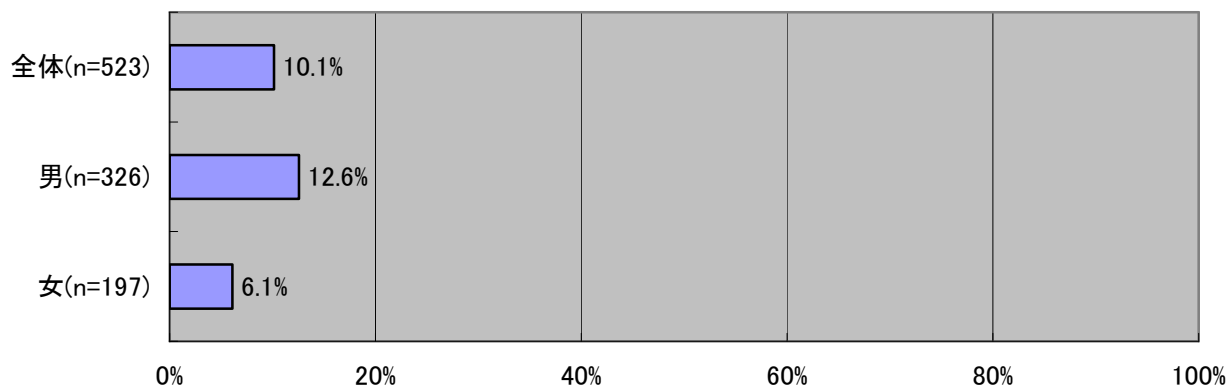


図3-11-3 飲酒ありの人のうち、飲酒に後ろめたい気持ち等をもったことがある人

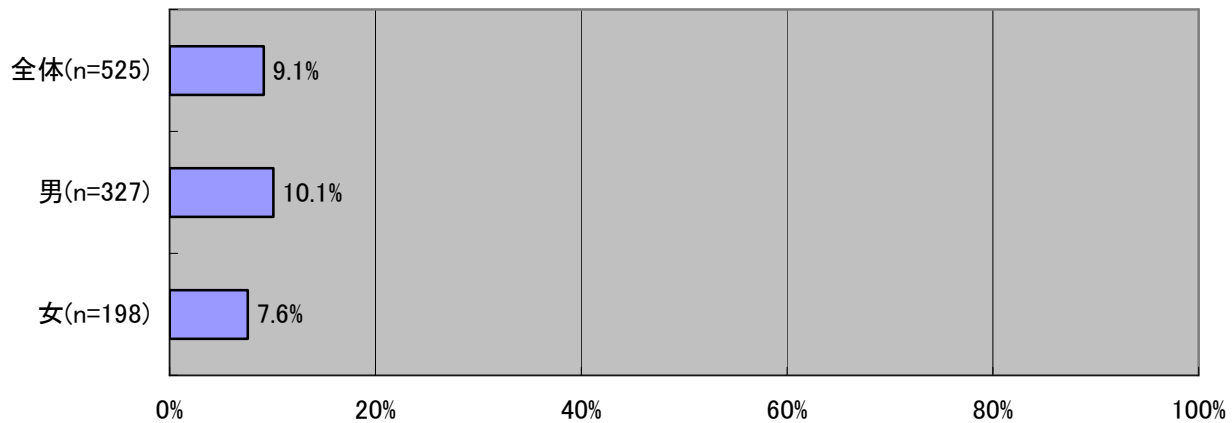


図3-11-4 飲酒ありの人のうち、朝酒等を飲んだことがある人

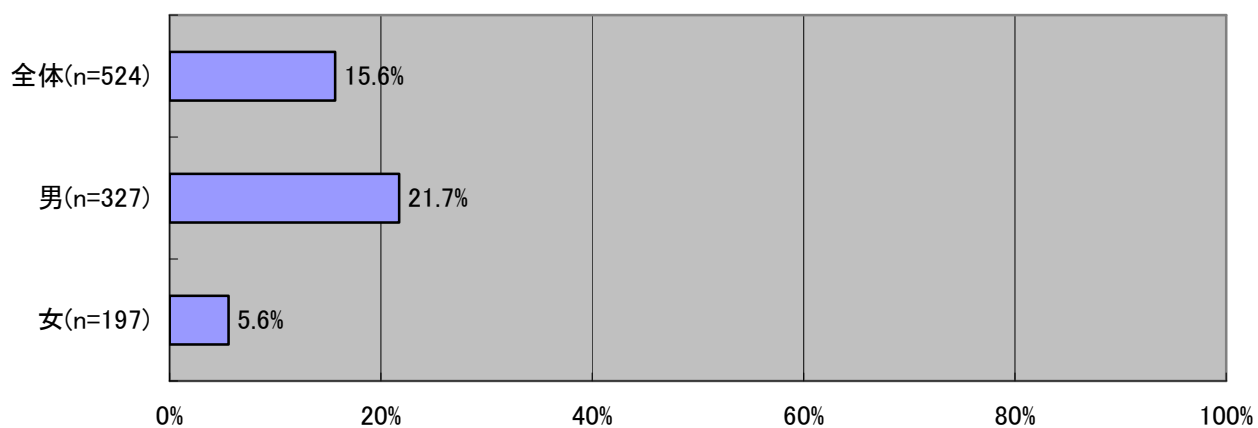


図3-11-5 性別飲酒ありの人のうち、2項目以上該当する人

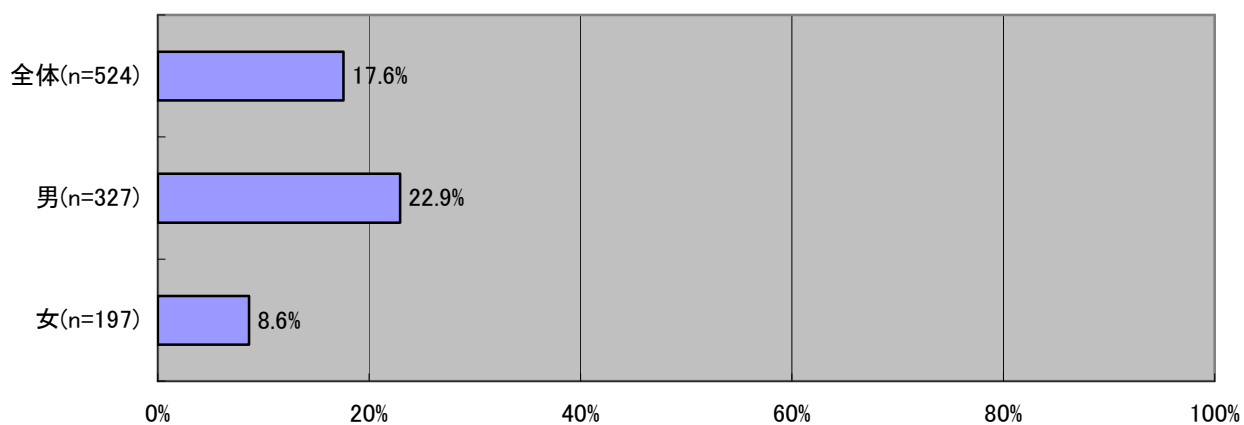


図3-11-6 年齢別飲酒ありの人のうち、2項目以上該当する人(全体)

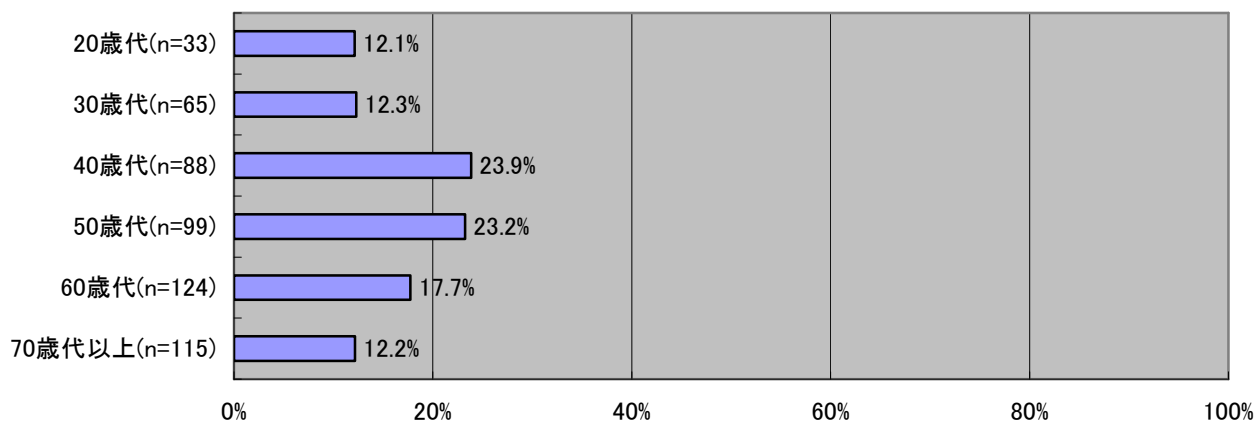


図3-11-7 年齢別飲酒ありの人のうち、2項目以上該当する人(男)

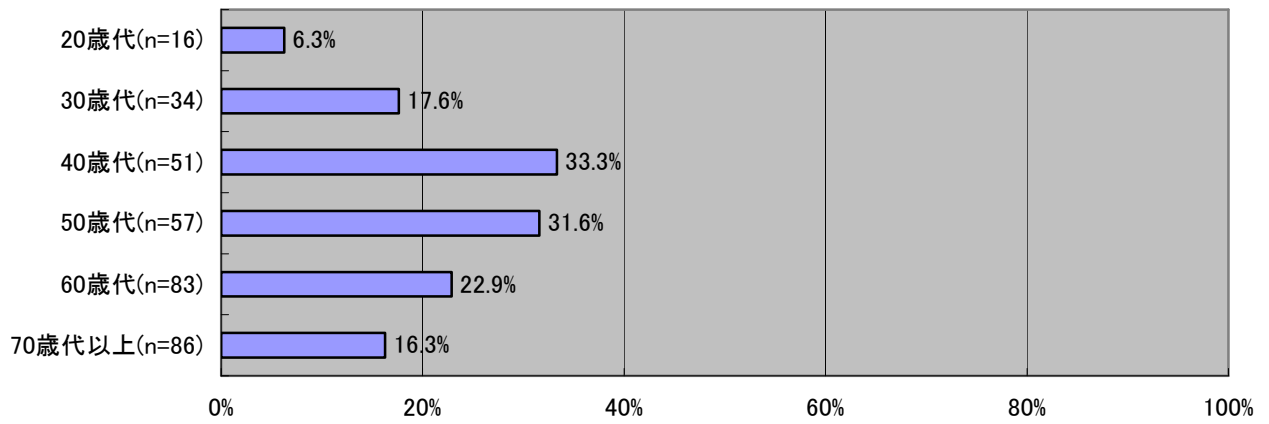
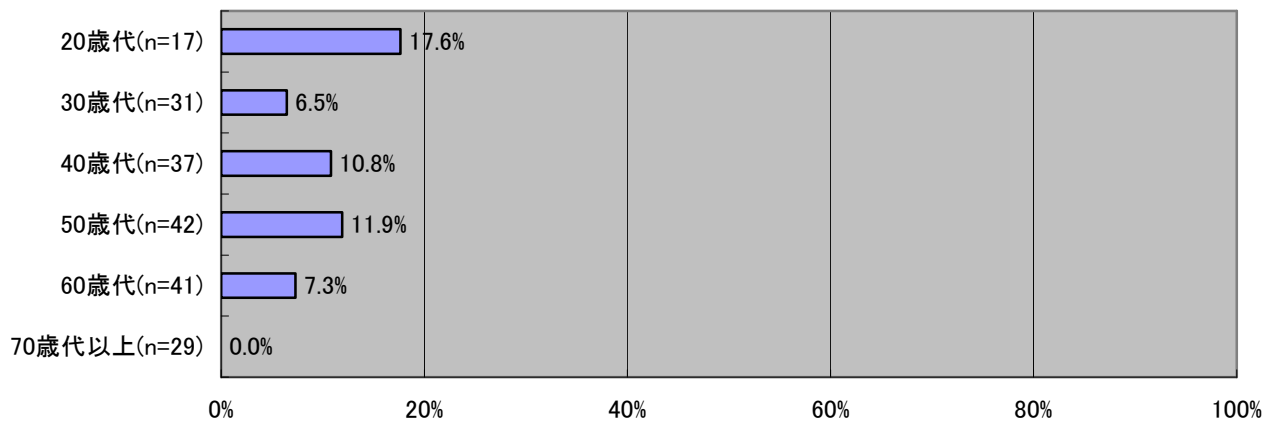


図3-11-8 年齢別飲酒ありの人のうち、2項目以上該当する人(女)

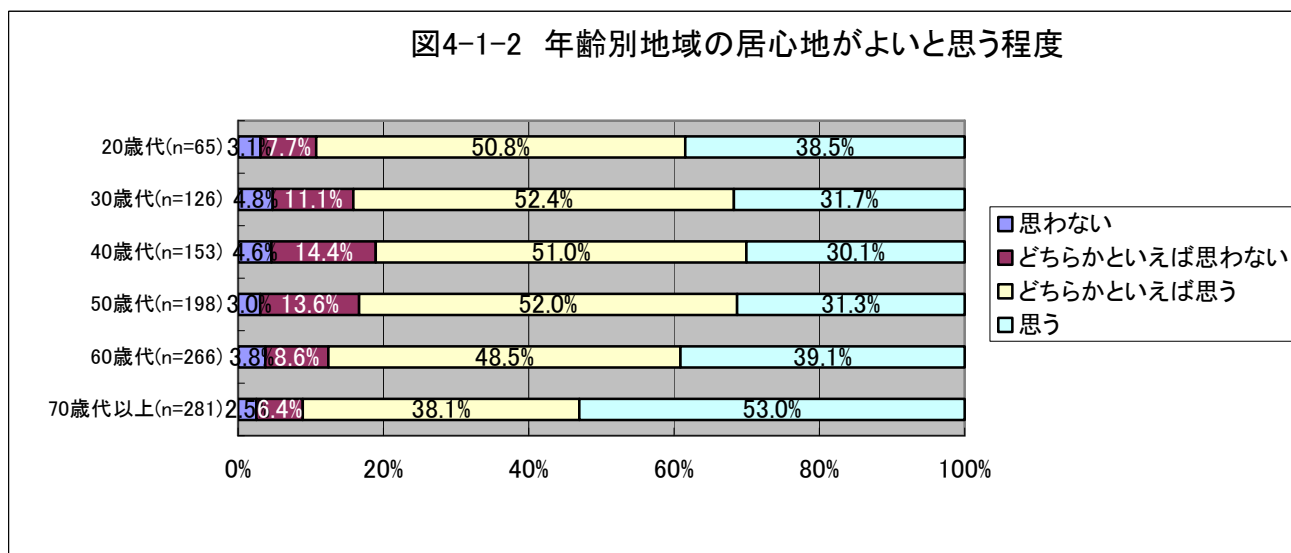
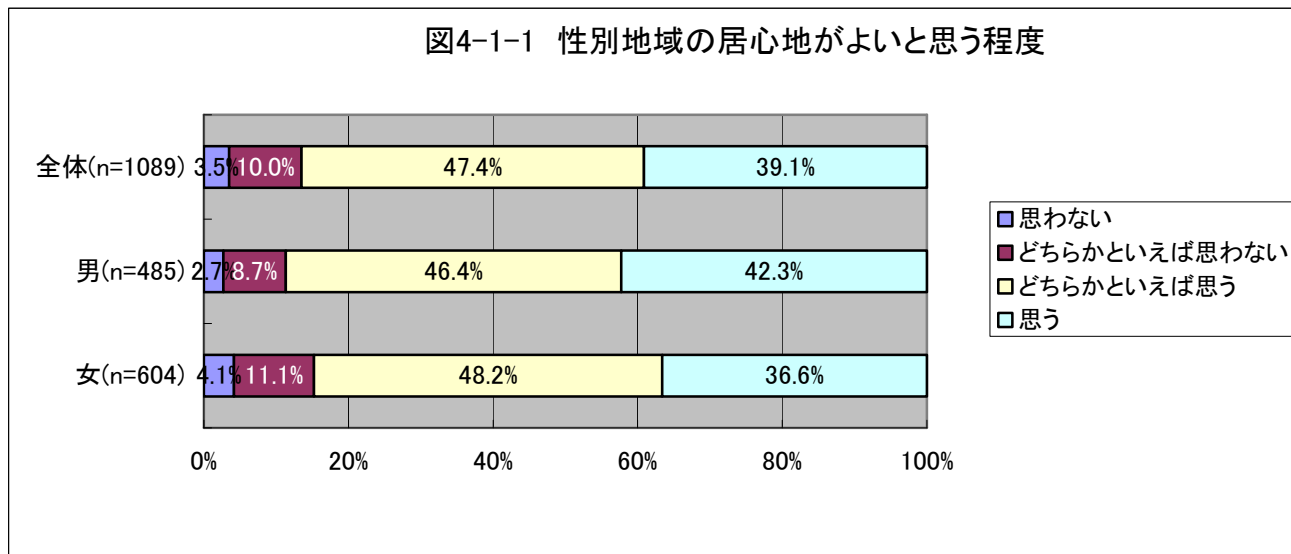


4.地域生活について

1) 地域の居心地

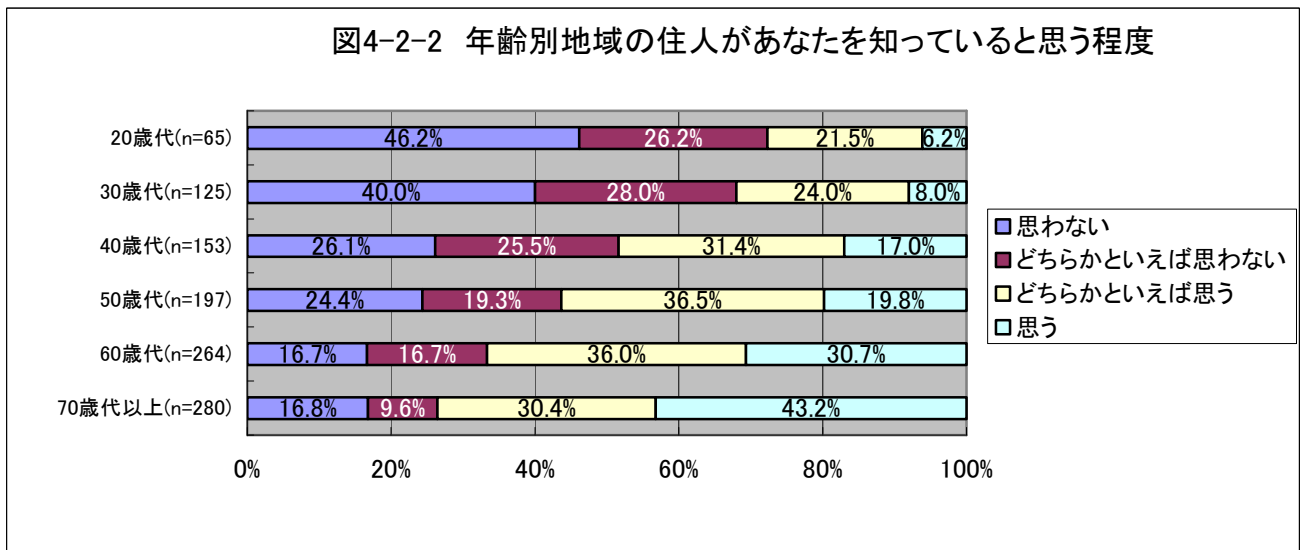
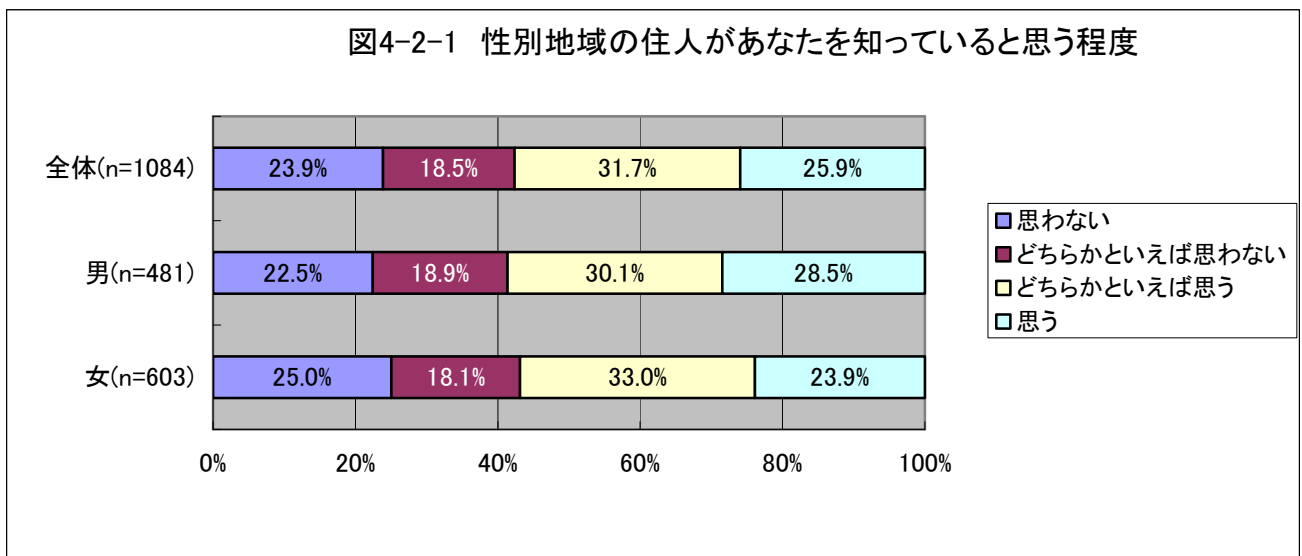
「地域は居心地がよいか」について、全体では「思わない」が3.5%、「どちらかといえ
ば思わない」が10.0%、「どちらかといえば思う」が47.4%、「思う」39.1%であった。性
別にみても同様な割合であった。「思う」の割合は、年齢別にみると70歳以上で高かった。

(図 4-1-1) (図 4-1-2)



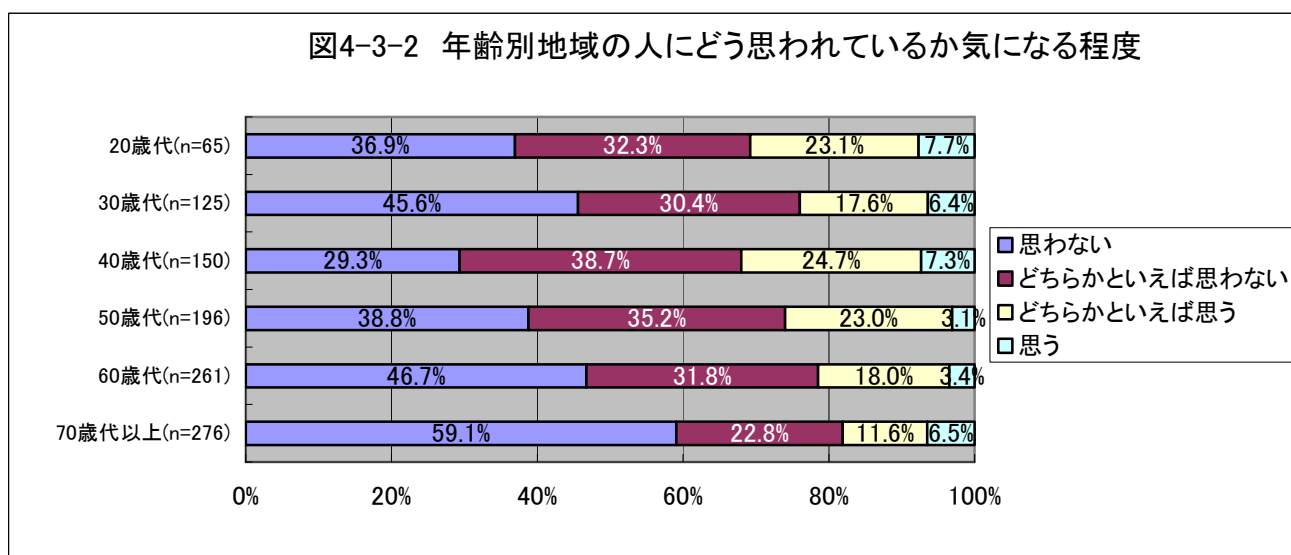
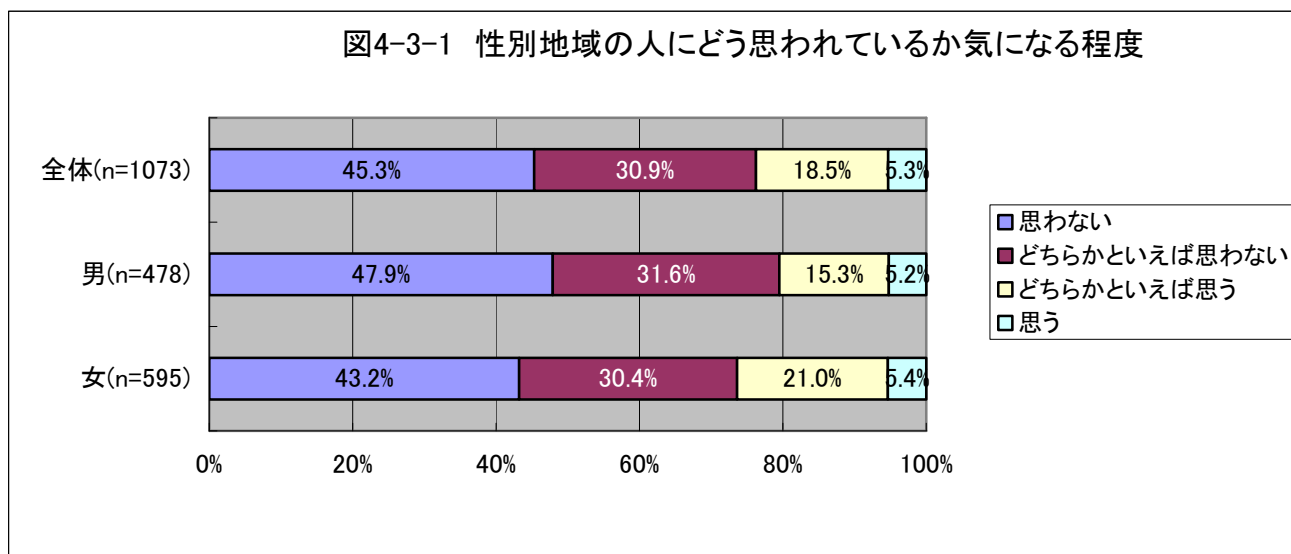
2) 地域の住人があなたを知っていると思う程度

「地域住人があなたのことを知っていると思うか」について、全体では「思わない」が23.9%、「どちらかといえば思わない」が18.5%、「どちらかといえば思う」が31.7%、「思う」が25.9%であった。性別にみると男性は「どちらかといえば思う」「思う」の順で、女性は「どちらかといえば思う」「思わない」の順であった。「思う」の割合は、年齢別にみると年齢が高くなるほど高かった。（図4-2-1）（図4-2-2）



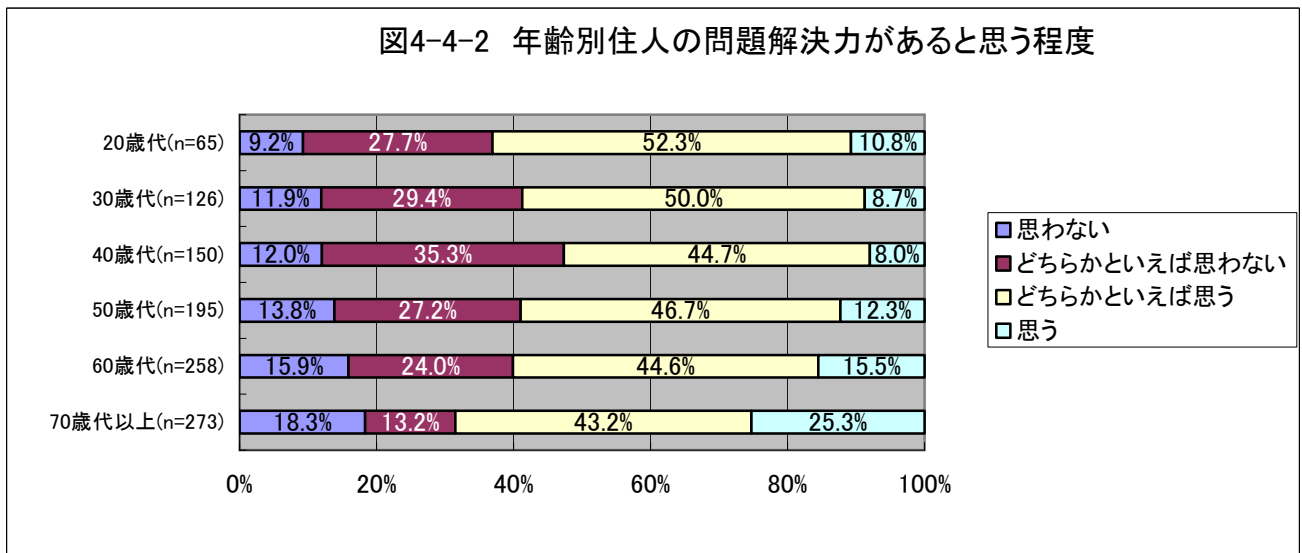
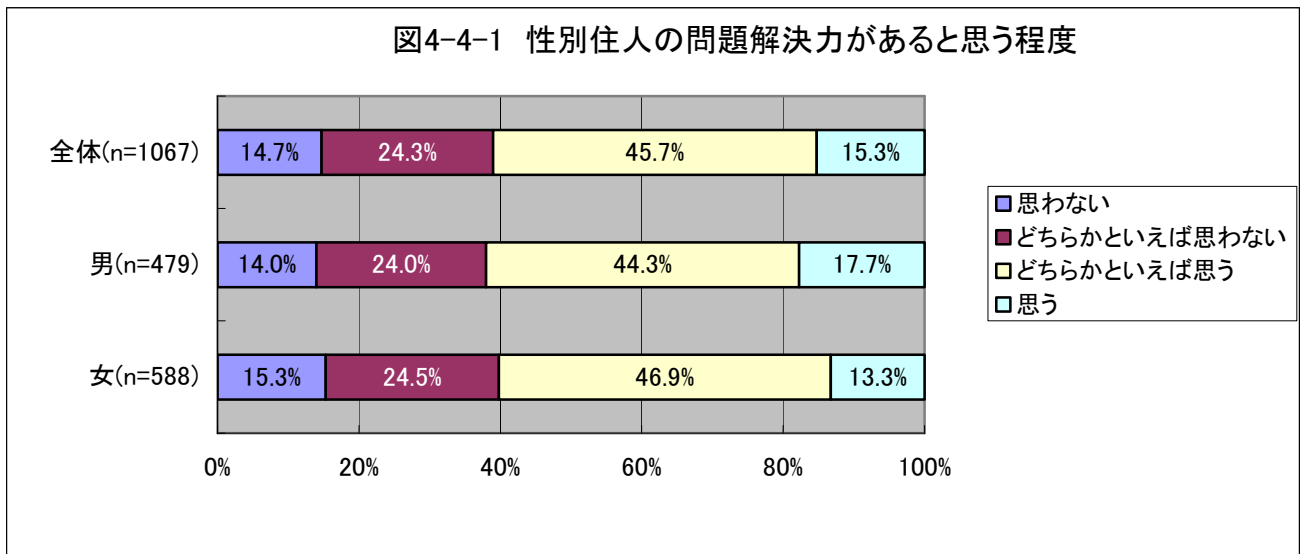
3) 地域の人にどう思われているか気になる程度

「地域の人にどう思われているかが気になるか」について、全体では「思わない」が45.3%、「どちらかといえば思わない」が30.9%、「どちらかといえば思う」が18.5%、「思う」が5.3%であった。性別にみても同様の割合であった。「思わない」は、年齢別にみると70歳以上で59.1%と最も高く、次いで60歳代46.7%、30歳代45.6%であった。(図4-3-1)(図4-3-2)



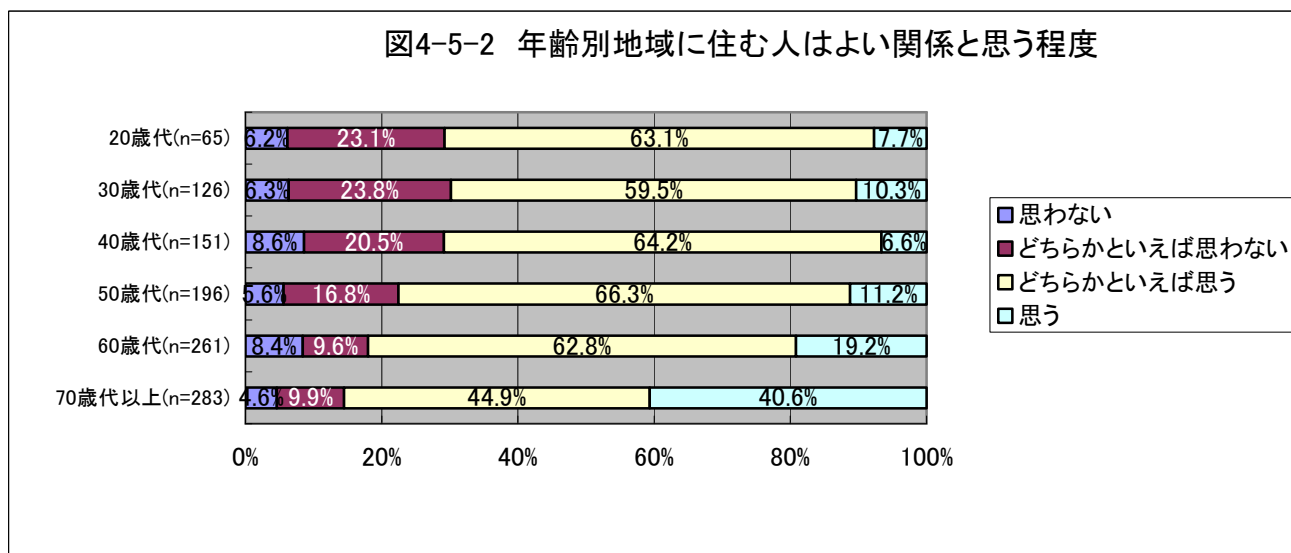
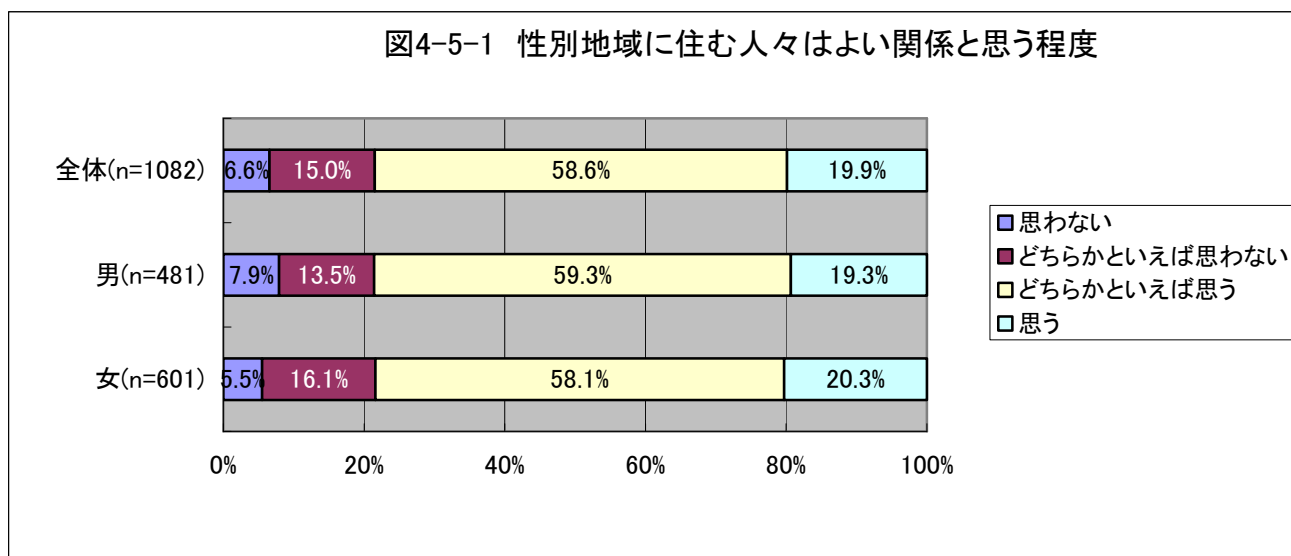
4) 住人の問題解決力

「地域の問題を住人が自ら解決できるか」について、全体では「思わない」が 14.7%、「どちらかといえば思わない」が 24.3%、「どちらかといえば思う」が 45.7%、「思う」が 15.3%、であった。性別にみると男性は「どちらかといえば思う」「どちらかといえば思わない」「思わない」の順で、女性は「どちらかといえば思う」「どちらかといえば思わない」「思わない」の順であった。「思う」は、年齢別では70歳以上で25.3%と最も高く、次いで60歳代15.5%、50歳代12.3%であった。(図4-4-1)(図4-4-2)



5) 地域との関係

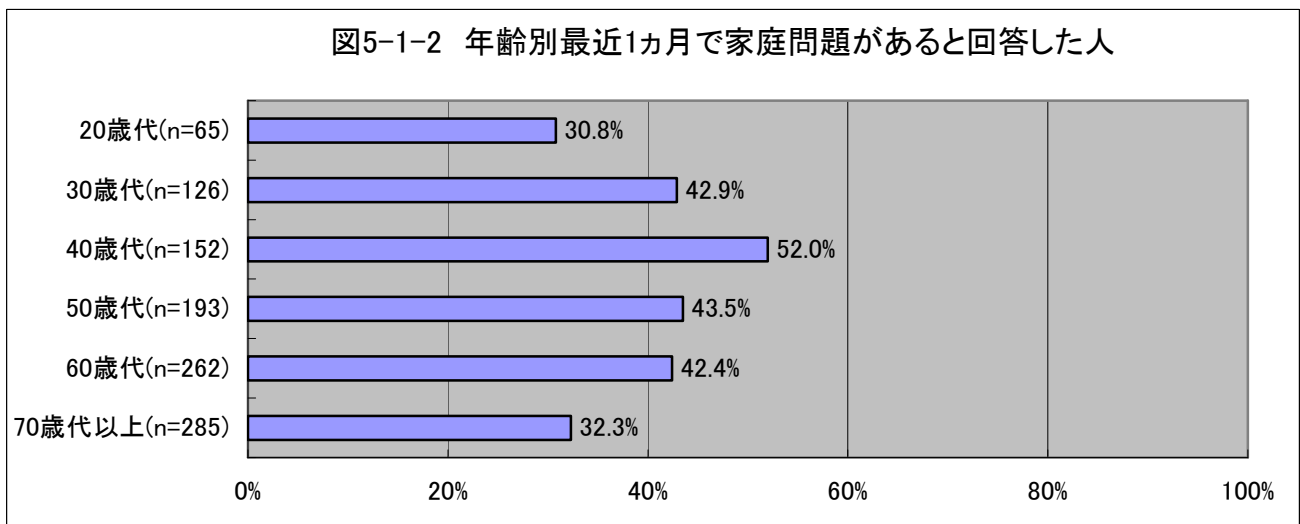
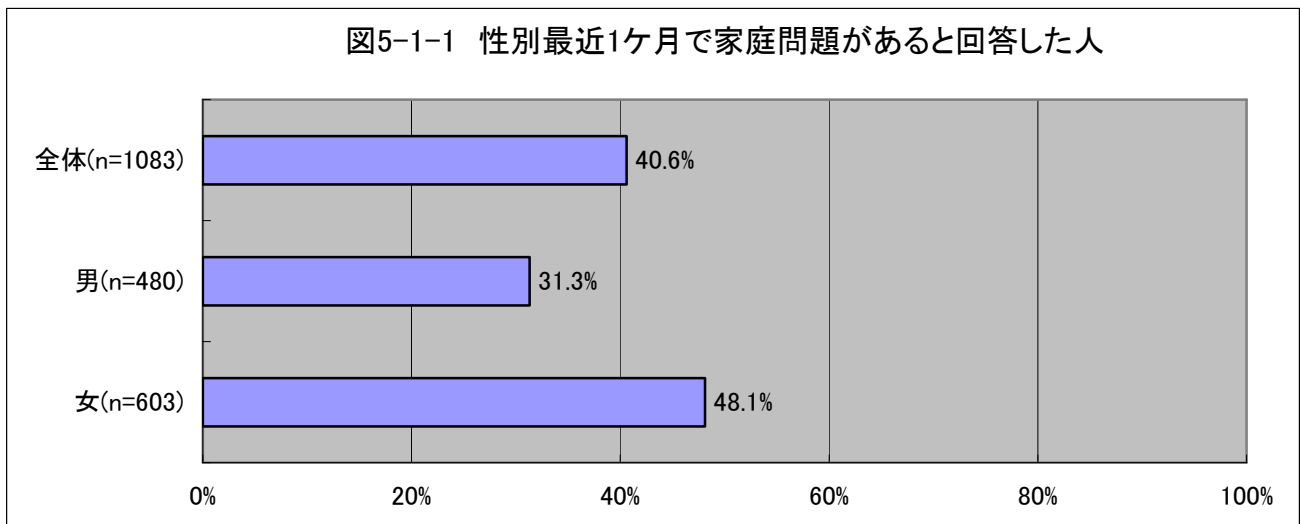
「地域に住む人々が良い関係を保っているか」については、全体では「思わない」が 6.6%、「どちらかといえば思わない」が 15.0%、「どちらかといえば思う」が 58.6%、「思う」が 19.9%、であった。性別にみても同様な割合であった。「思う」は年齢別にみると、70歳以上で 40.6%と最も高く、次いで 60 歳代 19.2%、50 歳代 11.2%であった。40 歳代の割合が 6.6%で最も低かった。(図 4-5-1) (図 4-5-2)



5.悩みやストレスについて

1)最近1ヶ月間で感じた悩み（家庭問題）

家庭問題の有無について、「あった」は全体で40.6%で、男性31.3%、女性48.1%であった。年齢別にみると、40歳代が52.0%と最も高く、次いで50歳代43.5%、30歳代42.9%の順であった。（図5-1-1）（図5-1-2）



2) 家庭問題の具体的内容(複数回答)

家庭問題の具体的内容について、全体では「家族の健康・病気」が最も高く、次いで「子育て・子どもの問題」「介護や看護」「夫婦問題」の順であった。性別にみると男性は、「家族の健康・病気」「子育て・子どもの問題」「介護や看護」「家族関係の不和」の順で、女性は「家族の健康・病気」「子育て・子どもの問題」「介護や看護」「夫婦問題」の順であった。年齢別にみると「家族の健康・病気」が70歳代で最も高く、「子育て・子どもの問題」は30歳代で最も高く、「介護や看護」は60歳代で最も高かった。(図5-2-1)

(図5-2-2)

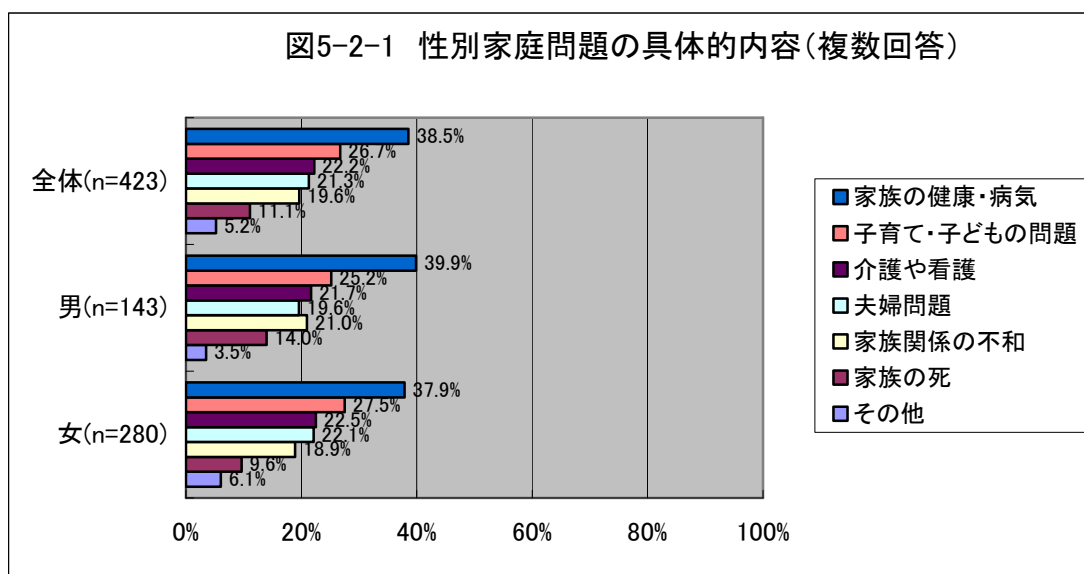
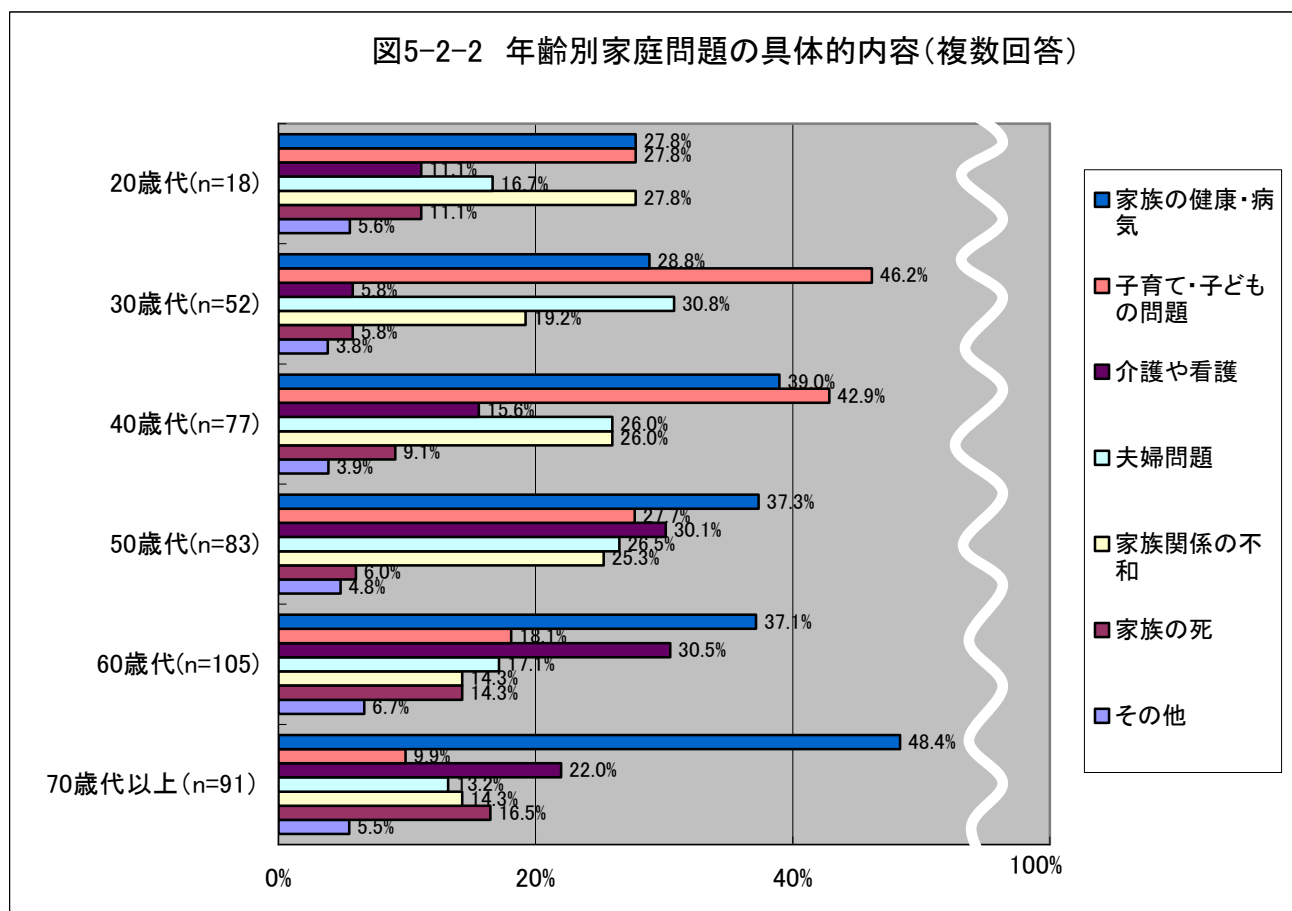


図5-2-2 年齢別家庭問題の具体的内容(複数回答)



3) 家庭問題以外の悩み

健康問題の有無について、「あった」は全体 39.6%で、男性 36.2%、女性 42.2%であった。年齢別にみると、70歳代以上が 46.9%と最も高かった。職場などの問題の有無について、「あった」は全体 29.8%で、男性 34.5%、女性 26.0%であった。年齢別にみると、40歳代が 51.4%と最も高かった。経済生活問題の有無について、「あった」は全体 16.8%で、男性 18.8%、女性 15.3%であった。年齢別にみると、40歳代が 23.6%と最も高かった。男女問題の有無について、「あった」は全体 5.6%で、男性 5.1%、女性 6.1%であった。年齢別にみると、20歳代が 20.0%と最も高かった。学校問題の有無について、「あった」は全体 2.9%で、男性 2.0%、女性 3.7%であった。その他の問題の有無について、「あった」は全体 14.9%で、男性 11.3%、女性 17.9%であった。(図 5-3-1) (図 5-3-2) (図 5-3-3) (図 5-3-4) (図 5-3-5) (図 5-3-6) (図 5-3-7) (図 5-3-8) (図 5-3-9) (図 5-3-10) (図 5-3-11) (図 5-3-12)

図5-3-1 性別健康問題があると回答した人

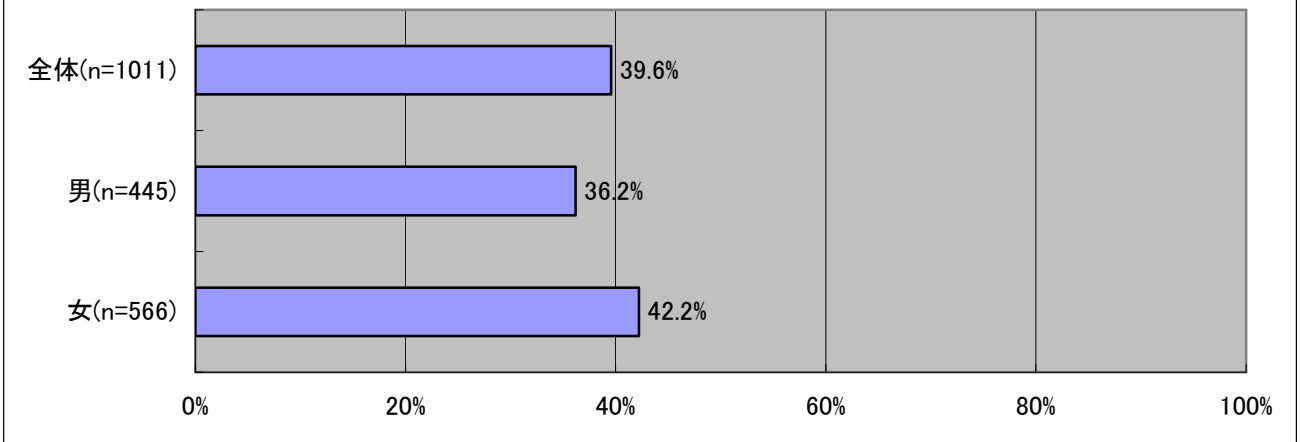


図5-3-2 年齢別健康問題があると回答した人

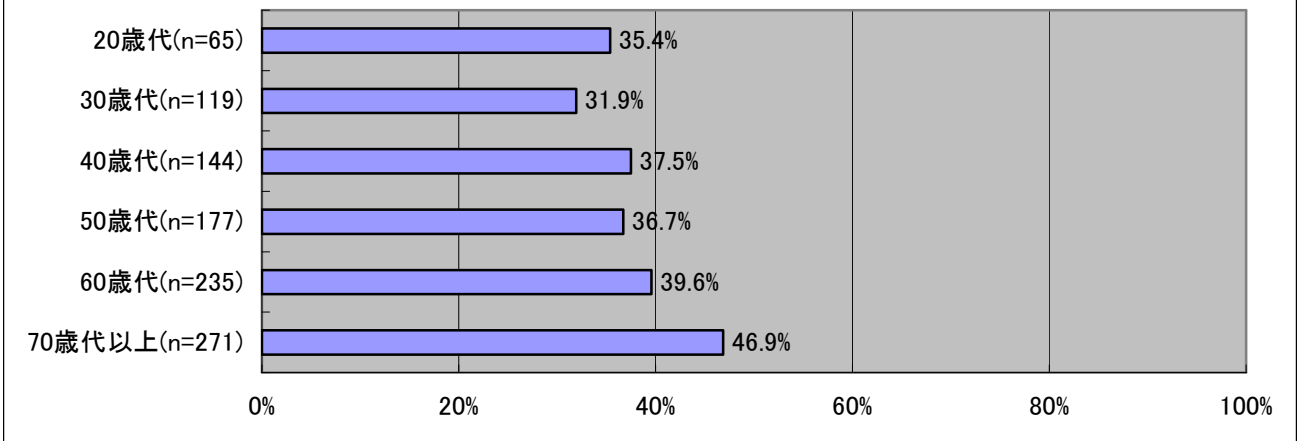


図5-3-3 性別職場の問題があると回答した人

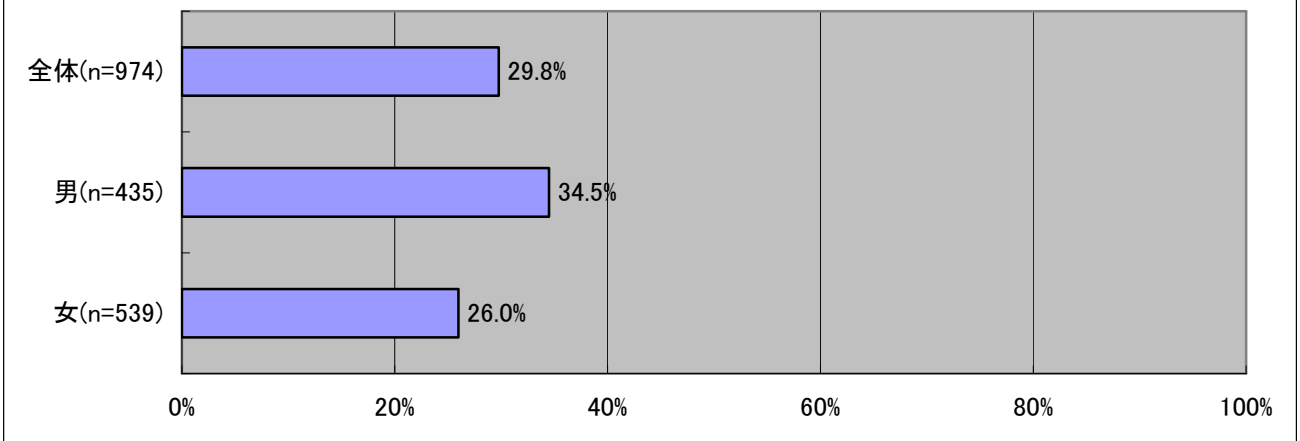


図5-3-4 年齢別職場の問題があると回答した人

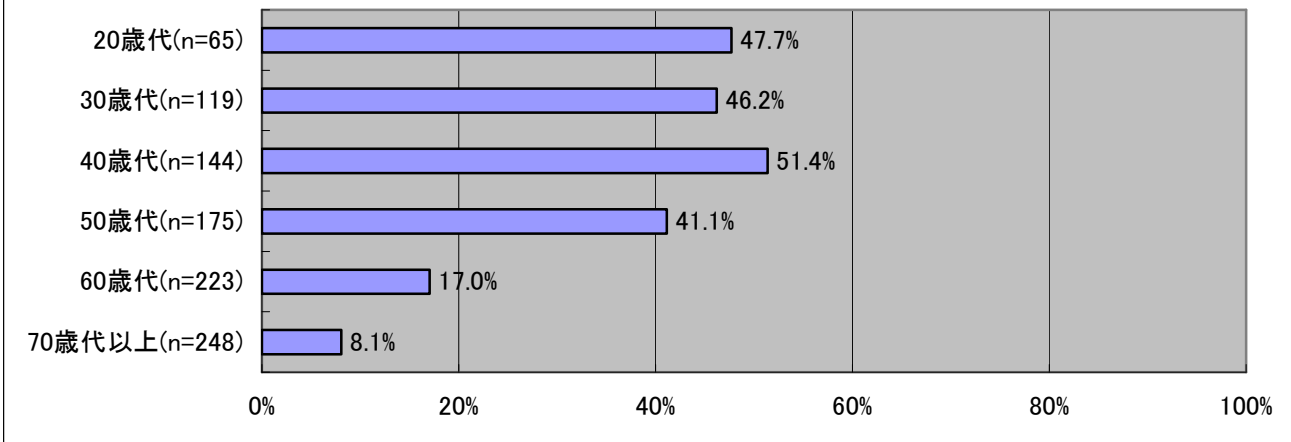


図5-3-5 性別経済生活問題があると回答した人

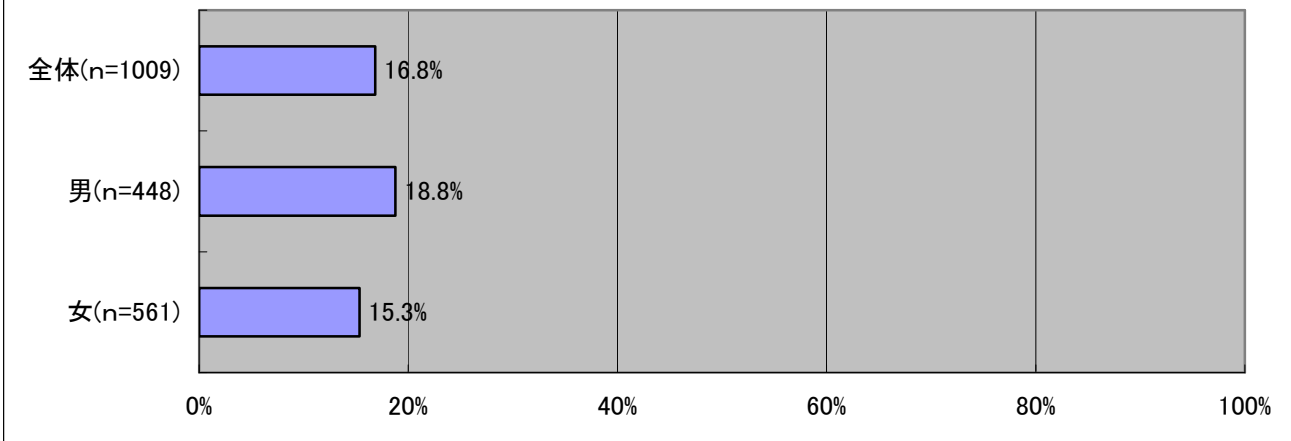


図5-3-6 年齢別経済生活問題があると回答した人

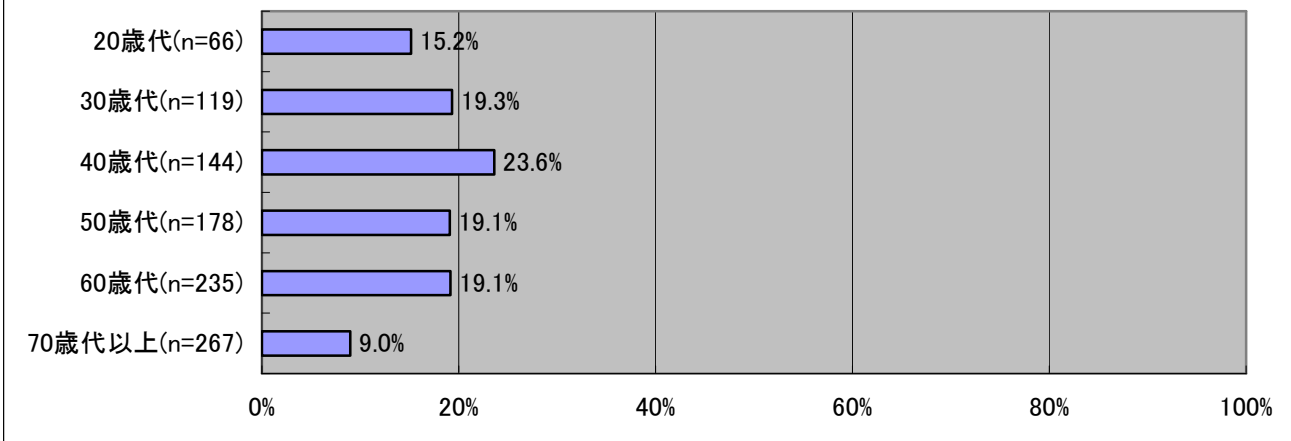


図5-3-7 性別男女問題があると回答した人

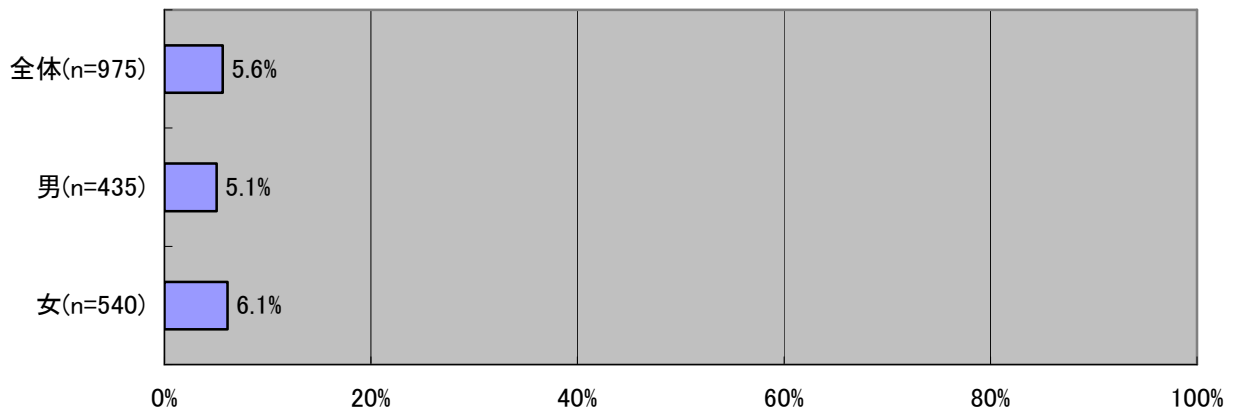


図5-3-8 年齢別男女問題があると回答した人

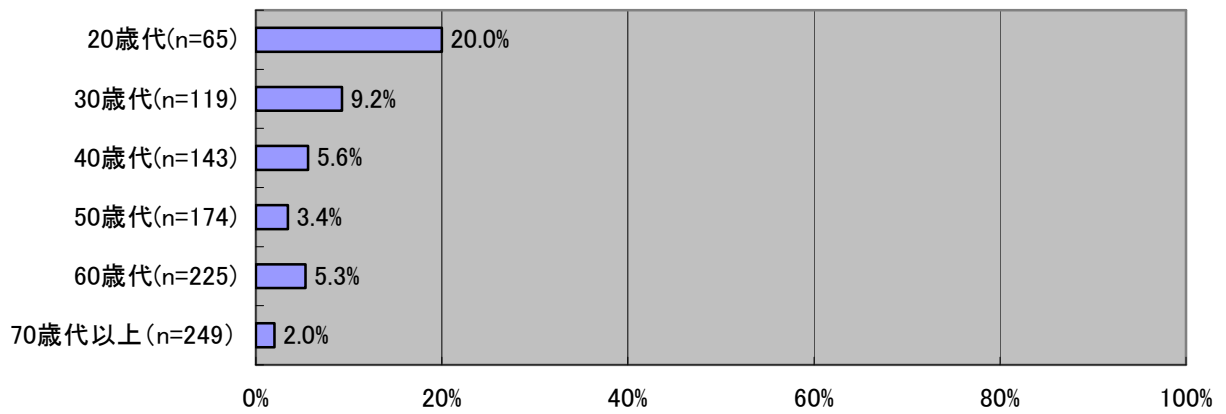


図5-3-9 性別学校問題があると回答した人

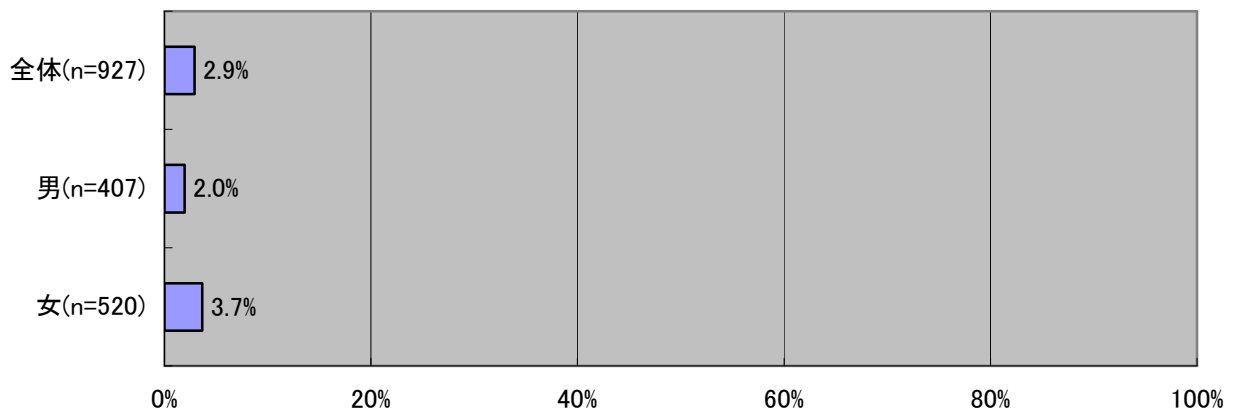


図5-3-10 年齢別学校問題があると回答した人

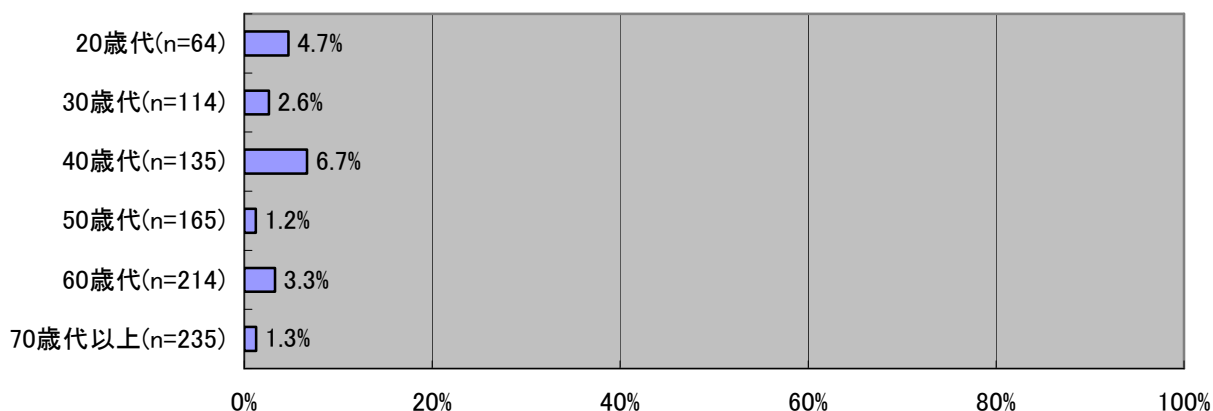


図5-3-11 性別その他の問題があると回答した人

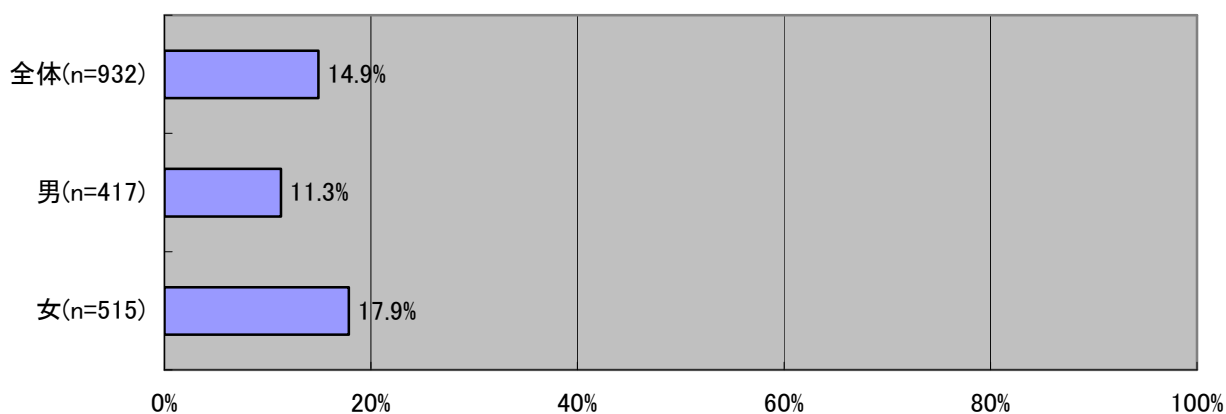
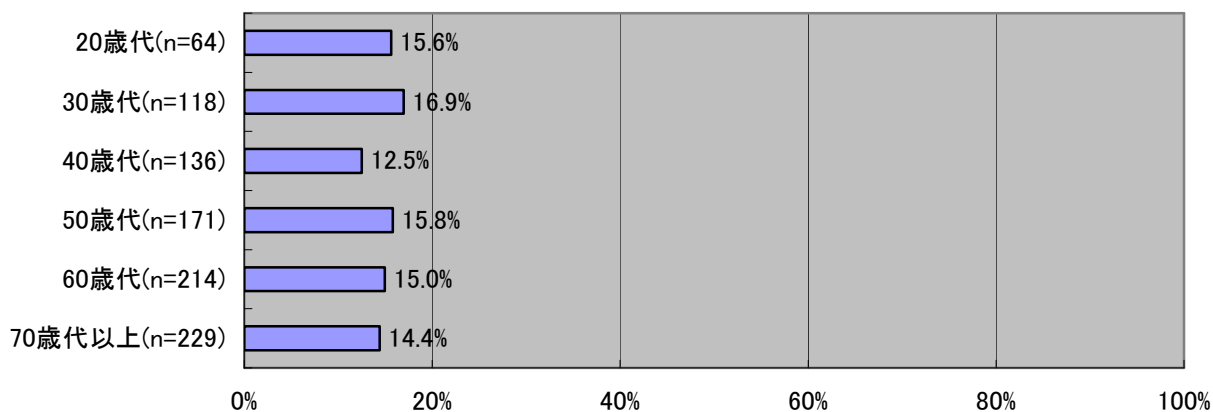
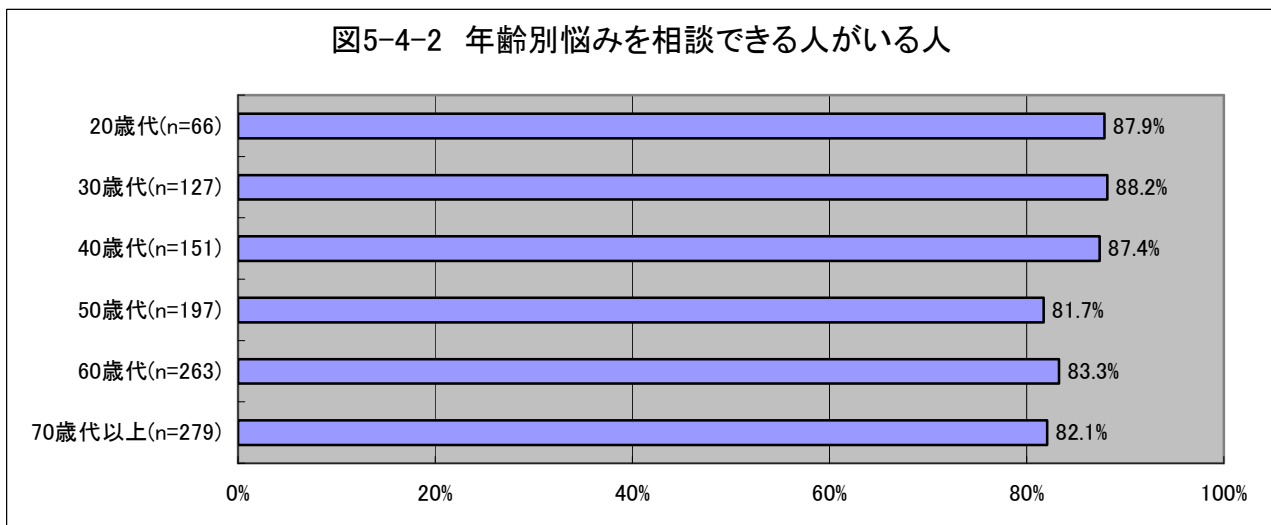
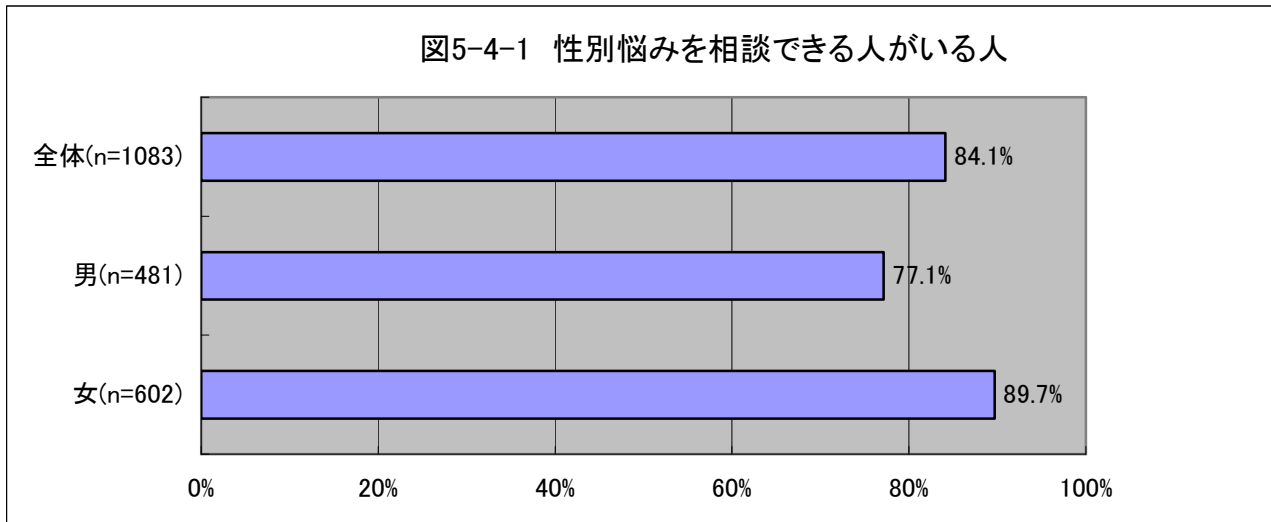


図5-3-12 年齢別その他の問題があると回答した人



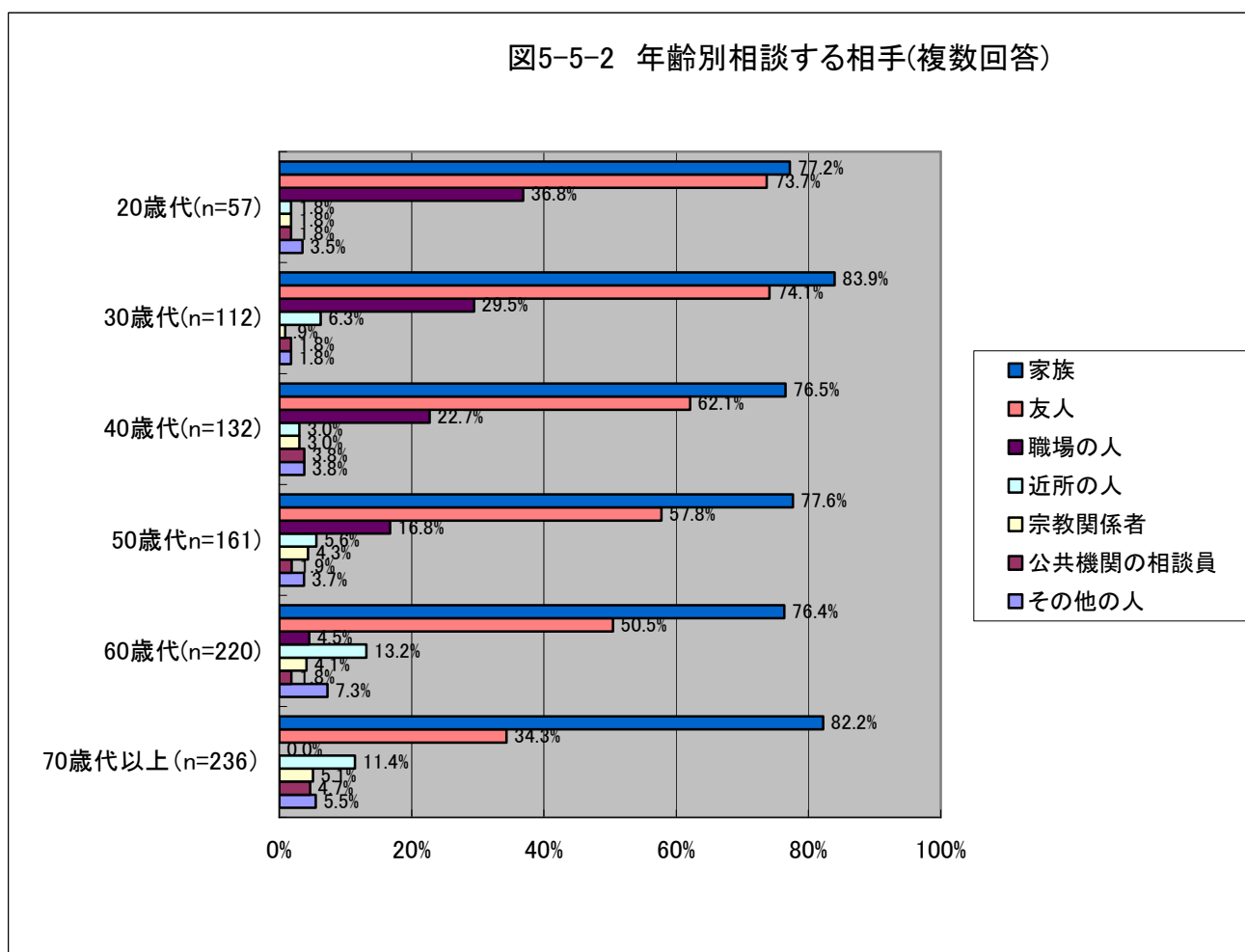
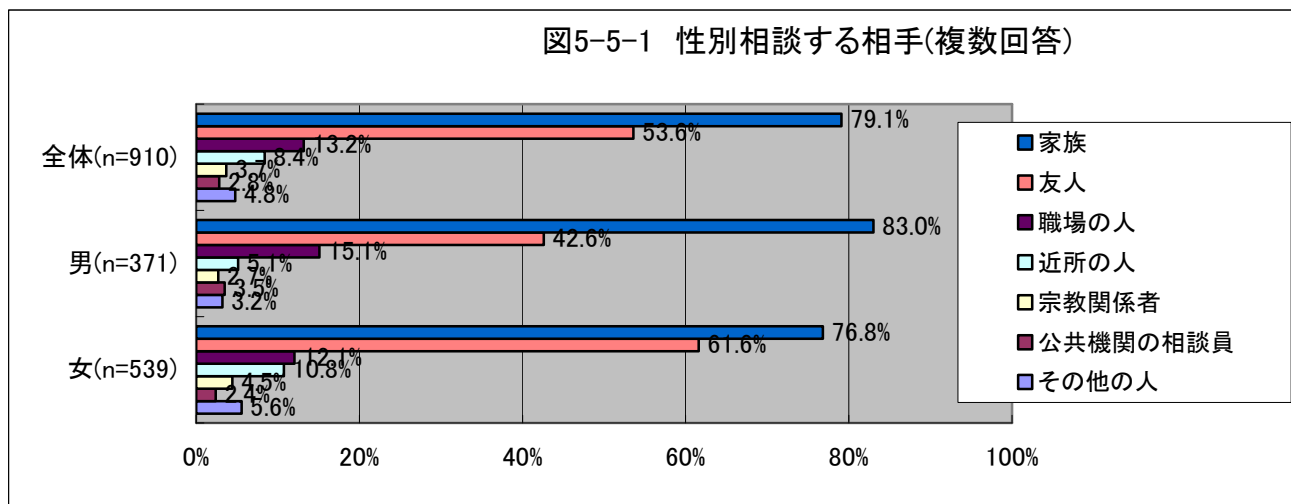
4) 悩みやストレスについて相談できる人の有無

相談できる人の有無について、「いる」は全体で 84.1%、性別にみると男性は 77.1%、女性は 89.7%であった。（図 5-4-1）（図 5-4-2）



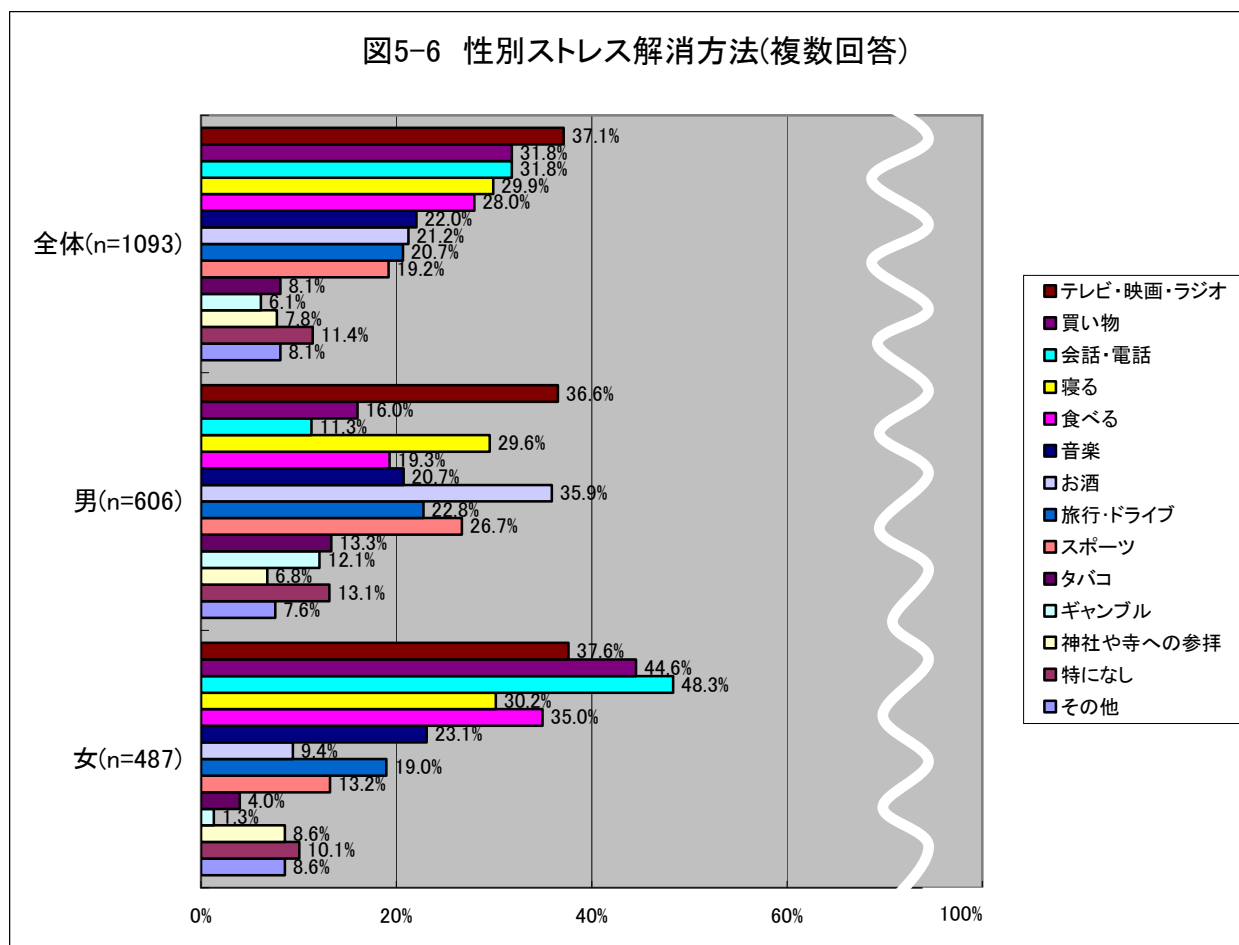
5) 悩みやストレスについてよく相談する相手(複数回答)

よく相談する相手について、全体で最も高かったのは「家族」で、次いで「友人」「職場の人」の順であった。性別にみても同様の順であった。年齢別にみると60歳代以上で、「家族」「友人」「近所の人」の順であった。(図5-5-1) (図5-5-2)



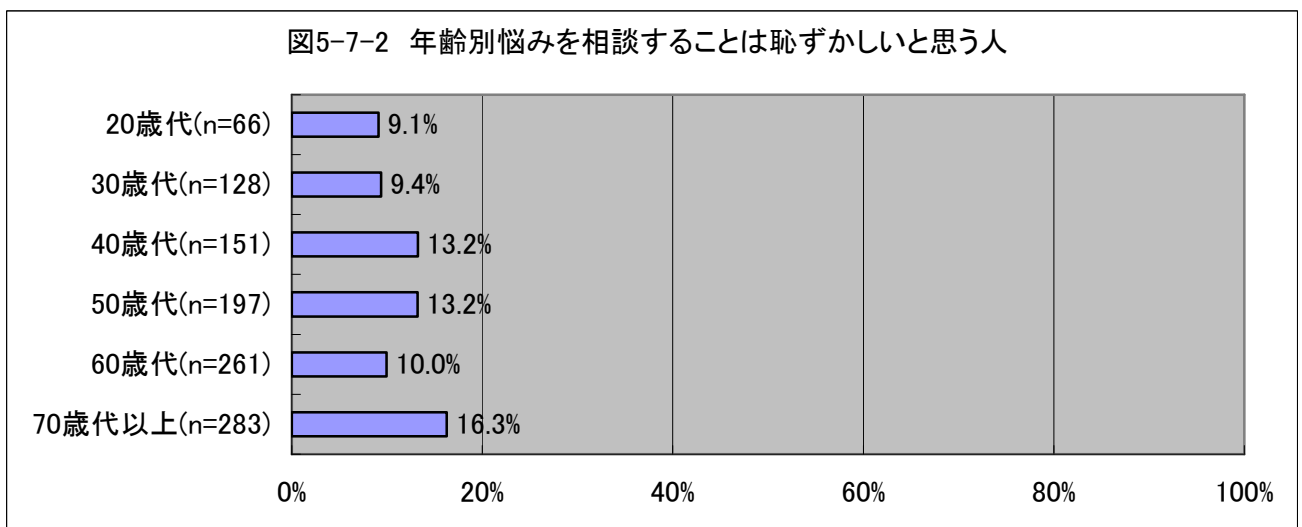
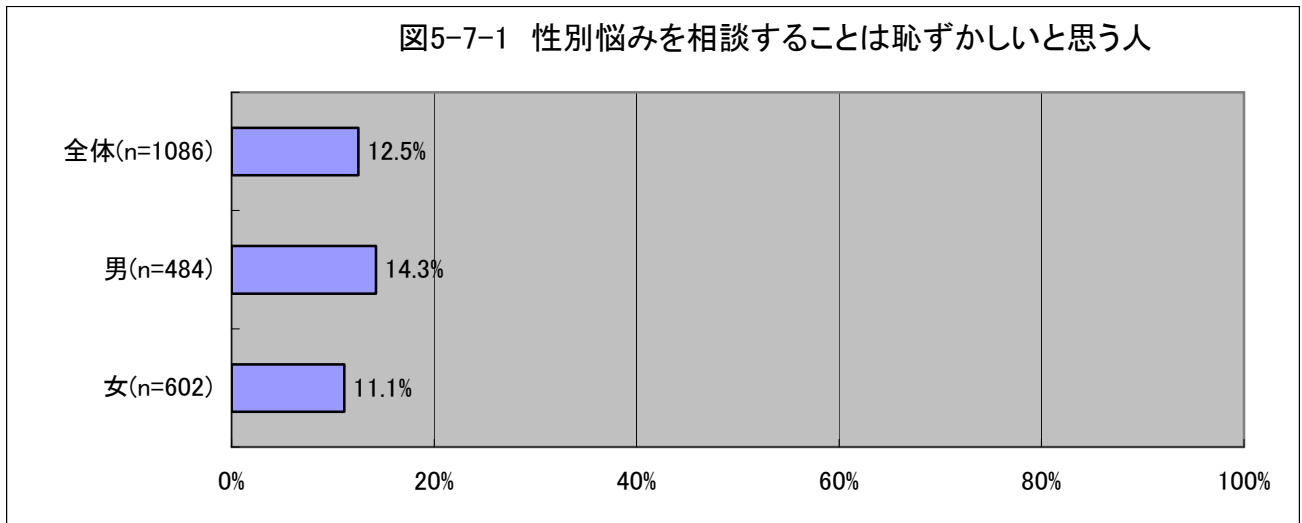
6) 悩みやストレスを解消するためによく行うこと（複数回答）

悩みやストレスの解消法としては、全体で「テレビ・映画・ラジオ」が最も高く、次いで「買い物」「会話・電話」「寝る」の順であった。性別にみると、男性は「テレビ・映画・ラジオ」が最も高く、次いで「お酒」「寝る」「スポーツ」の順であった。女性は、「会話・電話」が最も高く、次いで「買い物」「テレビ・映画・ラジオ」「食べる」の順であった。（図5-6）



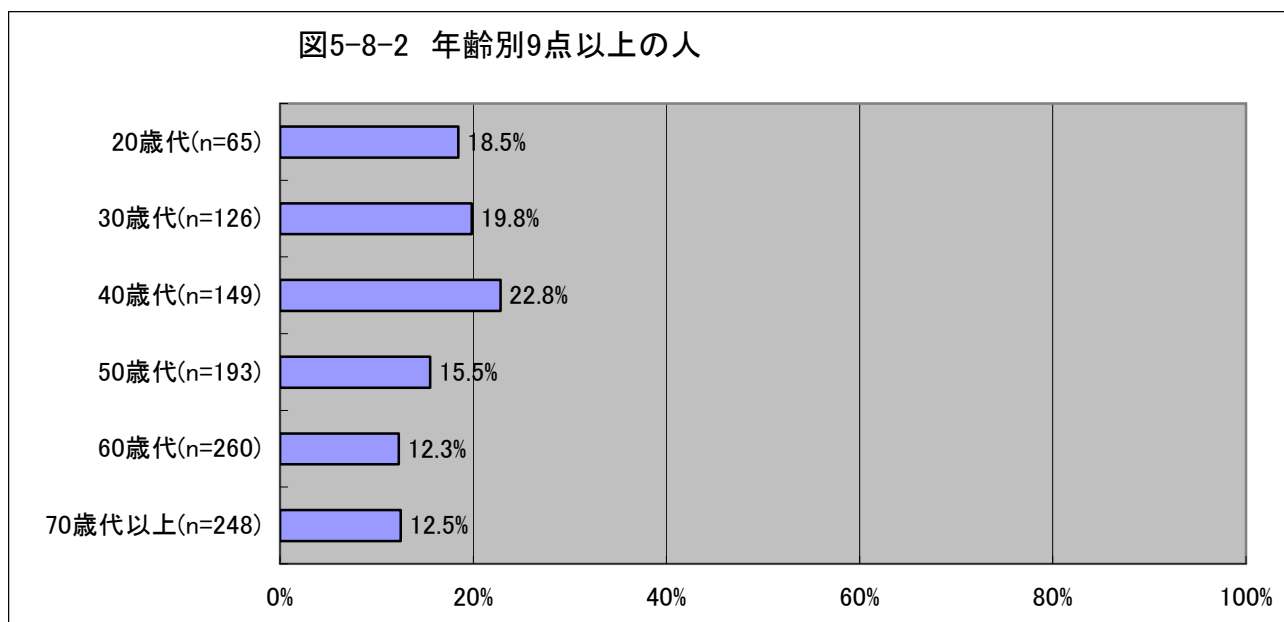
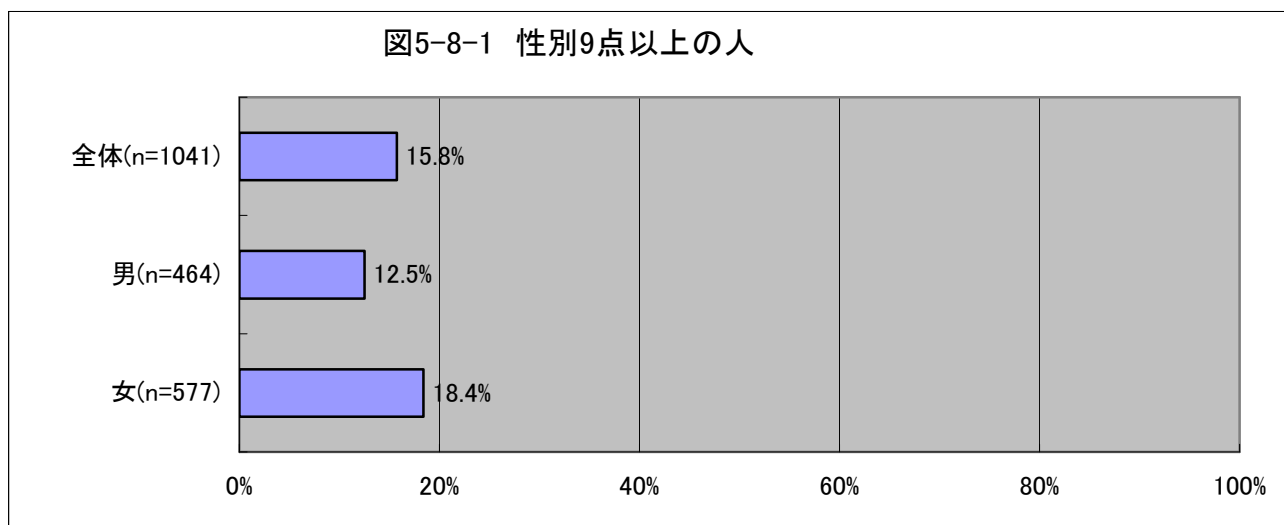
7) 悩みやストレスなどを相談したり、助けを求めることを恥ずかしいと思うか

「相談することを恥ずかしいと思うか」について、「思う」は全体で 12.5%、性別にみると男性は 14.3%、女性は 11.1%であった。年齢別にみると、70 歳以上が 16.3%で最も高かった。（図 5-7-1）（図 5-7-2）



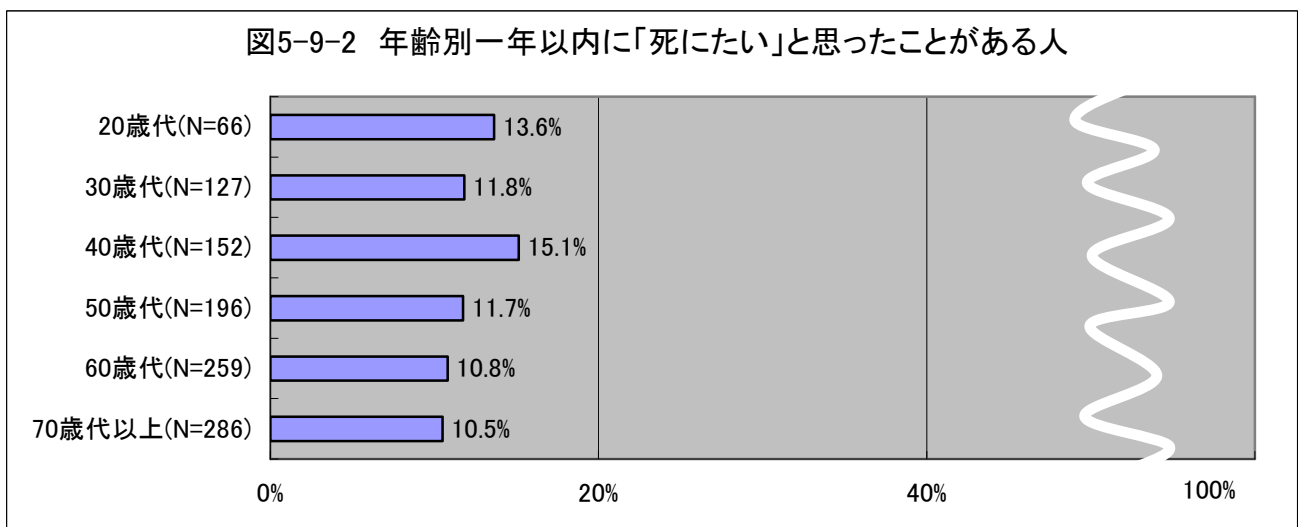
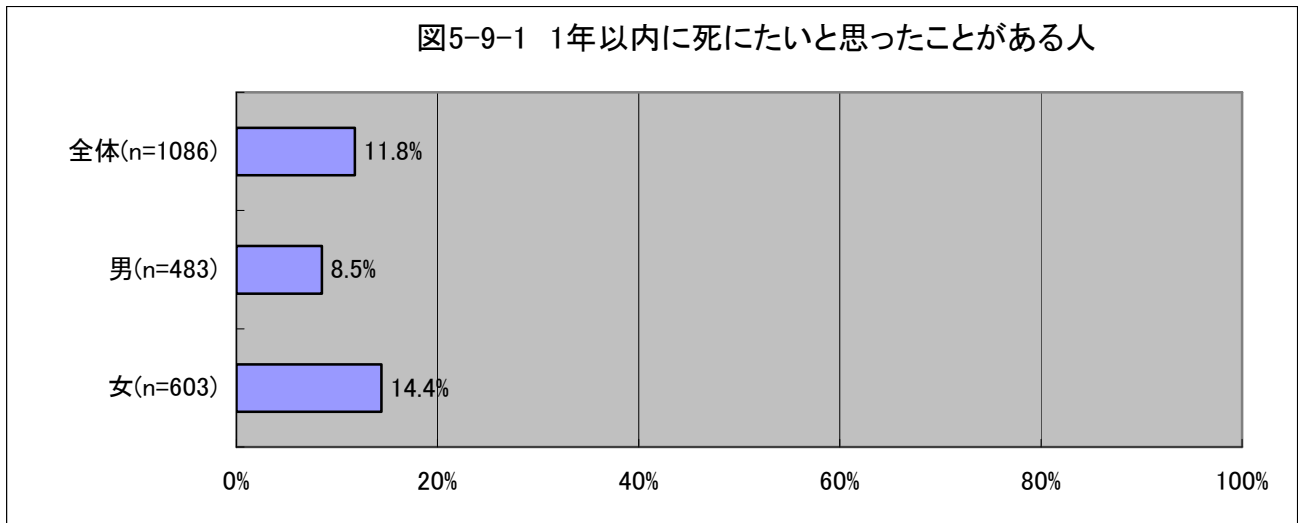
8) 過去1ヶ月間の精神状態 [K6の結果]

過去1ヶ月間の精神状態についての質問は、「神経過敏を感じるか」「絶望的に感じるか」「そわそわしたり、落ち着かなく感じるか」「気分が沈み込むか」「何をするのも骨折りと感じるか」「自分は価値のない人間だと感じるか」の6項目で、項目に対する回答の合計得点が9点以上で精神状態が不調である疑いがあるとされている。9点以上は全体で15.8%、性別にみると男性は12.5%、女性は18.4%であった。年齢別にみると、40歳代が22.8%と最も高く、次いで30歳代19.8%、20歳代18.5%であった。(図5-8-1)(図5-8-2)



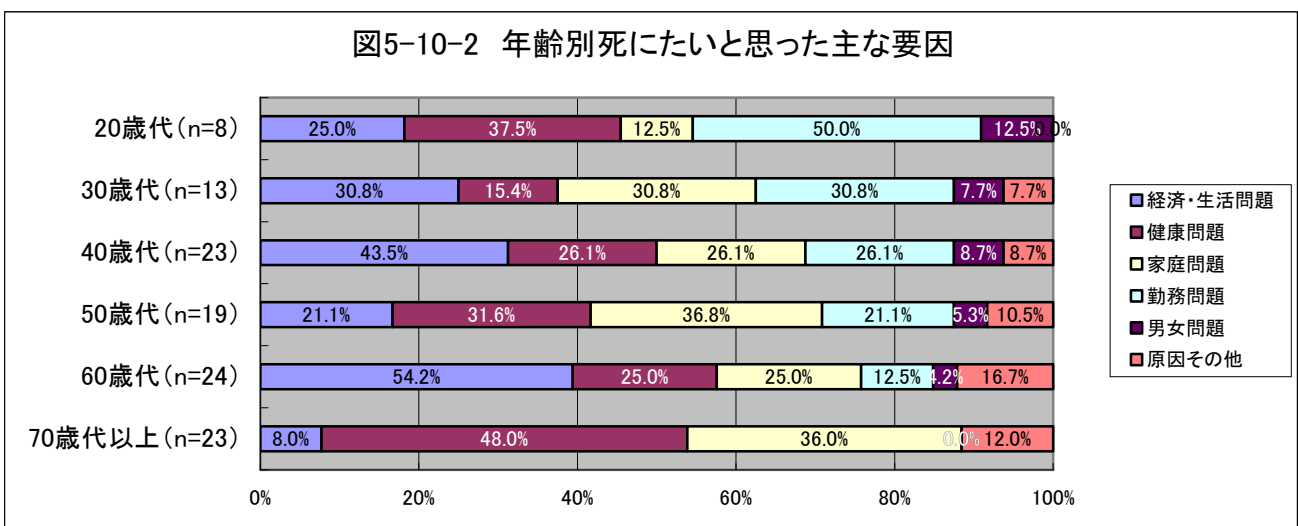
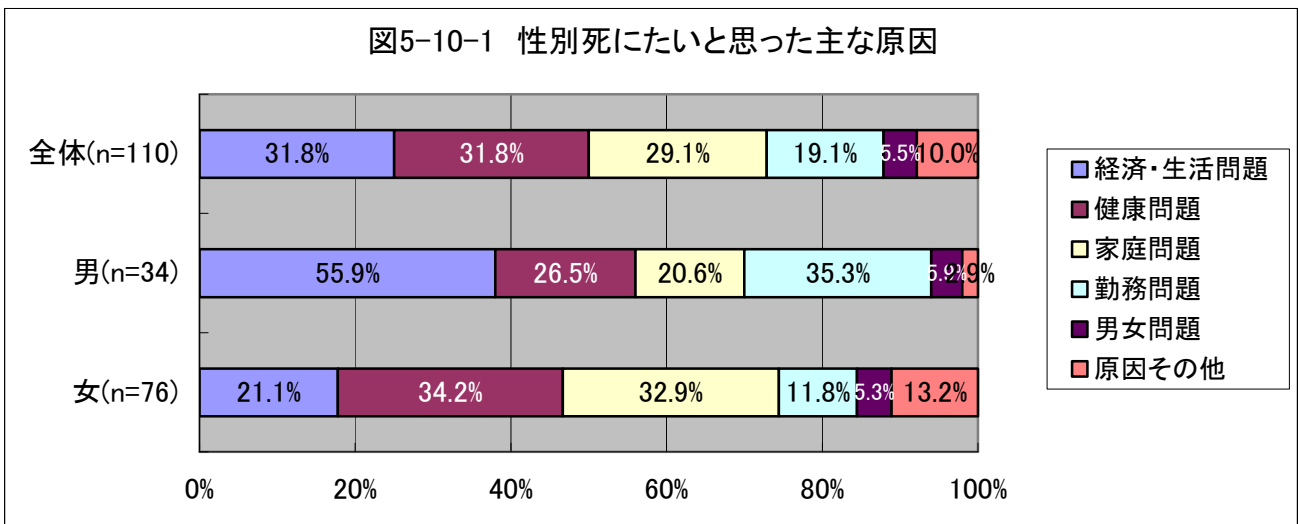
9)最近1年以内に「死にたい」と思ったことがあるか

「死にたい」と思ったことがあるかについて、「ある」は全体で 11.8%、性別にみると男性 8.5%、女性 14.4%であった。年齢別にみると、40 歳代が 15.1%と最も高く、次いで 20 歳代 13.6%であった。（図 5-9-1）（図 5-9-2）



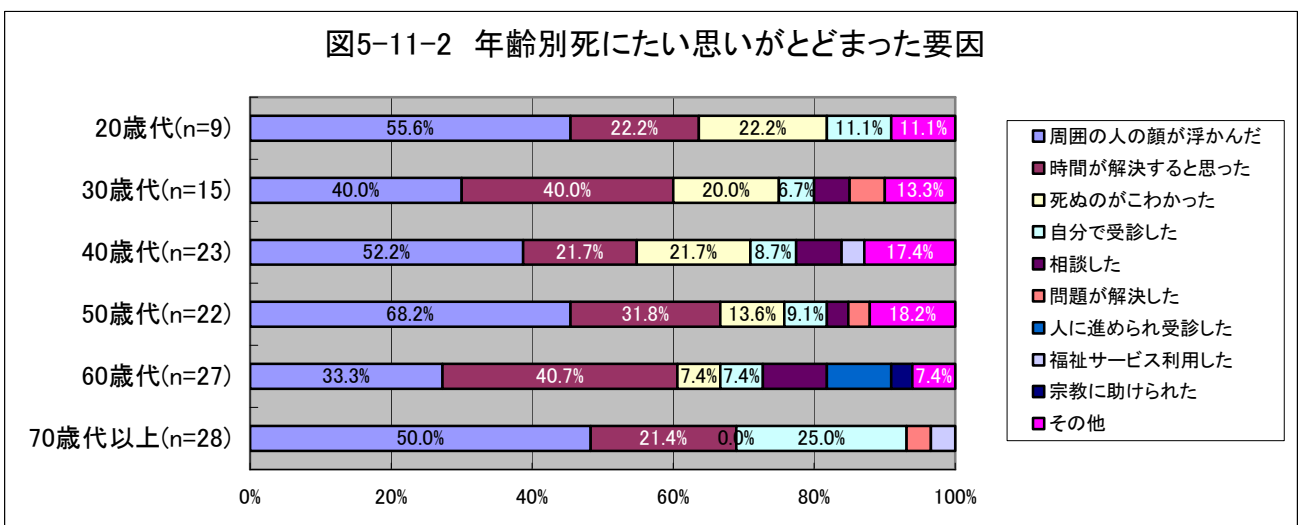
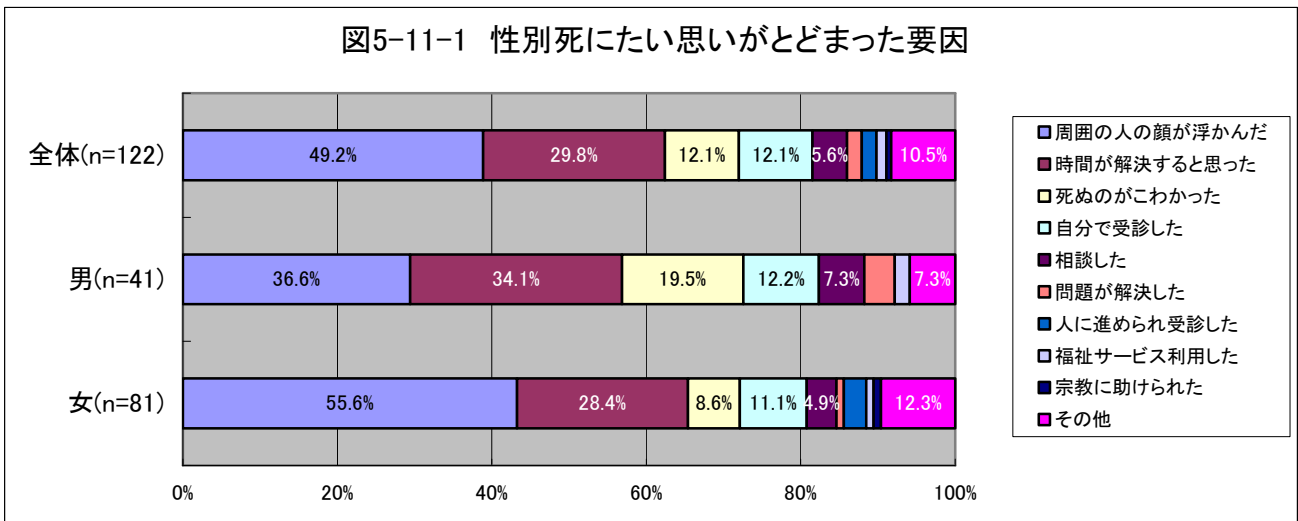
10) 「死にたい」と思った主な原因

「死にたい」と思った主な原因について、全体で「経済・生活問題」及び「健康問題」が最も高く、次いで「家庭問題」「勤務問題」の順であった。性別にみると、男性は「経済・生活問題」「勤務問題」「健康問題」の順であった。女性は「健康問題」「家庭問題」「経済・生活問題」の順であった。年齢別にみると、「経済・生活問題」は60歳代が最も高く、「健康問題」は70歳代が最も高かった。（図5-10-1）（図5-10-2）



11) 「死にたい」気持ちがとどまった要因

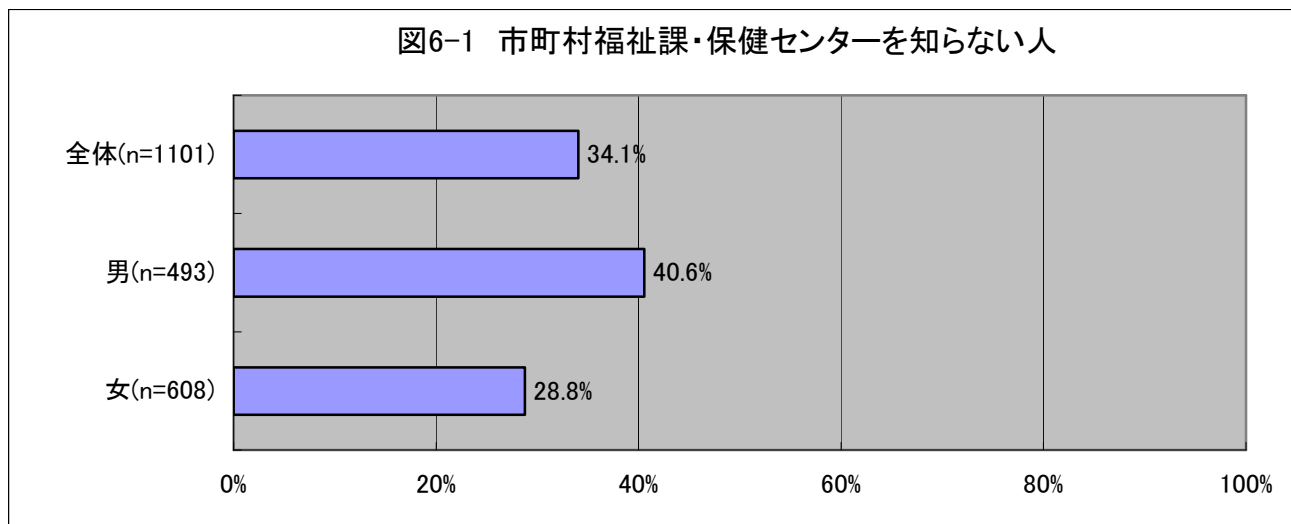
「死にたい」気持ちがとどまった要因について、全体で「周囲の人の顔が浮かんだ、声かけがあった」が最も高く、次いで「時間が解決すると思直した」「死ぬのがこわかった」及び「自ら医療機関を受診した」の順であった。性別にみると、男性は「周囲の人の顔が浮かんだ、声かけがあった」が最も高く、次いで「時間が解決すると思直した」「死ぬのがこわかった」の順であった。女性は「周囲の人の顔が浮かんだ、声かけがあった」が最も高く、次いで「時間が解決すると思直した」「自ら医療機関を受診した」の順であった。年齢別にみると、「周囲の人の顔が浮かんだ、声かけがあった」は50歳代が最も高く、「死ぬのがこわかった」は20歳代が最も高かった。「自ら医療機関を受診した」は70歳代以上が最も高かった。(図5-11-1) (図5-11-2)



6.和歌山県内にある相談窓口の認知度について

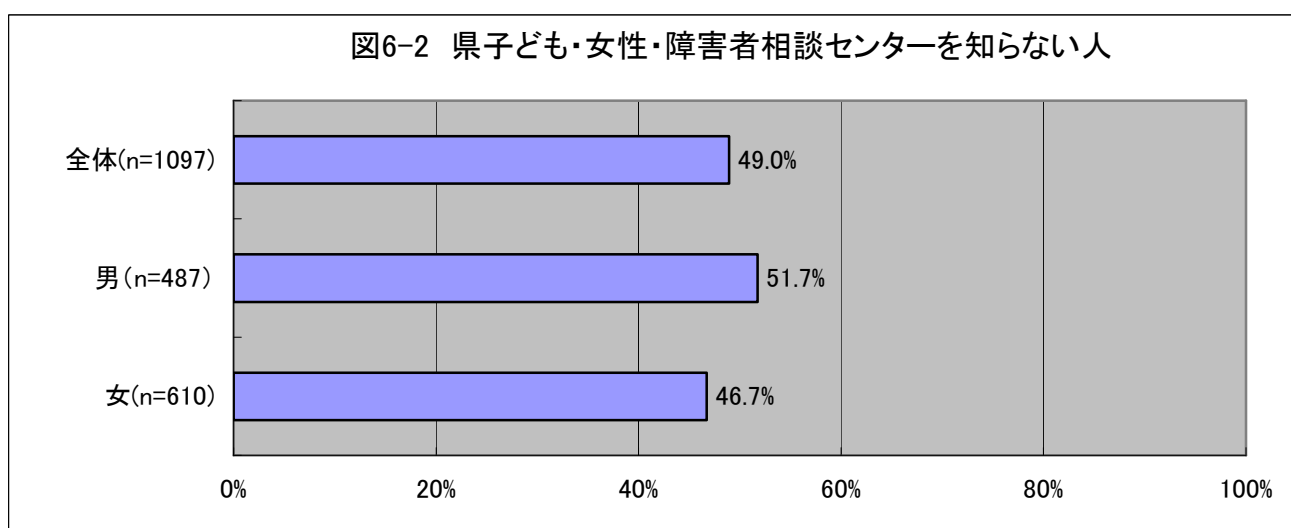
1) 市町村役場内の福祉課、保健センター

市町村役場内の福祉課、保健センターについて、「知らない」は 34.1%であった。性別にみると男性は 40.6%、女性は 28.8%であった。(図 6-1)



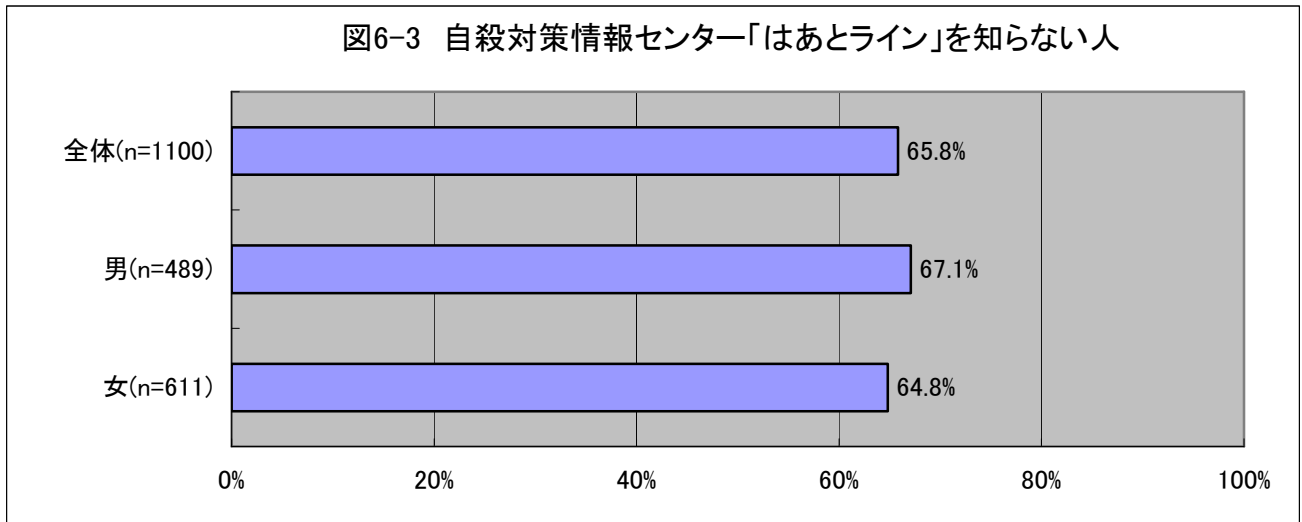
2) 県子ども・女性・障害者相談センター

県子ども・女性・障害者相談センターについて、「知らない」は 49.0%であった。性別にみると男性は 51.7%、女性は 46.7%であった。年齢別にみると、年齢が低いほど「知らない」割合が高かった。(図 6-2)



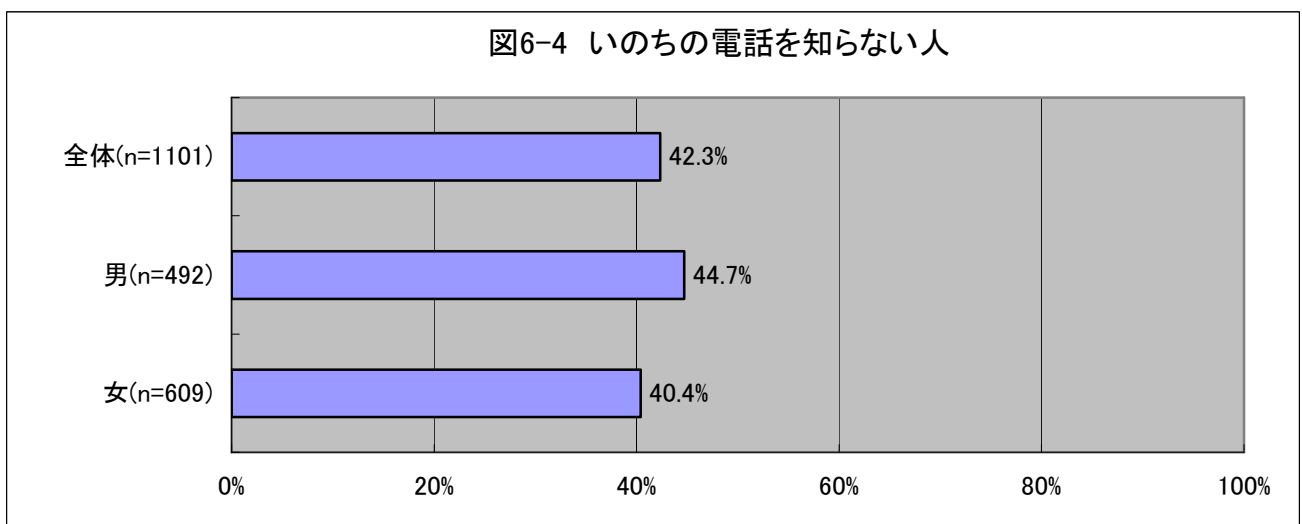
3) 自殺対策情報センター「はあとライン」

自殺対策情報センター「はあとライン」について、「知らない」は 65.8%であった。性別にみると男性は 67.1%、女性は 64.8%であった。(図 6-3)



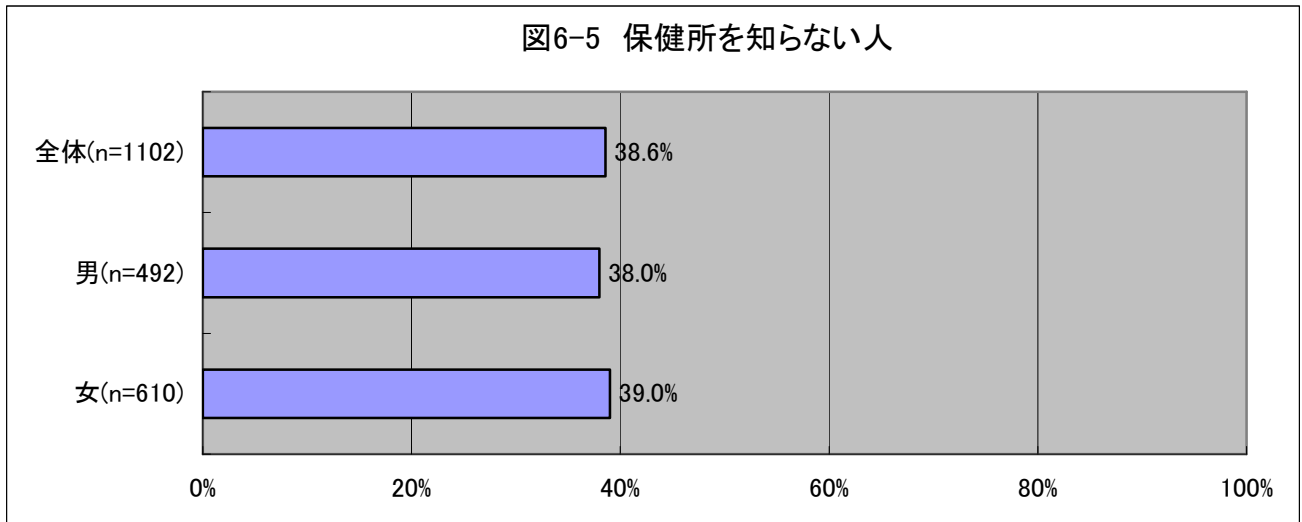
4) いのちの電話

いのちの電話について、「知らない」は 42.3%であった。性別にみると男性は 44.7%、女性は 40.4%であった。(図 6-4)



5) 保健所

保健所については、「知らない」は 38.6%であった。性別にみるとは男性は 38.0%、女性は 39.0%であった。(図 6-5)



Ⅲ. 「1年以内に死にたいと考えたことがある」に関連する要因

1.対象者の属性について

「1年以内に死にたいと考えたことがある（以下、「死にたい」気持ち）」のある人は133名で、ない人は965名であった。

性別には「女性」で、家族構成別には「単身」で、最終学歴別では、「小・中学校」で、現在の暮らしの状況別には「苦しい（大変苦しい+やや苦しい）」で、「死にたい」気持ちが高かった。また、要介護者の有無別では「有」で、世帯の合計年収（税込）別では、「200万円以下」で高かった。

一方、婚姻状況別では、「配偶者あり」で、自分の幸せ度合別では、「幸せ（とても幸せ+まあまあ幸せ）」で「死にたい」気持ちが低かった。（表2-1）

表2-1 「死にたい」気持ちと属性について

		「死にたい」気持ち		回答数 (人)
		ある(人) n=133	なし(人) n=965	
性別	**			
	男	41 (32.0%)	442 (46.1%)	483
	女	87 (68.0%)	516 (53.9%)	603
年齢別				
	20歳代	9 (6.9%)	57 (5.9%)	66
	30歳代	15 (11.5%)	112 (11.7%)	127
	40歳代	23 (17.7%)	129 (13.4%)	152
	50歳代	23 (17.7%)	173 (18.0%)	196
	60歳代	28 (21.5%)	232 (24.1%)	260
	70歳以上	32 (24.6%)	258 (26.8%)	290
圏域別				
	紀北(和歌山、海草、伊都、那賀)	75 (59.1%)	513 (54.3%)	588
	紀中(有田、日高)	18 (14.2%)	186 (19.7%)	204
	紀南(西牟婁、東牟婁)	34 (26.8%)	245 (26.0%)	279
仕事の形態				
	正規雇用・自営業	43 (34.1%)	383 (40.1%)	426
	派遣・契約・パートなど	17 (13.5%)	137 (14.3%)	154
	専業主婦・主夫・無職	62 (49.2%)	392 (41.0%)	454
	その他	4 (3.2%)	43 (4.5%)	47
家族構成	**			
	単身	26 (19.8%)	78 (8.1%)	104
婚姻状況	**			
	未婚・死別・離別など	57 (44.2%)	253 (26.5%)	310
最終学歴	**			
	小・中学校	39 (29.8%)	156 (16.3%)	195
暮らし	**			
	大変苦しい+やや苦しい	65 (49.6%)	213 (22.2%)	278
幸せ度合	**			
	あまり幸せでない+全く幸せでない	59 (45.0%)	67 (7.0%)	126
要介護者の有無	**			
	いる	30 (23.6%)	130 (13.6%)	160
小学校入学前の子どもの有無				
	いる	5 (3.9%)	86 (9.0%)	91
世帯収入	**			
	200万円未満	54 (43.9%)	162 (17.3%)	216
	200万～400万円	37 (30.1%)	378 (40.4%)	415
	400万～700万円	22 (17.9%)	263 (28.1%)	285
	700万円以上	10 (8.1%)	133 (14.2%)	143

χ^2 検定 ** : P<0.01 未回答を除く

2.健康状態や生活習慣について

現在の健康状態については、「健康でない（あまり健康でない+健康でない）」で、最近1カ月の睡眠状態及び睡眠時間については、「眠れていない（あまり眠れていない+眠れていない）」及び「4時間未満の睡眠時間」で、ストレスによる受診経験については、「あり（受診している+過去に受診したことがある）」で、飲酒の状況については、「飲酒を減らさなければいけないと思ったことがある」「飲酒を批判されて腹が立ったり、いらだったりしたことがある」「飲酒に後ろめたい気持ちや罪悪感をもったことがある」「朝酒や迎え酒を飲んだことがある」のうち、2項目以上にあてはまるもので、「死にたい」気持ちが高かった。（表2-2）

表2-2 「死にたい」気持ちと健康状態や生活習慣について

	「死にたい」気持ち			
	ある(人) n=133	(%)	なし(人) n=965	(%)
健康でない(あまり健康でない+健康でない)	58	43.9	128	13.3 **
医療機関を受診(定期受診+心配あれば受診)	83	62.9	520	54.0
眠れていない(あまり眠れていない+眠れていない)	58	43.6	183	19.1 **
睡眠時間(4時間未満)	20	15.2	22	2.3 **
ストレスによる受診経験あり(受診している+過去に受診した)	50	37.8	86	8.9 **
飲酒あり	57	44.9	481	50.9
飲酒の頻度(ほとんど毎日飲む)	27	49.1	278	58.5
飲酒の人数(1人)	32	59.3	283	59.8
飲む量(日本酒1合未満)	36	66.7	267	56.1
飲酒の状況(CAGE2項目以上:依存症の疑あり)	15	28.3	73	15.8 *

χ^2 検定 **: $P<0.01$ 、*: $P<0.05$

3.地域生活について

「地域は居心地がよいと思わない」「地域の問題を住人が自ら解決できると思わない」「地域に住む人々が良い関係を保っているとは思わない」で「死にたい」気持ちが高かった。

一方、地域の人にどう思われているか気になるについては、「思わない（どちらかといえば思わない+思わない）」で「死にたい」気持ちが低かった。

また、思わない、どちらかといえば思わない、どちらかといえば思う、思うを1点～4点に得点化し（ただし、地域の人にどう思われているか気になるの項目は逆転）5項目の合計点の平均値を比較すると、「死にたい」気持ちがある人は13.0点で、ない人14.8点に比べて低かった。（表2-3）

表2-3 「死にたい」気持ちと地域生活について

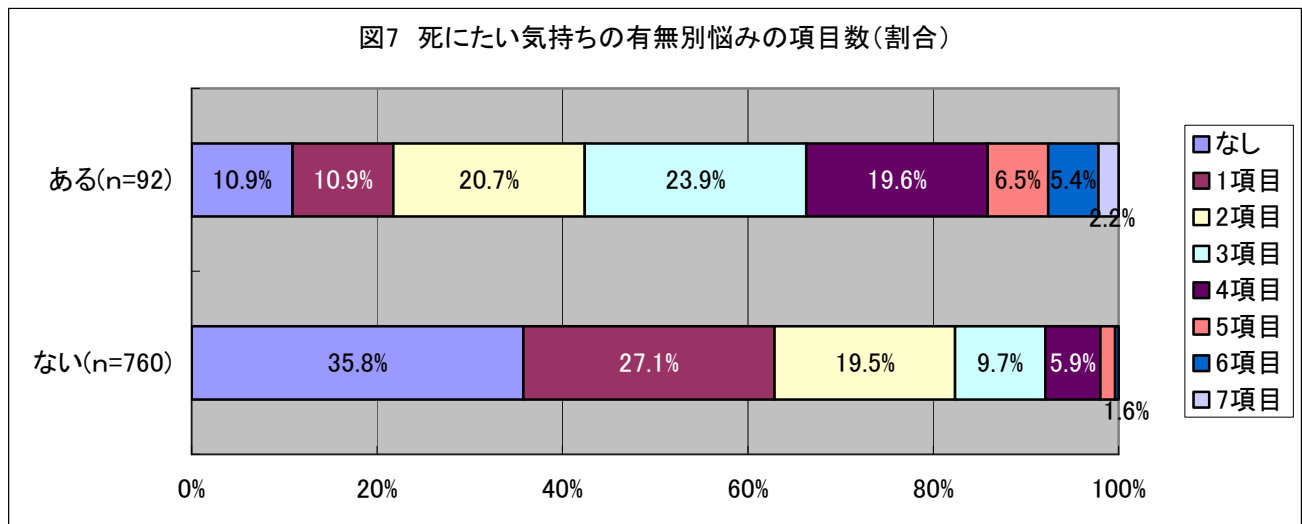
	ある(人) n=133	「死にたい」気持ち		(%)
		(%)	なし(人) n=965	
地域は居心地がよいと思わない	44	34.1	99	10.5 **
地域住人があなたのことを知っていると思わない	61	48.0	391	41.6
地域の人にどう思われているかが気になると思わない	72	57.1	737	78.8 **
地域の問題を住人が自ら解決できると思わない	64	50.8	340	36.6 **
地域に住む人々が良い関係を保っていると思わない	52	41.3	178	18.9 **

χ^2 検定 **：P<0.01、*：P<0.05

各項目は「思わない」+「どちらかといえば思わない」の合計人数

4.悩みやストレスについて

悩みやストレスについての7項目（複数回答）のうち、「死にたい」気持ちが「ある」は、3項目を選択している割合が23.9%と最も高かった。気持ちが「ない」は、なしを選択している割合が35.8%と最も高かった。平均値について、「死にたい」気持ちが「ある」は2.8項目で、気持ちが「ない」は1.3項目であった。（図7）



家庭問題、健康問題、経済生活問題、職場や仕事に関する問題、その他について「あり」は「なし」より「死にたい」気持ちが高かった。

過去1ヶ月間の精神状態については、「神経過敏に感じるか」「絶望的に感じるか」「そわそわしたり、落ち着かなく感じるか」「気分が沈み込むか」「何をするのも骨折りと感じるか」「自分は価値のない人間だと感じるか」の6項目の合計得点が9点以上のものは、8点以下のものより「死にたい」気持ちが高かった。

悩みやストレスについて相談できる人の有無については、「いない」は「いる」より「死にたい」気持ちが高かった。

悩みやストレスなどを相談したり、助けを求めることを恥ずかしいと思うかについては、「思う」は「思わない」より「死にたい」気持ちが高かった。（表2-4）

表2-4 「死にたい」気持ちと悩みやストレスについて

	「死にたい」気持ち			
	ある(人) n=133	(%)	なし(人) n=965	(%)
家庭問題ある	89	70.1	346	36.5 **
健康問題ある	94	73.4	302	34.3 **
経済生活問題ある	54	43.5	118	13.3 **
職場などの問題ある	54	49.5	236	27.3 **
男女問題ある	23	20.7	32	3.7 **
学校問題ある	9	8.9	19	2.3 **
その他の問題がある	50	43.5	86	10.5 **
精神状態 9点以上	74	62.2	87	9.5 **
相談できる人	86	66.7	817	86.4 **
相談することは恥ずかしいと思う	39	30.7	99	10.4 **

χ^2 検定 **: $P<0.01$

各項目はありの人数

5.和歌山県内にある相談窓口の認知度について

1)市町村役場内の福祉課、保健センター及び保健所について、「死にたい」気持ちのある群の方が、「知らない」割合が高かった。(表 2-5)

表2-5 「死にたい」気持ちと相談窓口について

	「死にたい」気持ち			
	ある(人) n=133	(%)	なし(人) n=965	(%)
市町村役場内の福祉課、保健センターを知らない	58	44.6	308	32.3 **
県子ども・女性・障害者相談センターを知らない	71	55.9	459	48.1
自殺対策情報センター「はあとライン」を知らない	90	68.7	622	65.1
いのちの電話を知らない	58	44.3	394	41.3
保健所を知らない	63	48.1	351	36.7 *

χ^2 検定 **: $P<0.01$ 、*: $P<0.05$

各項目は「知らない」の合計人数

IV. まとめ

和歌山県において、「死にたい」気持ちのある人は、回答者の約1割であることがわかった。

「死にたい」気持ちについては、健康状態、睡眠状態及び対処行動である飲酒状況の悪化、悩みやストレスを複数以上かかえている場合と関連があった。また、現在の生活が苦しい、自分の幸せ感がないと感じている場合とも関連があった。

一方、「死にたい」気持ちがない人ほど、地域は居心地がよい、地域に問題解決力がある、地域に住む人々がよい関係を保っていると思っている場合や相談者がいること、地域の身近な相談窓口を知っていることと関連があった。

悩みやストレスが重なることで「死にたい」と思うリスクは高まり、相談者がいること、地域とのつながりがあること、身近な相談窓口を知っていることでリスクが下がることが示唆された。

調査結果から、自殺予防の対策としては、相談機関の周知や、悩んでいる人に気付き、見守ることができる人（ゲートキーパー）の育成など、相談しやすい環境づくりが重要と考える。

